茨城県教育財団文化財調査報告第146集

伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書4

前田村遺跡G・H・I区
(中　巻)

平成11年3月

茨　　城　　県
財団法人　茨城県教育財団

210.23
Y67
(NK)

茨城県教育財団文化財調査報告第146集

伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書4

前田村遺跡（まえだむら）G・H・I区
（中　巻）

平成11年3月

茨城県
財団法人　茨城県教育財団

寄贈
平成　年　月　日
歴史・人類学系

0C603030

目　　次

－中　巻－

第4節　H区の遺構と遺物 …… 397
1　縄文時代の遺構と遺物 …… 397
（1）竪穴住居跡 …… 398
（2）土坑墓 …… 432
（3）土坑 …… 433
（4）焼土遺構 …… 563
（5）埋設遺構 …… 564
2　古墳時代の遺構と遺物 …… 565
（1）竪穴住居跡 …… 565
3　中・近世の遺構と遺物 …… 590
（1）方形竪穴状遺構 …… 591
（2）長方形土坑 …… 599
（3）地下式壙 …… 604
（4）井戸 …… 610
（5）堀 …… 613
（6）溝 …… 616
（7）ピット群 …… 618
4　遺構外出土遺物 …… 619
第5節　I区の遺構と遺物 …… 633
1　縄文時代の遺構と遺物 …… 634
（1）竪穴住居跡 …… 634

挿図目次

H区

第341図　H区南東部遺構配置図 …… 397
第342図　第419号住居跡・出土遺物実測図 … 398
第343図　第421号住居跡実測図 …… 399
第344図　第421号住居跡出土遺物実測図 …… 400
第345図　第422号住居跡・出土遺物実測図 … 402
第346図　第424号住居跡・出土遺物実測図 … 403
第347図　第425号住居跡実測図 …… 404
第348図　第427・428号住居跡実測図 …… 405
第349図　第427号住居跡出土遺物実測図 …… 406
第350図　第428号住居跡出土遺物実測図 …… 407
第351図　第429号住居跡実測図 …… 408
第352図　第429号住居跡出土遺物実測図 …… 409
第353図　第430号住居跡・出土遺物実測図 … 410
第354図　第431号住居跡実測図 …… 411
第355図　第431号住居跡出土遺物実測図(1) … 413
第356図　第431号住居跡出土遺物実測図(2) … 414
第357図　第432号住居跡・出土遺物実測図 … 415
第358図　第433・435・436号
　住居跡実測図(1) …… 416
第359図　第433・435・436号
　住居跡実測図(2) …… 417
第360図　第433号住居跡出土遺物実測図 …… 418
第361図　第435号住居跡出土遺物実測図 …… 419
第362図　第436号住居跡出土遺物実測図 …… 420
第363図　第437・438号住居跡実測図 …… 421
第364図　第438号住居跡出土遺物実測図 …… 422
第365図　第439号住居跡・出土遺物実測図 … 423
第366図　第440号住居跡実測図 …… 423
第367図　第452号住居跡・出土遺物実測図 … 424
第368図　第478号住居跡・出土遺物実測図 … 425
第369図　第499号住居跡・出土遺物実測図 … 426
第370図　第500号住居跡・出土遺物実測図 … 427
第371図　第501号住居跡実測図 …… 429
第372図　第501号住居跡出土遺物実測図 …… 430
第373図　第2463号土坑実測図 …… 432
第374図　第2357号土坑・出土遺物実測図 …… 433
第375図　第2361号土坑・出土遺物実測図 …… 434
第376図　第2364号土坑・出土遺物実測図(1) … 436
第377図　第2364号土坑出土遺物実測図(2) …… 437
第378図　第2364号土坑出土遺物実測図(3) …… 438
第379図　第2364号土坑出土遺物実測図(4) …… 439
第380図　第2365号土坑・出土遺物実測図(1) … 441
第381図　第2365号土坑出土遺物実測図(2) …… 442
第382図　第2366号土坑・出土遺物実測図 …… 443
第383図　第2370号土坑・出土遺物実測図 …… 444
第384図　第2372号土坑・出土遺物実測図 …… 445
第385図　第2374号土坑・出土遺物実測図 …… 446
第386図　第2375号土坑・出土遺物実測図 …… 447
第387図　第2376号土坑・出土遺物実測図 …… 448
第388図　第2377号土坑・出土遺物実測図 …… 449
第389図　第2378号土坑・出土遺物実測図 …… 450
第390図　第2380号土坑・出土遺物実測図 …… 451
第391図　第2383号土坑・出土遺物実測図 …… 451
第392図　第2388号土坑・出土遺物実測図 …… 453
第393図　第2389号土坑・出土遺物実測図 …… 454
第394図　第2390・2392号土坑実測図 …… 454
第395図　第2390号土坑出土遺物実測図 …… 455
第396図　第2392号土坑出土遺物実測図 …… 456
第397図　第2394号土坑・出土遺物実測図 …… 457
第398図　第2396・2397号土坑実測図 …… 458
第399図　第2396号土坑出土遺物実測図 …… 459
第400図　第2397号土坑出土遺物実測図 …… 459
第401図　第2399号土坑・出土遺物実測図 …… 461
第402図　第2401号土坑・出土遺物実測図(1) … 463
第403図　第2401号土坑出土遺物実測図(2) …… 464
第404図　第2408号土坑・出土遺物実測図 …… 465
第405図　第2415号土坑・出土遺物実測図 …… 467
第406図　第2418号土坑・出土遺物実測図 …… 467
第407図　第2427号土坑・出土遺物実測図 …… 468

第408図　第2429号土坑・出土遺物実測図 …… 469
第409図　第2432号土坑・出土遺物実測図 …… 470
第410図　第2433号土坑・出土遺物実測図 …… 471
第411図　第2444・2445号土坑実測図 …… 471
第412図　第2444号土坑出土遺物実測図 …… 472
第413図　第2445号土坑出土遺物実測図 …… 473
第414図　第2446号土坑・出土遺物実測図 …… 474
第415図　第2451号土坑・出土遺物実測図 …… 475
第416図　第2456号土坑・出土遺物実測図 …… 476
第417図　第2459号土坑・出土遺物実測図 …… 477
第418図　第2461・2462号土坑実測図 …… 478
第419図　第2461号土坑出土遺物実測図 …… 478
第420図　第2462号土坑出土遺物実測図 …… 479
第421図　第2465号土坑・出土遺物実測図 …… 480
第422図　第2468号土坑・出土遺物実測図 …… 481
第423図　第2472号土坑・出土遺物実測図 …… 482
第424図　第2474号土坑・出土遺物実測図 …… 483
第425図　第2475号土坑・出土遺物実測図 …… 484
第426図　第2486号土坑・出土遺物実測図 …… 486
第427図　第2492号土坑・出土遺物実測図 …… 487
第428図　第2493号土坑・出土遺物実測図(1) … 488
第429図　第2493号土坑出土遺物実測図(2) …… 489
第430図　第2495号土坑・出土遺物実測図 …… 490
第431図　第2497号土坑・出土遺物実測図 …… 491
第432図　第2498号土坑・出土遺物実測図 …… 493
第433図　第2499号土坑・出土遺物実測図 …… 494
第434図　第2502号土坑・出土遺物実測図 …… 495
第435図　第2507号土坑・出土遺物実測図 …… 497
第436図　第2510号土坑・出土遺物実測図 …… 497
第437図　第2512号土坑・出土遺物実測図 …… 498
第438図　第2514号土坑・出土遺物実測図 …… 499
第439図　第2515号土坑・出土遺物実測図 …… 500
第440図　第2516号土坑・出土遺物実測図 …… 500
第441図　第2521号土坑・出土遺物実測図 …… 501
第442図　第2524号土坑・出土遺物実測図 …… 503
第443図　第2541号土坑・出土遺物実測図 …… 504
第444図　第2567号土坑・出土遺物実測図 …… 505
第445図　第2764号土坑・出土遺物実測図 …… 506
第446図　第2772号土坑・出土遺物実測図 …… 507
第447図　第2773号土坑・出土遺物実測図 …… 508
第448図　第2775号土坑・出土遺物実測図 …… 509
第449図　第2799号土坑・出土遺物実測図 …… 510
第450図　第2807号土坑・出土遺物実測図 …… 511
第451図　第2811号土坑・出土遺物実測図 …… 512
第452図　第2826・2827号土坑実測図 …… 512
第453図　第2826号土坑出土遺物実測図 …… 513
第454図　第2839号土坑・出土遺物実測図 …… 514
第455図　第2840号土坑・出土遺物実測図 …… 515
第456図　第2841号土坑・出土遺物実測図 …… 516
第457図　第2844号土坑・出土遺物実測図(1) … 518
第458図　第2844号土坑出土遺物実測図(2) …… 519
第459図　第2848号土坑・出土遺物実測図 …… 520
第460図　第2853号土坑・出土遺物実測図(1) … 521
第461図　第2853号土坑出土遺物実測図(2) …… 522
第462図　第2854・2856号土坑実測図 …… 523
第463図　第2854号土坑出土遺物実測図 …… 523
第464図　第2856号土坑出土遺物実測図 …… 524
第465図　第2858号土坑・出土遺物実測図 …… 525
第466図　第2859号土坑・出土遺物実測図 …… 527
第467図　第2862号土坑・出土遺物実測図 …… 529
第468図　第2867号土坑・出土遺物実測図 …… 531
第469図　第2870号土坑・出土遺物実測図 …… 532
第470図　第2871・2875号土坑実測図 …… 533
第471図　第2871号土坑出土遺物実測図 …… 533
第472図　第2899号土坑・出土遺物実測図 …… 535
第473図　第2900号土坑・出土遺物実測図 …… 536
第474図　第2905号土坑・出土遺物実測図 …… 537
第475図　第2910号土坑・出土遺物実測図 …… 538
第476図　第2912号土坑・出土遺物実測図 …… 539
第477図　第2914号土坑・出土遺物実測図 …… 539
第478図　第2918号土坑・出土遺物実測図 …… 540
第479図　第2920号土坑・出土遺物実測図 …… 541
第480図　第2927号土坑・出土遺物実測図 …… 542
第481図　第2931号土坑・出土遺物実測図 …… 543
第482図　第2932号土坑・出土遺物実測図 …… 544
第483図　第2934号土坑・出土遺物実測図 …… 545

第484図　第2937号土坑・出土遺物実測図 …… 546
第485図　第2939号土坑・出土遺物実測図 …… 547
第486図　第2945号土坑・出土遺物実測図(1) … 549
第487図　第2945号土坑出土遺物実測図(2) …… 550
第488図　第2946号土坑・出土遺物実測図 …… 551
第489図　第2952号土坑・出土遺物実測図 …… 552
第490図　第2954号土坑・出土遺物実測図 …… 553
第491図　第2960号土坑・出土遺物実測図 …… 554
第492図　第2966号土坑・出土遺物実測図 …… 555
第493図　第１号焼土遺構実測図 …… 563
第494図　第２号焼土遺構実測図 …… 564
第495図　第２号土器埋設遺構・
　出土遺物実測図 …… 564
第496図　第485号住居跡実測図 …… 565
第497図　第485号住居跡出土遺物実測図 …… 566
第498図　第486号住居跡実測図 …… 567
第499図　第486号住居跡出土遺物実測図 …… 568
第500図　第488号住居跡・掘り方実測図 …… 569
第501図　第488号住居跡出土遺物実測図 …… 571
第502図　第489号住居跡・出土遺物実測図 … 572
第503図　第490号住居跡・出土遺物実測図 … 573
第504図　第491号住居跡実測図 …… 574
第505図　第491号住居跡出土遺物実測図 …… 575
第506図　第492号住居跡実測図 …… 576
第507図　第492号住居跡掘り方実測図 …… 577
第508図　第492号住居跡出土遺物実測図 …… 578
第509図　第494号住居跡実測図 …… 579
第510図　第494号住居跡出土遺物実測図 …… 580
第511図　第495号住居跡実測図 …… 581
第512図　第495号住居跡掘り方実測図 …… 582
第513図　第495号住居跡出土遺物実測図 …… 584
第514図　第496号住居跡実測図 …… 585
第515図　第496号住居跡出土遺物実測図 …… 586
第516図　第498号住居跡実測図 …… 587
第517図　第498号住居跡出土遺物実測図 …… 588
第518図　第３号遺構群配置図 …… 590
第519図　第４号方形竪穴状遺構実測図 …… 591
第520図　第５・６・８号方形竪穴状
　遺構実測図 …… 592
第521図　第７号方形竪穴状遺構実測図 …… 593
第522図　第９号方形竪穴状遺構実測図 …… 594
第523図　第10号方形竪穴状遺構実測図 …… 595
第524図　第11号方形竪穴状遺構実測図 …… 597
第525図　第11号方形竪穴状
　遺構出土遺物実測図 …… 598
第526図　第2756・2759・2761・2879・2883・
　2940Ａ号土坑実測図 …… 600
第527図　第2940Ａ号土坑出土遺物実測図 …… 602
第528図　第25号地下式壙実測図 …… 604
第529図　第25号地下式壙出土遺物実測図 …… 605
第530図　第26号地下式壙実測図 …… 606
第531図　第27号地下式壙実測図 …… 607
第532図　第28号地下式壙実測図 …… 608
第533図　第29・30号井戸実測図 …… 610
第534図　第29号井戸出土遺物実測図 …… 611
第535図　第１号堀実測図 …… 613
第536図　第１号堀出土遺物実測図 …… 614
第537図　第２Ａ・Ｂ号堀実測図 …… 615
第538図　第２Ａ・Ｂ号堀出土遺物実測図 …… 615
第539図　第137号溝出土遺物実測図 …… 616
第540図　第130・131・134Ａ・135～139・141号
　溝実測図 …… 616
第541図　第１号ピット群実測図 …… 618
第542図　遺構外出土遺物実測図(1) …… 620
第543図　遺構外出土遺物実測図(2) …… 621
第544図　遺構外出土遺物実測図(3) …… 622
第545図　遺構外出土遺物実測図(4) …… 623
第546図　遺構外出土遺物実測図(5) …… 624
第547図　遺構外出土遺物実測図(6) …… 625
第548図　遺構外出土遺物実測図(7) …… 626
第549図　遺構外出土遺物実測図(8) …… 627

Ⅰ区
第550図　Ⅰ区全体図 …… 633
第551図　第441号住居跡・出土遺物実測図 … 635
第552図　第446号住居跡実測図 …… 636
第553図　第446号住居跡出土遺物実測図 …… 638
第554図　第447号住居跡・出土遺物実測図 … 639
第555図　第448号住居跡・出土遺物実測図 … 641
第556図　第450号住居跡実測図 …… 642
第557図　第450号住居跡出土遺物実測図 …… 644
第558図　第451号住居跡実測図 …… 645
第559図　第453号住居跡・出土遺物実測図 … 646
第560図　第454号住居跡・
出土遺物実測図(1) …… 648
第561図　第454号住居跡出土遺物実測図(2) … 649
第562図　第456号住居跡実測図 …… 649
第563図　第457号住居跡・出土遺物実測図 … 650
第564図　第458号住居跡・出土遺物実測図 … 652
第565図　第463号住居跡実測図 …… 654
第566図　第463号住居跡出土遺物実測図(1) … 656
第567図　第463号住居跡出土遺物実測図(2) … 657
第568図　第463号住居跡出土遺物実測図(3) … 658
第569図　第464Ａ・Ｂ号
住居跡実測図 …… 659・660
第570図　第464Ａ・Ｂ号住居跡
出土遺物実測図(1) …… 662
第571図　第464Ａ・Ｂ号住居跡
出土遺物実測図(2) …… 663
第572図　第464Ａ・Ｂ号住居跡
出土遺物実測図(3) …… 664
第573図　第464Ａ・Ｂ号住居跡
出土遺物実測図(4) …… 665
第574図　第464Ａ・Ｂ号住居跡
出土遺物実測図(5) …… 666
第575図　第464Ａ・Ｂ号住居跡
出土遺物実測図(6) …… 667
第576図　第464Ｂ号住居跡出土遺物実測図 … 669
第577図　第467号住居跡・出土遺物実測図 … 670
第578図　第471号住居跡実測図 …… 671
第579図　第475号住居跡実測図 …… 673
第580図　第475号住居跡出土遺物実測図(1) … 674
第581図　第475号住居跡出土遺物実測図(2) … 675
第582図　第475号住居跡出土遺物実測図(3) … 676
第583図　第476号住居跡実測図 …… 677
第584図　第477号住居跡実測図 …… 679
第585図　第477号住居跡出土遺物実測図 …… 680

表　目　次

表9　前田村遺跡H区縄文時代住居跡一覧表 …… 431
表10　前田村遺跡H区縄文時代土坑一覧表 …… 556
表11　前田村遺跡H区古墳時代住居跡一覧表 …… 589
表12　前田村遺跡H区方形竪穴状遺構一覧表 …… 598
表13　前田村遺跡H区中世土坑一覧表 …… 602
表14　前田村遺跡H区その他の土坑一覧表 …… 603
表15　前田村遺跡H区地下式壙一覧表 …… 609
表16　前田村遺跡H区溝一覧表 …… 617
表17　前田村遺跡Ⅰ区住居跡一覧表 …… 680

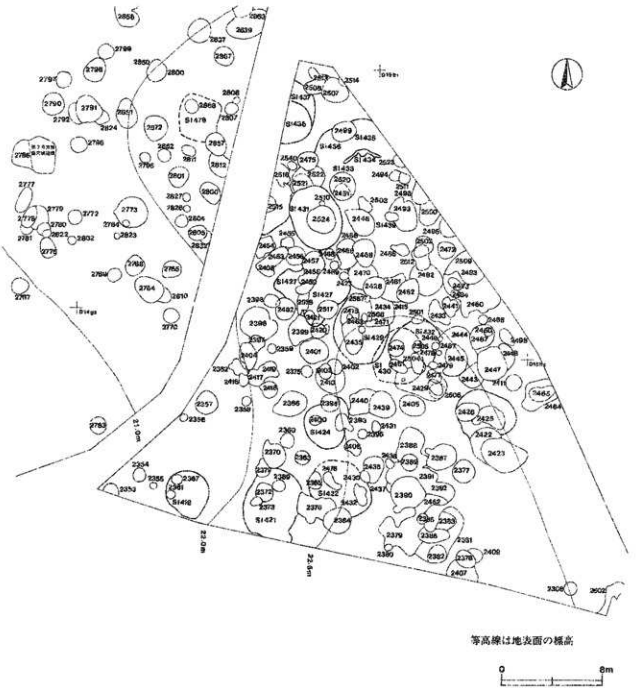
付　　図

付図1　前田村遺跡G区全体図
付図2　前田村遺跡H区全体図
付図3　前田村遺跡Ⅰ区全体図

第4節　H区の遺構と遺物

1　縄文時代の遺構と遺物

H区は，当遺跡のほぼ中央部の，南側から北側に向けて入り込む谷津の先端部の台地上に位置し，南部から南東部は谷津に向けて標高差約1.5mで緩やかに傾斜している。南東部は平成9年に報告されたD区と隣接しており，同時期の遺構が存在している。また，縄文時代の遺構の重複が著しい。遺構は竪穴住居跡23軒，土坑墓1基，土坑334基が検出されている。土坑については，出土遺物の残存状況が良好なもの及び形態に特徴を持つものを取り上げ，それ以外は一覧表で表記した。なお，遺構番号はD区東側に隣接するG区からの続きである。



第341図　H区南東部全体図

（1）竪穴住居跡

第419号住居跡（第342図）

位置　調査区の南東部，D14j7区。

重複関係　西壁を第2361号土坑，第2367号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長径3.61m，短径3.40mの楕円形である。

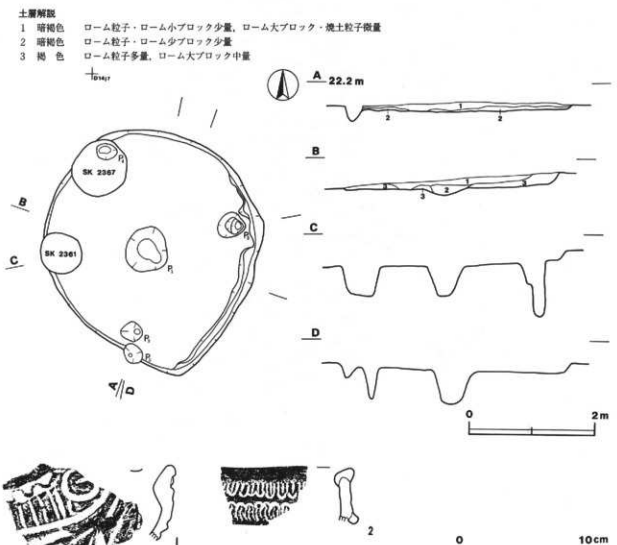
主軸方向　N－50°－W

壁　壁高は約8～20cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦である。

ピット　5か所。P_1は住居跡の中央に位置し，径70cmの円形で，深さは53cmである。P_2は，径42cmの円形で，深さは88cmである。P_3は径33cmの円形で，深さは52cmである。P_4は，長径33cm，短径26cmの楕円形で，深さは88cmである。いずれも主柱穴と考えられる。P_5は長径32cm，短径26cmの楕円形で，深さは18cmである。性格は不明である。

覆土　3層に分層される。3層にロームブロックが含まれるが，その堆積状況をみると壁の崩落及び周囲の土の流れ込みによるものと思われることから，自然堆積と考えられる。



第342図　第419号住居跡・出土遺物実測図

遺物　縄文土器片37点，獣骨片が出土している。第342図1は沈線区画内に渦巻文及び綾位の沈線が施され，口縁端部直下に交互刺突文が施されている。2は半截竹管による刺突文が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉(中峠式期)と考えられる。

第421号住居跡（第343図）

位置　調査区の南東部，D14ｉ8区。

重複関係　第2373号土坑を掘り込み，北側を第2371号土坑に掘り込まれ，中央北寄り部分の炉を第2369号土坑，第2372号土坑に掘り込まれている。

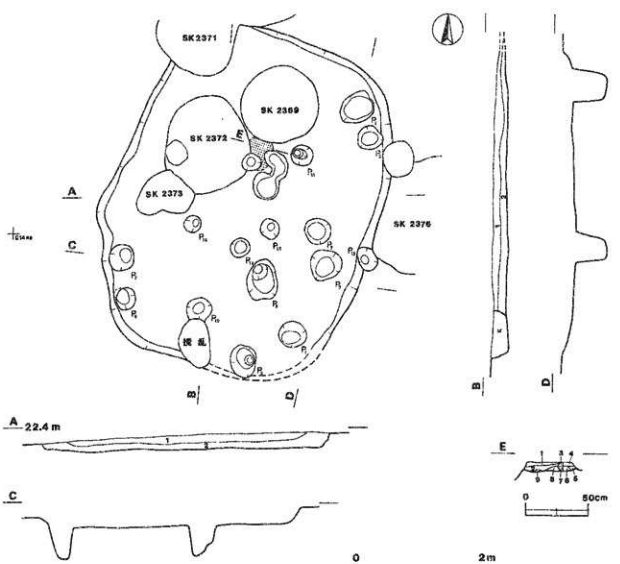
規模と平面形　長軸5.37m，短軸4.25mの隅丸長方形である。

主軸方向　［N－20°－E］

壁　壁高は16～26cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦である。

ピット　15か所。P_1～P_7は径35～55cmの円形で，深さは20～60cmである。規模と配列から主柱穴と考えられ



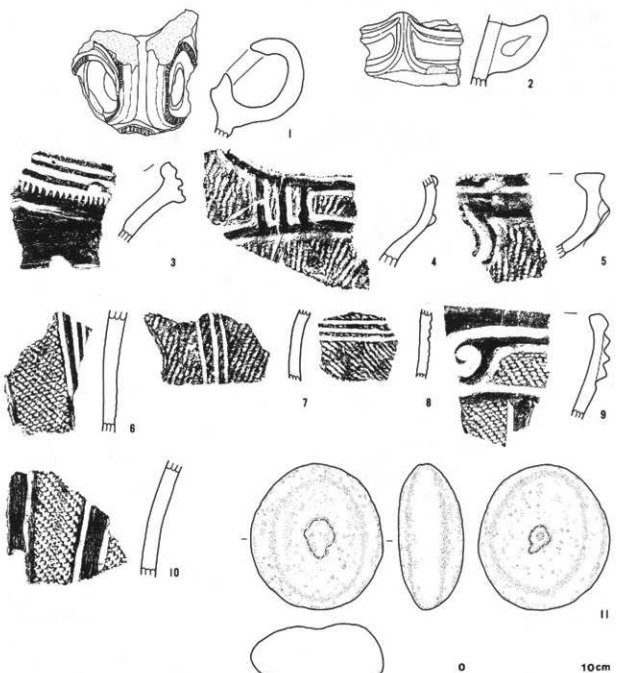
第343図　第421号住居跡実測図

る。P8は長径62cm，短径48cmの楕円形で，深さは50cmである。位置と規模から補助柱穴と考えられる。その他のピットの性格は不明である。

炉　中央より北側に付設されている。ピット及び土坑に掘り込まれているため，形態は不明である。床面を7cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

1　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，焼土粒子少量
3　褐　色　ローム小ブロック微量，焼土ブロック少量
4　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，焼土ブロック微量
5　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
6　褐　色　ローム粒子微量
7　明褐色　ローム小ブロック中量，焼土粒子微量
8　明褐色　ローム粒子微量，ローム小ブロック中量，焼土ブロック少量
9　明褐色　ローム粒子微量，ローム小ブロック中量



第344図　第421号住居跡出土遺物実測図

覆土　2層に分層される。各層にローム・ブロックを含み，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　明褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
2　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量

遺物　縄文土器片662点，磨石1点，獣骨片が出土している。第344図1，2の深鉢把手及び11の磨石は覆土から出土している。3はキザミが施され，沈線を巡らしている。4はRLの単節縄文を地文とし，隆帯により区画文を施している。5は沈線を有する隆帯文が施されている。6～8は深鉢の胴部片である。6は複節縄文を地文に3本沈線の磨消懸垂文が施されている。7，8は単節縄文を地文に3本一組の沈線が施されている。9は深鉢の口縁部片で，隆帯により区画文及び渦巻文が施され，区画内にLRの単節縄文が施されている。10は深鉢の胴部片で，複節縄文を地文に，幅広の沈線の磨消懸垂文が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利EⅠ～Ⅱ式期）と考えられる。

第421号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第344図1	深　鉢 縄文土器	B (10.0)	把手。孔に沿って隆帯及び沈線が施され，隆帯にはキザミが施されている。	長石・石英・スコリア にぶい褐色 普通	P1　5% 覆土 加曽利EⅠ式
2	深　鉢 縄文土器	B (5.5)	環状把手，沈線を有する隆帯文が施されている。	赤褐・石英・スコリア 黒褐色 普通	P2　10% 覆土 加曽利EⅠ式

図版番号	器　種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石　質	備　考
第344図11	磨　石	11.6	10.5	5.3	(769.0)	安 山 岩	Q1　覆土　凹石兼用

第422号住居跡（第345図）

位置　調査区の南東部，D14j0区。

重複関係　南側部分を第2364号土坑，第2376号土坑に掘り込まれ，西側部分を第2365号土坑に，東側部分を第2430号土坑，第2432号土坑に，中央部分を第2476号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長径〔5.11〕m，短径〔3.90〕mの楕円形と推定される。

主軸方向　N－33°－E

壁　北壁と東壁が残存しており，壁高は16cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦である。

ピット　2か所。P_1は径45cmの円形で，深さは61cmである。規模と位置から主柱穴と考えられる。P_2は径33cmの円形で，深さは93cmである。性格は不明である。

炉　東側に付設されている。焼土が確認されたのみで，東半分を土坑に掘り込まれているため形態は不明である。

覆土　6層に分層される。各層にローム・ブロックを含み，堆積状況から人為堆積と考えられる。

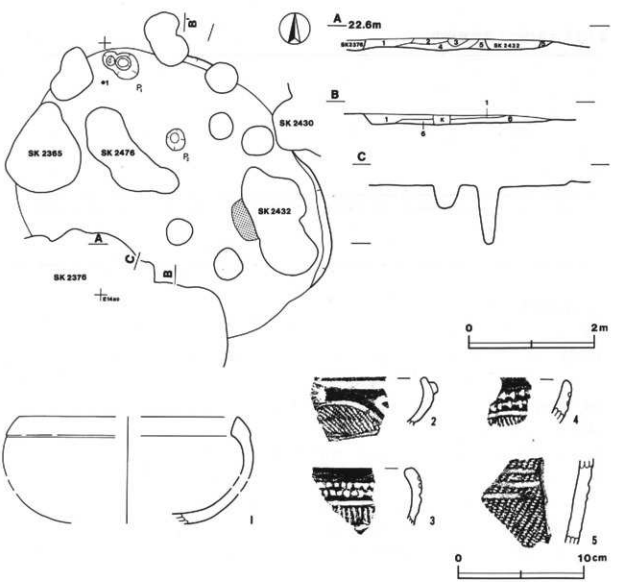
土層解説
1　赤 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子中量
2　赤 褐 色　ローム粒子・焼土小ブロック少量，焼土粒子中量
3　暗赤褐色　ローム粒子微量，焼土粒子少量
4　明赤褐色　ローム粒子・焼土小・大ブロック微量，焼土粒子中量
5　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
6　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化物微量

遺物　縄文土器片626点が出土している。第345図１の浅鉢は覆土から出土している。２～４は深鉢の口縁部片である。２は隆帯による区画内にＲＬの単節縄文が施されている。３，４は撚糸文を地文とし，刺突文が施されている。５は深鉢の胴部片で，ＲＬの単節縄文を地文に３本単位の沈線が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉(加曽利ＥⅠ～Ⅱ式期)と考えられる。

第422号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第345図 1	鉢 縄文土器	A (17.4) B (8.4)	胴部から口縁部にかけて内彎する。口縁部はわずかに厚みをもつ無文である。赤彩痕。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P3　30% 覆土 加曽利ＥⅠ式



第345図　第422号住居跡・出土遺物実測図

第424号住居跡（第346図）

位置　調査区の南東部，D14ｉ9 区。

重複関係　北壁際部分を第2394号土坑，東側部分を第2393号土坑，西側部分を第2400号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長径〔3.65〕m，短径〔3.37〕mの楕円形と推定される。

主軸方向　〔N－44°－W〕

壁　西壁と東壁が残存しており，壁高は12cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦である。

ピット　2か所。P_1 は長径50cm，短径36cmの楕円形で，深さは88cmである。P_2 は長径45cm，短径35cmの楕円形で，深さは82cmである。規模と位置から主柱穴と考えられる。

覆土　2層に分層される。削平されているため床面近くの土層の確認だけであるが，堆積状況をみると自然堆積と考えられる。

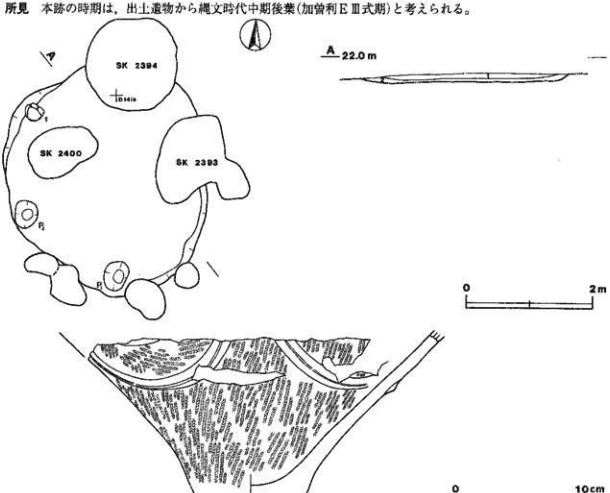
土層解説

1　暗褐色　　ローム粒子・焼土粒子微量

2　暗褐色　　ローム粒子微量，ローム大ブロック少量

遺物　縄文土器片２点が出土している。第346図１の深鉢の底部から胴部片は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利Ｅ Ⅲ式期）と考えられる。



第346図　第424号住居跡・出土遺物実測図

第424号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第346図 1	深　鉢 縄文土器	A (14.5) C　8.0	胴部から底部片。底部は小さく，外傾して立ち上がる。胴部には RL の単節縄文及び断面三角形の微隆起縄文が施されている。	砂粒・長石・石英 雲母 にぶい赤褐色 普通	P4　30%　PL51 覆土 加曽利EⅢ式

第425号住居跡（第347図）

位置　調査区の南東部，D15i3区。

重複関係　西側部分を第2426号土坑に，東側部分を第2425号土坑に，南壁部分を第2422号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長径4.46m，短径3.58mの楕円形である。

主軸方向　〔N－7°－E〕

壁　壁高は30～41cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦である。

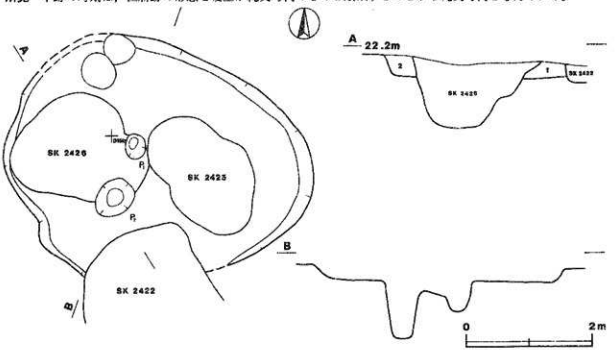
ピット　2か所。P_1は径40cmの円形で，深さは48cmである。P_2は長径66cm，短径54cmの楕円形で，深さは96cmである。位置と規模から主柱穴と思われる。

覆土　2層に分層される。堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　　ローム粒子中量，炭化粒子少量
2　褐　色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量

遺物　縄文土器片183点が出土している。

所見　本跡の時期は，住居跡の形態と覆土が縄文時代のものと類似することから縄文時代と考えられる。



第347図　第425号住居跡実測図

第427号住居跡（第348図）

位置　調査区の南東部，D14f9区。

重複関係　第428号住居跡を掘り込んでおり，中央部分を第2457号土坑，第2458号土坑，第2459号土坑に，南側部分を第2517号土坑，第2518号土坑に，西側部分を第2456号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸〔5.00〕m，短軸〔3.44〕mの隅丸長方形と推定される。

主軸方向　〔N－33°－E〕

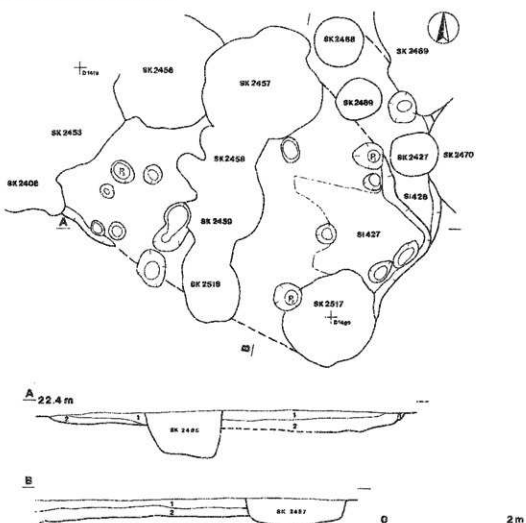
壁　東側部分と西側部分に残存しており，壁高は8～30cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，全面に硬化面がみられ，特に東壁付近が硬い。

ピット　13か所。P_1～P_3は径30～40cmの円形で，深さは40～70cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。その他のピットの性格は不明である。

覆土　2層に分層される。他の遺構に掘り込まれており，本跡の覆土は一部だけの確認であるが，堆積状況をみると自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　色　　ローム粒子中量，炭化物微量
2　褐　色　　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量



第348図　第427・428号住居跡実測図

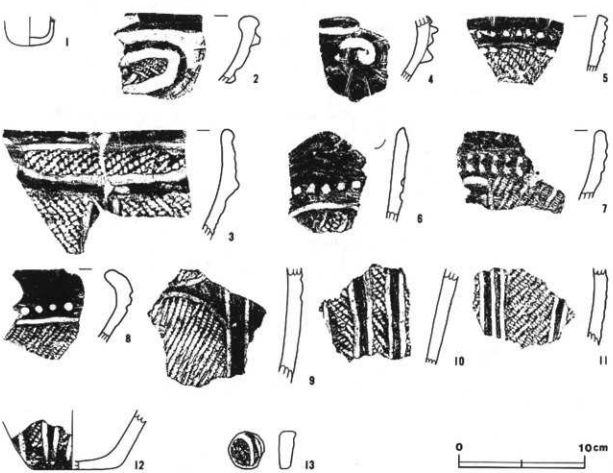
遺物　縄文土器片150点が出土している。第349図１はミニチュア土器の底部片で，覆土から出土している。２～８は深鉢の口縁部片である。２は隆帯による区画内にＲＬの単節縄文が施され，３は沈線区画内に複節縄文が施されている。４は隆帯による渦巻文が施されている。５～８は口縁部に円形刺突文が施され，沈線が施されている。９，11は深鉢の胴部片で，ＲＬの単節縄文を地文に，磨消懸垂文が施されている。10はＬＲの単節縄文を地文に２本沈線の磨消懸垂文が施されている。12は深鉢の底部片で，ＲＬの単節縄文を地文に２本沈線の磨消懸垂文が施されている。13は土器片円盤である。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉(加曽利ＥⅡ～Ⅲ式期)と考えられる。

第427号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)		器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第349図 1	ミニチュア土器 縄文土器	B (2.3) C 2.0		底部から胴部の破片。胴部は外傾して立ち上がる。無文である。	砂粒 黒褐色 普通	P7 40% PL51 覆土

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第349図13	土器片円盤	3.0	2.8	1.3	(11.0)	95	沈線及び磨糸文。	DP2 覆土



第349図　第427号住居跡出土遺物実測図

第428号住居跡（第348・350図）

位置　調査区の南東部，D14 f_0 区。

重複関係　第427号住居跡に掘り込まれ，東側部分を第2427号土坑，第2488号土坑，第2489号土坑に掘り込まれている。

壁　東側に一部残存しており，壁高は20cmで，外傾して立ち上がる。

床　東壁付近に硬化面がみられる。

覆土　壁側の1層のみの確認で，ローム粒子を多量に含む。堆積状況は不明である。

土層解説
1　褐　色　　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量

遺物　縄文土器片1250点，土器片円盤1点，獣骨片が出土している。第350図1の深鉢の頸部片及び2の把手を有する口縁部片は覆土から出土している。3は深鉢の胴部片で，地文はRLの単節縄文で，補修孔がみられる。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利EⅠ式期）と考えられる。

第428号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	粘土・色調・焼成	備　考
第350図 1	深　鉢 縄文土器	B (9.0)	突起をもつ頸部片。突起につながる隆帯により口縁部文様帯が作られている。突起及び隆帯には沈線が施されている。	砂粒・パミス にぶい橙色 普通	P5　5% 覆土 加曽利EⅠ式
2	深鉢把手 縄文土器	B (4.6)	三角形状の把手を有する口縁部片。片面に円形の穴が開けられ，穴に沿って沈線が施されている。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P6　5% 覆土 加曽利EⅠ式

第350図　第428号住居跡出土遺物実測図

第429号住居跡（第351図）

位置　調査区の南東部，D14 g_0 区。

重複関係　北壁際部分を第2428号土坑，第2471号土坑，第2567号土坑に，中央西側部分を第2415号土坑，第2435号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸〔5.35〕m，短軸4.42mの隅丸長方形と推定される。

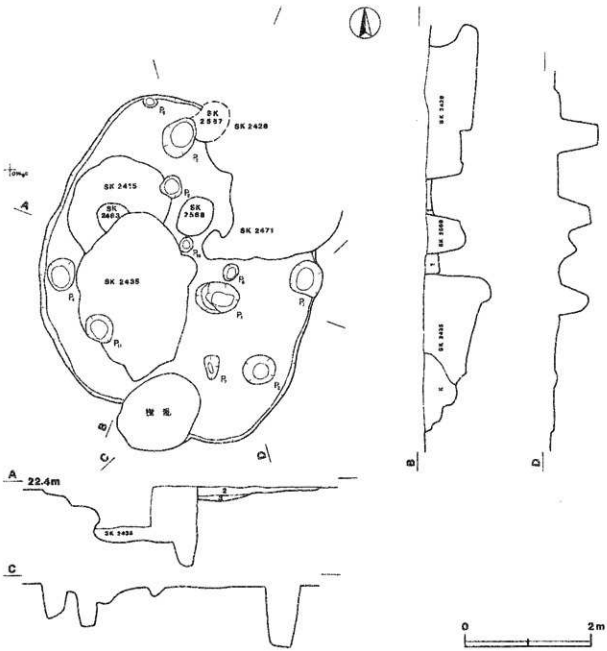
主軸方向　N－17°－E

壁　西壁と東壁が残存しており，壁高は6～10cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦である。

ピット　11か所。P_1～P_5は長径53～70cm，短径44～52cmの楕円形で，深さは53～104cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P_6～P_8は長径28～40cm，短径23～35cmの楕円形で，深さは15～60cmである。位置と規模から補助柱穴と考えられる。その他のピットの性格は不明である。

覆土　3層に分層される。堆積状況から自然堆積と考えられる。

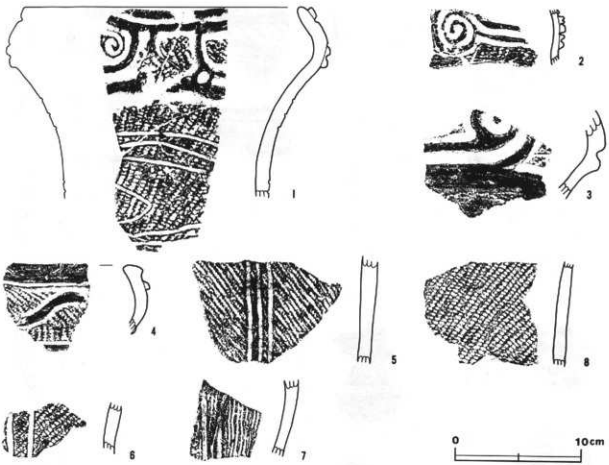


第351図　第429号住居跡実測図

土層解説
1　暗褐色　　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗褐色　　ローム粒子微量，ローム大ブロック少量
3　褐　色　　ローム粒子微量，ローム大ブロック少量

遺物　縄文土器片716点，獣骨片が出土している。第352図１は深鉢の口縁部から胴部の破片で，覆土から出土している。２～４は深鉢の口縁部片で，２，３は隆帯により区画文及び渦巻文が施されている。４はＲＬの単節縄文を地文に隆帯が波状に貼り付けられている。５～８は深鉢の胴部片で，５，６は単節縄文を地文に沈線を垂下させている。７は条線文を地文に幅広の沈線を垂下させている。８の縄文はＲＬの単節縄文である。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅠ式期）と考えられる。



第352図　第429号住居跡出土遺物実測図

第429号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第352図 1	深　鉢 縄文土器	A (21.0) B (10.2)	口縁部から胴部の破片。キャリパー形の器形で，RLの単節縄文を地文に，隆帯と沈線による渦巻文と区画文が施された口縁部文様帯をもつ。胴部には懸位あるいは斜位に浅い沈線が施されている。	砂粒・石英・雲母 赤色粒子 にぶい橙色 良好	P168 10% P151 覆土 加曽利EⅠ式

第430号住居跡（第353図）

位置　調査区の南東部，D15g1区。

重複関係　第432号住居跡及び第2474号土坑，第2481号土坑，第2504号土坑，第2505号土坑の覆土に二つの炉及びピットが確認されたことから，重複する遺構より新しい。

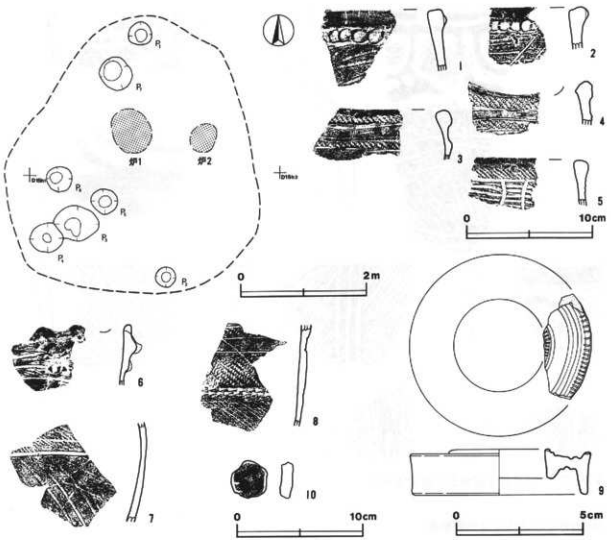
規模と平面形　長径〔4.30〕m，短径〔4.05〕mの楕円形と推定される。

主軸方向　N－26°－W

床　ほぼ平坦で，硬化面は確認できない。

ピット　7か所。P_1～P_5は径33～73cmの円形で，深さは40～73cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P_6，P_7は径43～50cmの円形で，深さは44～46cmである。位置と規模から補助柱穴と考えられる。

炉　2か所確認されている。炉1は中央より北側に付設されている。長径72cm，短径60cmの楕円形である。炉床は赤変している。炉2は中央より東側に付設されている。長径48cm，短径41cmの楕円形で，炉床は，炉1と同じく赤変している。



第353図　第430号住居跡・出土遺物実測図

遺物　縄文土器片109点，土製耳飾り１点，土器片円盤１点が出土している。第353図９の土製耳飾り，10の土器片円盤は覆土から出土している。１～６は深鉢の口縁部片である。１，２は棒状工具による押圧が付された紐線文が施されている。胴部には斜行する条線文が施されている。３～５はＲＬの単節縄文が充塡された隆起手法による帯縄文が施され，６はコブ状突起のつく隆起手法による帯縄文が施されている。７，８は深鉢の胴部片で，７は沈線手法の帯縄文をもち，以下に斜行する条線文が施されている。８はＲＬの単節縄文が充塡された隆起手法による薄い帯縄文が施され，胴部の帯縄文と条線文を押し引き刺突文で区画している。

所見　本跡は，第432号住居跡の上面で確認されたため，土層及び壁の立ち上がりは確認できなかったが，炉及びピットから住居跡の規模を推定したものである。出土土器は加曽利Ｅ式期と安行１・２式期のものが多くみられるが，重複する遺構の新旧関係と出土遺物から判断すると，時期は縄文時代後期後葉(安行２式期)と考えられる。

第430号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
第353図 9	土製耳飾り	(4.2)	－	1.8	(9.0)	95	甘字状の断面形を呈し，キザミを有する。	ＤＰ３　覆土
10	土器片円盤	3.0	2.9	0.9	(8.3)	95	無文。	ＤＰ４　覆土

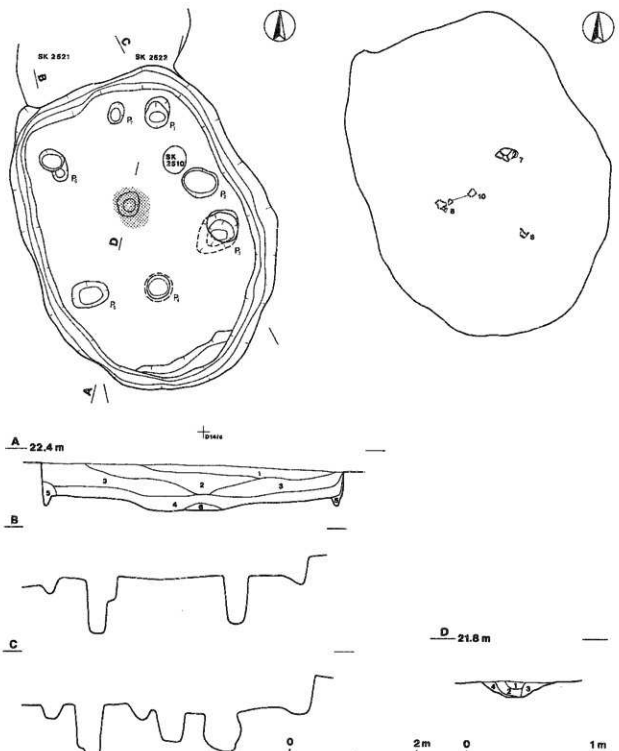
第431号住居跡（第354図）

位置　調査区の南東部，D14 e9 区。

重複関係　北側部分を第2521号土坑，第2522号土坑に掘り込まれている。第2524号土坑覆土上面を貼床にしている。

規模と平面形　長径5.09m，短径3.72mの楕円形である。

主軸方向　N－23°－W



第354図　第431号住居跡実測図

壁　壁高は34～55cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。壁溝が全周している。

床　ほぼ平坦である。

ピット　7か所。P1，P3～P6は長径38～56cm，短径36～48cmの楕円形で，深さは55～93cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P2，P7の性格は不明である。

炉　中央に付設されている。長径69cm，短径58cmの楕円形で，床面を11cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

1	黄 橙 色	ローム大ブロック多量	3	明赤褐色	焼土小ブロック少量
2	橙　色	焼土中ブロック中量	4	橙　色	焼土粒子微量

覆土　6層に分層される。自然堆積と考えられる。

土層解説

1	暗 褐 色	ローム粒子少量	4	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2	黒 褐 色	ローム粒子微量，炭化物少量	5	暗 褐 色	ローム粒子中量
3	暗 褐 色	ローム粒子微量，ローム小ブロック少量	6	暗赤褐色	焼土粒子中量

遺物　縄文土器片523点及び土器片錘1点が出土している。第355図1の深鉢，2～4の深鉢の口縁部片，5の把手，6の深鉢の胴部から口縁部片，7～10の深鉢の底部から胴部の破片，17の土器片錘は覆土から出土している。11～13は深鉢の口縁部の破片で，隆帯で渦巻文を施し，区画内にはRLの単節縄文あるいは円形刺突文が施されている。14～16は深鉢の胴部片で，14は複節縄文を地文に沈線が施され，15はLRの単節縄文を地文に，3本単位の沈線を垂下させている。16はRLの単節縄文を地文に波状の沈線を垂下させている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利EⅠ式期）と考えられる。

第431号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第355図 1	深　鉢 縄文土器	A　15.4 B　20.2 C　7.0	胴部は外傾して立ち上がり，口縁部は内彎する。地文はLRの単節縄文で口唇部は無文である。	砂粒 にぶい橙 普通	P8　70%　PL51 覆土 加曽利EⅠ式
2	深　鉢 縄文土器	A［25.0］ B［10.0］	口縁部片。口縁部は突起をもち，わずかに内彎する。口縁端部の沈線が突起につながり渦巻文を描いている。口縁部は，隆帯による半月状あるいは円形の区画内にRLの単節縄文が施されている。	砂粒 橙色 普通	P9　5% 覆土 加曽利EⅠ式
3	深　鉢 縄文土器	B　(6.8)	口縁部片。上方に突出する突起をもつ。口縁部には隆帯による渦巻文及び区画文が施され，区画内にRLの単節縄文が施されている。	砂粒・長石・スコリア 灰黄褐色 普通	P10　5% 覆土 加曽利EⅠ式
4	深　鉢 縄文土器	A［16.0］ B（15.2）	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部には沈線と隆帯で区画文及び渦巻文が施され，区画内にRLの単節縄文が施されている。胴部には横位の沈線が施されている。	砂粒 暗褐色 普通	P11　5%　PL51 覆土 加曽利EⅠ式
5	深鉢把手 縄文土器	B　(10.9)	鋸歯状把手を有する口縁部片。孔に沿って，沈線及びキザミが施されている。口縁部は沈線を有する隆帯によって区画され，区画内には横位あるいは斜位に沈線が施されている。	砂粒・黄砂・ハミス にぶい褐色 普通	P12　5% 覆土 加曽利EⅠ式
6	深　鉢 縄文土器	A［21.6］ B（18.4）	胴部から口縁部の破片。胴部は外反して立ち上がる。地文はRLの単節縄文で口縁部に厚みのある隆帯が貼り付けられている。	砂粒・長石・スコリア にぶい赤褐色 普通	P13　25%　PL51 覆土 加曽利EⅠ式
7	深　鉢 縄文土器	B　(27.8) C　10.0	底部から胴部の破片。胴部中位にはLRの単節縄文を地文に，2本単位の沈線を垂下させている。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P15　20%　PL51 覆土 加曽利EⅠ式
8	深　鉢 縄文土器	B［10.1］ C　7.8	底部から胴部の破片。胴部はわずかに内彎して立ち上がる。無節縄文が施されている。	砂粒・石英 にぶい褐色 普通	P16　20%　PL51 覆土 加曽利EⅠ式

第355図　第431号住居跡出土遺物実測図（1）

第356図　第431号住居跡出土遺物実測図（2）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第355図 9	深鉢 縄文土器	B (13.0) C 6.0	底部から胴部の破片。胴部は内彎して立ち上がる。RLの単節縄文を地文に、沈線による垂直文及び蕨手文が施されている。	砂粒・スコリアにぶい赤褐色 普通	P17 30% PL51 覆土 加曽利EⅠ式
10	深鉢 縄文土器	B (10.1) C〔6.3〕	底部から胴部の破片。胴部はわずかに内彎して立ち上がる。地文はRLの単節縄文である。	砂粒にぶい褐色 普通	P18 10% PL51 覆土 加曽利EⅠ式

図版番号	器種	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
第356図17	土器片錘	5.1	3.7	0.7	(24.0)	95	無文。	DP5 覆土

第432号住居跡（第357図）

位置　調査区の南東部，D15g1区。

重複関係　西壁際部分を第2474号土坑に，東側部分を第2449号土坑，第2479号土坑，第2487号土坑に，南側部分を第2481号土坑，第2504号土坑に，中央部分を第2505号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.19m，短軸（3.55）mで，隅丸長方形と推定される。

主軸方向　N－34°－W

壁　壁高は25cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦である。

ピット　2か所。P_1は長径64cm，短径50cmの楕円形で，深さは51cmである。P_2は長径32cm，短径23cmの楕円形で，深さは34cmである。性格は不明である。

覆土　2層に分層される。堆積状況から自然堆積と考えられる。

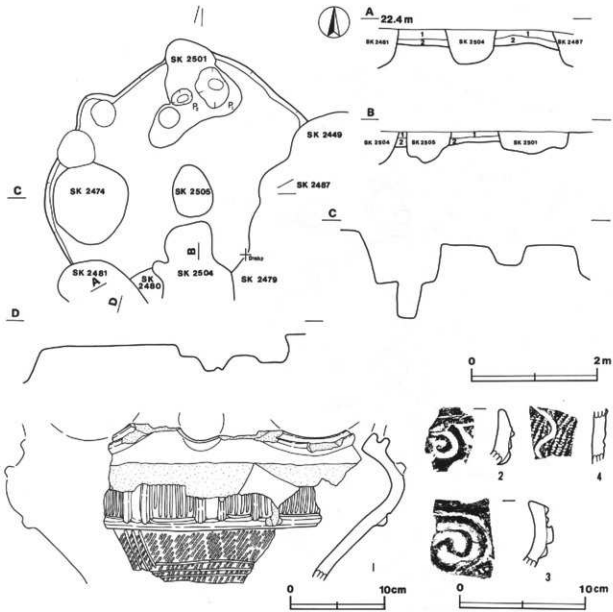
土層解説
1　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック中量，焼土粒子少量
2　褐　色　ローム粒子・ローム中ブロック中量，焼土粒子微量

遺物　縄文土器片259点，獣骨片が出土している。第357図1の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。2，3は深鉢の口縁部片で，隆帯で渦巻文が施されている。4は深鉢の胴部片である。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利EⅠ式期）と考えられる。

第432号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第357図 1	深鉢 縄文土器	A〔36.0〕 B (16.9)	胴部から口縁部の破片。波状口縁で口縁部は内彎する。口縁連部に厚い隆帯が貼り付けられ，隆帯に沈線が施されている。口縁部は隆帯により区画され，区画内に縦位の沈線が施されている。胴部にはRLの単節縄文を地文に，浅い沈線でクランク文が施されている。	砂粒・石英・雲母 灰褐色 普通	P19 16% PL52 覆土 加曽利EⅠ式



第357図　第432号住居跡・出土遺物実測図

第433号住居跡（第358～360図）

位置　調査区の南東部，D14d0区。

重複関係　東側部分を第2494号土坑，第2511号土坑に掘り込まれ，南側部分を第2503号土坑に掘り込まれている。さらに，北側部分で第435号住居跡，第436号住居跡と重複しており，本跡が新しい。

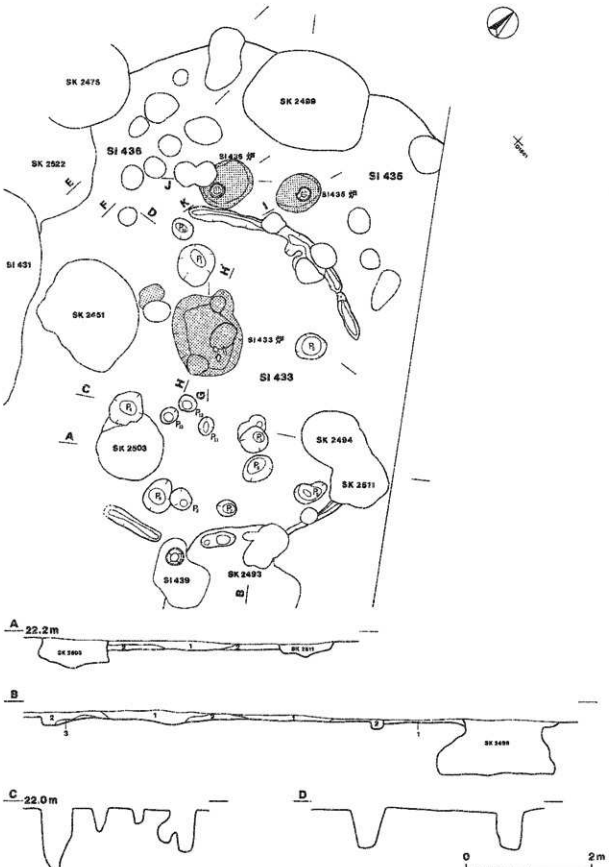
規模と平面形　長径〔5.10〕mで，楕円形と推定される。

主軸方向　N－60°－W

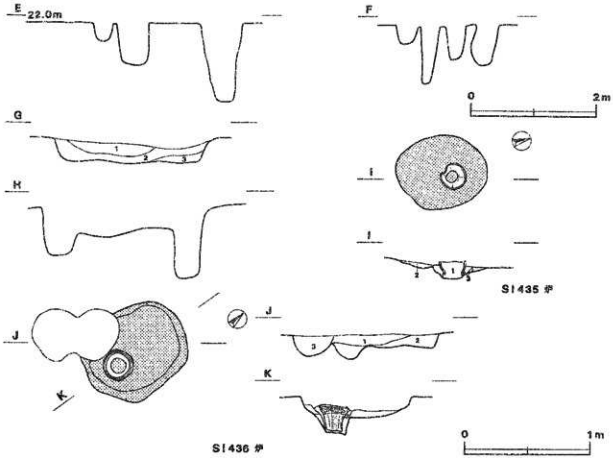
床　ほぼ平坦で，全面に硬化面がみられる。壁溝が北側部分と南側部分に残存している。

ピット　13か所。P_1～P_4は径30～40cmの円形で，深さは40～70cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。その他のピットの性格は不明である。

炉　中央より北西側に付設されている。長径133cm，短径105cmの楕円形で，床面を15cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は赤変硬化している。



第358図　第433・435・436号住居跡実測図（1）



第359図　第433・435・436号住居跡実測図（2）

炉土層解説
1　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
2　明赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量
3　暗赤褐色　焼土粒子・焼土ブロック多量

覆土　3層に分層される。下層部のみの確認であるが，その堆積状況から人為堆積と考えられる。

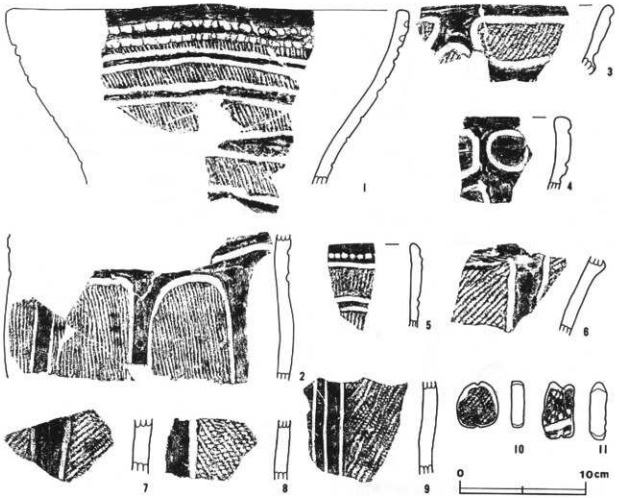
土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子中量
2　暗 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物少量
3　褐　　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量

遺物　縄文土器片326点が出土している。第360図1の深鉢の胴部から口縁部片，2の深鉢の胴部片及び10，11の土器片錘は覆土から出土している。3～5は深鉢の口縁部片である。3は沈線区画内にＲＬの単節縄文が施され，4は隆帯により区画され，区画内は無文である。5は撚糸文を地文に円形刺突文及び沈線が横位に施されている。6～9は深鉢の胴部片である。6，7はＲＬの単節縄文を地文に2本沈線の幅広の磨消懸垂文が施されている。8はＬＲの単節縄文を地文に太い沈線の磨消懸垂文が施されている。9はＲＬの単節縄文を地文に3本沈線の磨消懸垂文が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅢ式期）と考えられる。

第433号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第360図 1	深　鉢 縄文土器	A (30.4) B (13.9)	胴部から口縁部の破片。胴部は外傾し，口縁部はわずかに内湾する。口縁部には2本の沈線が施され，沈線内に円形刺突文が施されている。胴部は撚糸文を地文に，横位に施された沈線間を磨り消している。	砂粒 にぶい橙色 普通	P20　10%　PL52 覆土 加曽利ＥⅢ～Ⅳ式



第360図　第433号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第360図 2	深　鉢 縄文土器	B (11.5)	胴部片。胴部はわずかに内彎する。燃糸文を地文に沈線により丁字状文が施され，沈線間を磨り消している。	砂粒・スコリア 黒褐色 普通	P21　15%　PL52 覆土 加曽利EⅡ～Ⅲ式

図版番号	器　種	計測値(cm)			重　量	現存率	形状及び文様の特徴	備　考
		長　さ	幅	厚　さ	(g)	(%)		
第360図10	土器片錘	3.6	3.3	1.0	(19.0)	95	燃糸文。	DP6　覆土
11	土器片錘	4.6	2.5	1.3	(19.0)	95	沈線及び単節縄文RL。	DP7　覆土

第435号住居跡（第358・359・361図）

位置　調査区の南東部，D14co区。

重複関係　北西部分を第2499号土坑に掘り込まれ，第433号住居跡，第436号住居跡と重複している。第436号住居跡との新旧関係は不明であるが，第433号住居跡より古い。

規模と平面形　炉及び床面だけの確認のため，不明である。

主軸方向　〔N－20°－E〕

床　ほぼ平坦で，炉の周囲に硬化面がみられる。

炉　長径72cm，短径60cmの楕円形で，床面を11cmほど掘りくぼめ，深鉢を埋設した土器埋設炉である。炉床は赤変硬化している。

第361図　第435号住居跡出土遺物実測図

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子少量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量
3　暗赤褐色　焼土粒子少量

覆土　1層。下層部のみの確認であるため，その堆積状況は不明である。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物少量

遺物　縄文土器片75点が出土している。第361図1の胴部下半を欠失した加曽利ＥⅠ式期の深鉢は，炉に埋設されて出土した。2，3は深鉢の口縁部片である。2は隆帯による区画内に撚糸文が施されて，3は隆帯で渦巻文が施されている。4は深鉢の胴部片で，複節縄文を地文に2本沈線の磨消懸垂文が施されている。

所見　本跡の時期は，炉体土器から縄文時代中期後葉(加曽利ＥⅠ式期)である。第436号住居跡との新旧関係は不明であるが，炉体土器の文様構成をみると，本跡の炉体土器は第436号住居跡のものより古いと考えられる。

第435号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第361図 1	深　鉢 縄文土器	A　15.6 B　(11.3)	胴部から口縁部の破片。キャリパー形の器形で，隆帯と沈線による区画文及び渦巻文が施された口縁部文様帯をもつ。口縁部及び胴部の地文はRLの単節縄文である。	砂粒・長石・雲母にぶい赤褐色 普通	P22　50%　PL52 炉埋設土器 加曽利ＥⅠ式

第436号住居跡（第358・362図）

位置　調査区の南東部，D14c0区。

重複関係　北側部分を第2499号土坑に掘り込まれ，第433号住居跡，第435号住居跡と重複している。第435号住居跡との新旧関係は不明であるが，第433号住居跡より古い。

規模と平面形　炉及び床面だけの確認のため，不明である。

主軸方向　〔N－0°〕

床　ほぼ平坦で，炉の周囲に硬化面がみられる。

炉　長径86cm，短径68cmの楕円形で，床面を20cmほど掘りくぼめ，深鉢を埋設した土器埋設炉である。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
2　暗赤褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化物少量，焼土粒子中量
3　暗赤褐色　ローム粒子・ローム中ブロック中量，焼土粒子少量

遺物　縄文土器片111点，敲石１点及び石製垂飾り１点が出土している。第362図１の胴部下半を欠失した加曽利ＥⅡ式期の深鉢は，口縁部まで埋設された状態で炉内から出土している。口縁部から胴部にかけて火熱によると考えられる赤化がみられる。炉体土器と掘り方の間から，石棒片がはさまった状態で出土している。６の敲石及び７の垂飾りは覆土から出土している。２，３は深鉢の口縁部片で，隆帯により渦巻文を施している。４，５は深鉢の胴部片で，４は燃糸文を地文に沈線が施されている。５はＬＲの単節縄文を地文に２本沈線の磨消懸垂文が施されている。

所見　本跡の時期は，炉体土器から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅡ式期）である。第435号住居跡との新旧関係は遺構の構築状況からは不明であるが，炉体土器はいずれも加曽利ＥⅡ式期に属し，口縁部の区画及び文様構成をみると，本跡の炉体土器は加曽利ＥⅡ式期の新しい段階のものと考えられる。

第436号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第362図 1	深　鉢 縄文土器	A　20.9 B　(20.1)	胴部から口縁部。キャリパー形の器形で，隆帯による区画文，渦巻文及び楕円形文が施された口縁部文様帯をもつ。区画内にはＲＬの単節縄文が施されている。胴部にはＲＬの単節縄文を地文に，２本沈線の磨消懸垂文が施されている。	砂粒・雲母 橙色 普通	P23　70%　PL52 炉体設土器 加曽利ＥⅡ式

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第362図 6	敲　石	9.6	8.4	4.4	(495.0)	安山岩	Q2　覆土
7	石製垂飾り	3.3	1.1	0.9	(5.35)	ヒスイ	Q3　覆土

第362図　第436号住居跡出土遺物実測図

第437号住居跡（第363図）

位置　調査区の南東部，D14 c 9 区。

重複関係　東側部分を第438号住居跡に掘り込まれ，北壁部分を第2508号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　楕円形と推定される。

主軸方向　〔N－77°－W〕

壁　壁高は16cmで，外傾して立ち上がる。

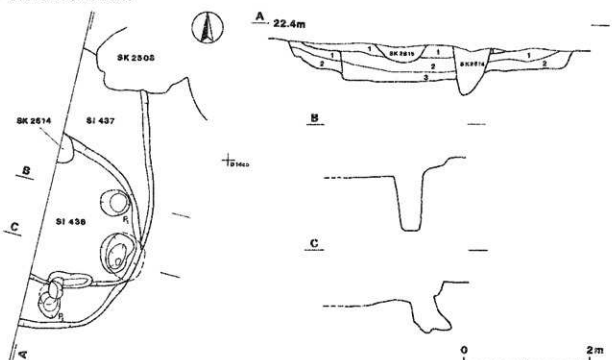
床　壁から中央に向かってわずかに傾斜している。

ピット　1か所。P_1は径40cmの円形で，位置から主柱穴と考えられる。

覆土　2層に分層される。堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，炭化物微量

所見　本跡の時期は，縄文時代中期前葉（阿玉台式期）の遺構に掘り込まれていること及び遺構の形態から縄文時代中期と考えられる。



第363図　第437・438号住居跡実測図

第438号住居跡（第363図）

位置　調査区の南東部，D14 c 9 区。

重複関係　第437号住居跡の東側部分を床下まで掘り込み，覆土上層を第2615号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　楕円形と推定される。

主軸方向　〔N－12°－E〕

壁　壁高は22cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット　1か所。P_1は径45cmの円形で，深さは92cmである。性格は不明である。

覆土　3層に分層される。堆積状況から自然堆積と考えられる。

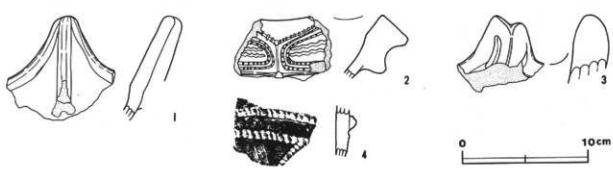
土層解説
1　暗褐色　　ローム粒子・炭化物微量
2　暗褐色　　ローム粒子少量，炭化物微量
3　褐　色　　ローム粒子多量，炭化物微量

遺物　縄文土器片34点が出土している。第364図1は波状口縁を呈する口縁部片の突起，2・3は深鉢の口縁部片で，覆土から出土している。4は隆帯に沿って連続刺突文が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台Ⅱ～Ⅲ式期）と考えられる。

第438号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第364図 1	深鉢突起 縄文土器	B (8.2)	波状口縁の端部に付けられた三角形状の突起。口縁部はわずかに内彎する。口縁端部から突起頂部に断面三角形状の隆帯が続き，頂部から断面三角形状の隆帯が垂下している。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P24　5% 覆土 阿玉台Ⅱ式
2	深　鉢 縄文土器	B (5.2)	口縁部片。口縁部を区画した断面三角形状の厚い隆帯上にキザミが施されている。区画する隆帯に沿って半截竹管による綾部沈線文が施され，区画内には山形沈線文が施されている。	砂粒・石英・雲母 スコリア 灰黄褐色 普通	P25　5% 覆土 阿玉台Ⅲ式
3	深鉢把手 縄文土器	B (9.0)	口縁端部から続く幅広の隆帯が三角形状の突起の頂部で交わり，把手の片面に沈線が施されている。	砂粒 灰黄褐色 普通	P26　5% 覆土 阿玉台Ⅲ式



第364図　第438号住居跡出土遺物実測図

第439号住居跡（第365図）

位置　調査区の南東部，D15e1区。

重複関係　第433号住居跡及び第2493号土坑の上面で土器埋設炉のみが確認された。

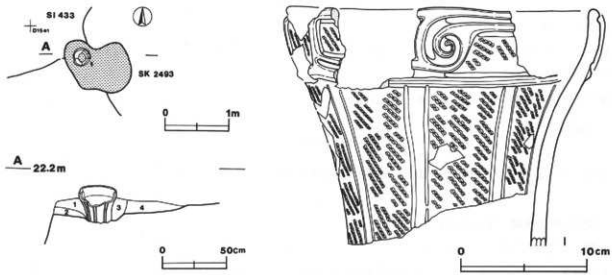
主軸方向　〔N－58°－W〕

炉　長径114cm，短径87cmの楕円形で，深鉢を口縁部まで埋設した土器埋設炉である。炉床は赤変している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　　焼土粒子多量
2　暗赤褐色　　焼土粒子少量
3　暗赤褐色　　焼土粒子中量
4　暗 褐 色　　焼土粒子少量

遺物　縄文土器片46点が出土している。第365図1の深鉢は炉埋設土器で，胴部下半を欠失している。胴部から口縁部にかけて火熱による赤化がみられる。

所見　本跡の時期は，炉体土器から縄文時代中期後葉（加曽利EⅡ式期）である。



第365図　第439号住居跡・出土遺物実測図

第439号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第365図 1	深鉢 縄文土器	A 24.0 B (19.0)	口縁部の一部及び胴下半部欠損。キャリパー形の器形で，隆帯と沈線による渦巻文及び区画文が施された口縁部文様帯をもつ。区画内には縄節縄文が施されている。口縁部と胴部は隆帯で区画され，胴部には複節縄文を地文に，2本沈線の磨消懸垂文が施されている。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P27　50%　PL52 炉無設土器 加曽利EⅡ式

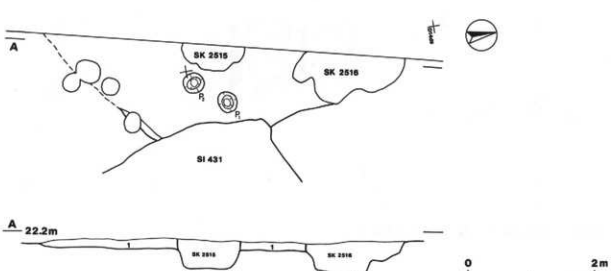
第440号住居跡（第366図）

位置　調査区の南東部，D14d9区。

重複関係　東側部分を第431号住居跡に掘り込まれ，北側部分を第2516号土坑に，中央部分を第2515号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　楕円形と推定される。

壁　壁高は5cmで，外傾して立ち上がる。



第366図　第440号住居跡実測図

床　平坦である。

ピット　2か所。P_1は径34cmの円形で，深さは51cmである。P_2は径32cmの円形で，深さは42cmである。性格は不明である。

覆土　1層。堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説
1　にぶい褐色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量

所見　本跡は出土遺物が無いが，確認した層位及び遺構の形態から縄文時代と考えられる。

第452号住居跡（第367図）

位置　調査区の南東部，D14 g9 区。

重複関係　炉のみの確認で，炉の西半分を第2420号土坑に，北側を第2517号土坑に，南側を第2401号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

主軸方向　〔N－44°－W〕

床　平坦で，炉の周囲は硬く踏み固められている。

炉　長径68cm，短径57cmの楕円形と推定され，深鉢を埋設した土器埋設炉である。炉床は赤変している。

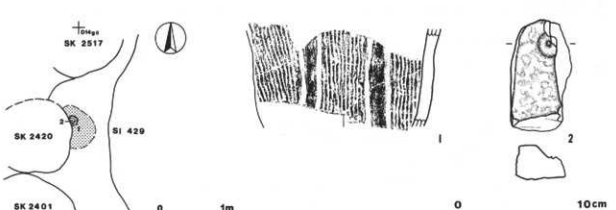
遺物　第367図1の深鉢は炉埋設土器で，胴部が埋設され，その中から2の凹石が出土している。

所見　本跡の時期は，炉埋設土器から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅡ式期）である。

第452号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第367図 1	深　鉢 縄文土器	B (7.7)	胴部片。胴部はわずかに外反する。爪形文を地文に，2本沈線の磨消懸垂文が施されている。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P28　15% P L52 炉埋設土器 加曽利ＥⅡ式

図版番号	器　種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石　質	備　考
第367図 2	凹　石	(8.9)	(4.9)	2.8	(186.0)	雲母片岩	Q4　埋設土器内　覆土



第367図　第452号住居跡・出土遺物実測図

第478号住居跡（第368図）

位置　調査区の東部，D14c7区。

重複関係　西側部分を第2868号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長径〔3.48〕m，短径〔3.16〕mの楕円形と推定される。

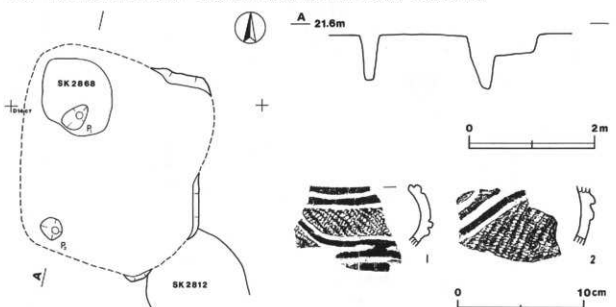
長軸方向　〔N－16°－E〕

床　平坦である。

ピット　2か所。P_1は長径45cm，短径32cmの楕円形で，深さは74cmである。P_2は径35cmの楕円形で，深さは76cmである。位置と規模から主柱穴と考えられる。

遺物　縄文土器片134点が出土している。第368図1，2は深鉢の口縁部片である。1は隆帯による区画内にRLの単節縄文が施されている。2はRLの単節縄文を地文に隆帯が斜位に貼り付けられている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利EⅠ式期）と考えられる。



第368図　第478号住居跡・出土遺物実測図

第499号住居跡（第369図）

位置　調査区の中央部，C13g0区。

重複関係　南壁際を第2923号土坑，第2924号土坑に，西側部分を第2929号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

主軸方向　〔N－2°－E〕

ピット　6か所。P_1～P_6は径32～42cmの円形で，深さは34～114cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。

炉　中央より北西寄りに付設されている。長径62cm，短径58cmの楕円形で，床面を31cmほど掘りくぼめ，炉内の西側に深鉢の胴部が埋設された土器埋設炉である。炉床は赤変硬化している。

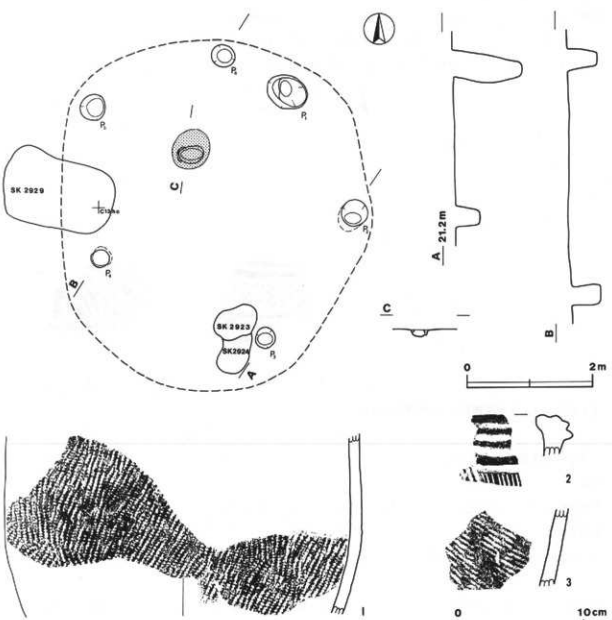
炉土層解説
1　暗褐色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子多量

遺物　縄文土器片10点が出土している。第369図1の深鉢の胴部片は覆土中から出土している。2は深鉢の口縁部片で，区画内に斜位の沈線が施されている。3は深鉢の胴部片で，無節縄文が施されている。

所見　本跡の時期は，炉体土器から縄文時代中期後葉(加曽利ＥⅠ式期)である。本跡は，谷津に向かって緩やかに傾斜する斜面に確認され，覆土及び床の確認はできなかった。

第499号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第369図 1	深　鉢 縄文土器	B (14.4)	胴部片。胴部はわずかに内彎する。地文はＲＬの単節縄文である。	砂粒・雲母・スコリア 褐灰色 普通	P29　5%　PL52 覆土 加曽利ＥⅠ式



第369図　第499号住居跡・出土遺物実測図

第500号住居跡（第370図）

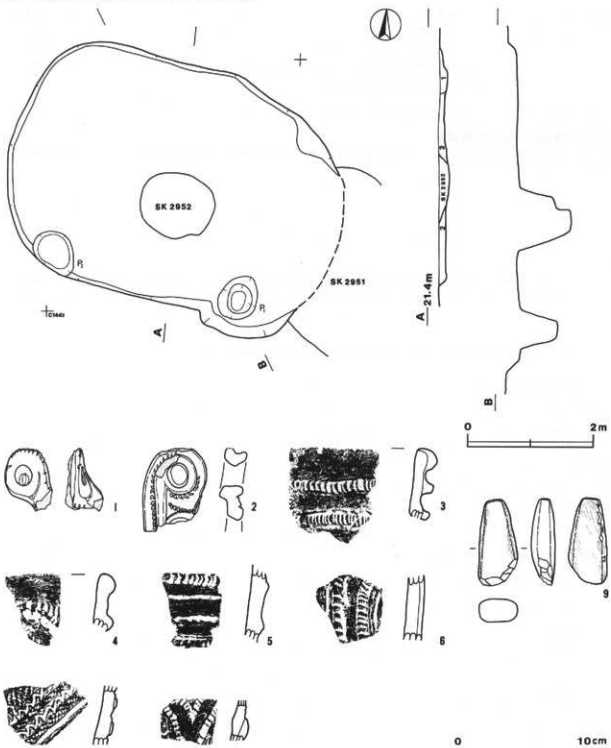
位置　調査区の中央部，C14 c3 区。

重複関係　中央部分を第2952号土坑に掘り込まれ，東側で第2951号土坑と重複しているが新旧関係は不明である。

規模と平面形　長径5.47m，短径3.83mの楕円形である。

主軸方向　〔N－71°－W〕

壁　壁高は12～22cmで，外傾して立ち上がる。



第370図　第500号住居跡・出土遺物実測図

床　ほぼ平坦である。

ピット　2か所。P_1は径77cmの円形で，深さは60cmである。P_2は径65cmの円形で，深さは27cmである。規模と位置から主柱穴と考えられる。

覆土　2層に分層される。堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量

遺物　縄文土器片143点及び磨製石斧1点が出土している。第370図1，2の深鉢把手片及び9の磨製石斧は覆土から出土している。3～5は深鉢の口縁部片で，隆帯に沿って爪形文が施されている。6～8は深鉢の胴部片で，6は隆帯に沿って，結節沈線文が施されている。7は単節縄文を地文とし，隆帯に沿って山形沈線文が施されている。8は隆帯に沿って結節沈線文が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。

第500号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第370図 1	深鉢 縄文土器	B (5.1)	粘土紐を調整状に貼り，中型部分を粘土で埋めている。胴部にキザミが施されている。	砂粒・雲母・スコリアにぶい褐色 普通	P30　3％ 覆土 阿玉台Ⅲ式
2	深鉢 縄文土器	B (5.8)	孔を取り巻いて隆帯が2字状に貼り付けられ，隆帯に沿ってペン先状工具により刺突文が施されている。	砂粒・長石・雲母 褐色 普通	P31　5％ 覆土 阿玉台Ⅲ式

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第370図9	磨製石斧	(6.9)	3.2	1.9	(60.0)	安山岩	Q6　覆土

第501号住居跡（第371図）

位置　調査区の中央部，C13e7区。

規模と平面形　長径6.80m，短径4.45mの楕円形である。

主軸方向　〔N－2°－E〕

壁　壁高は8～10cmで，壁溝が全周し，北東部分と北西部分の壁溝は2条となる。

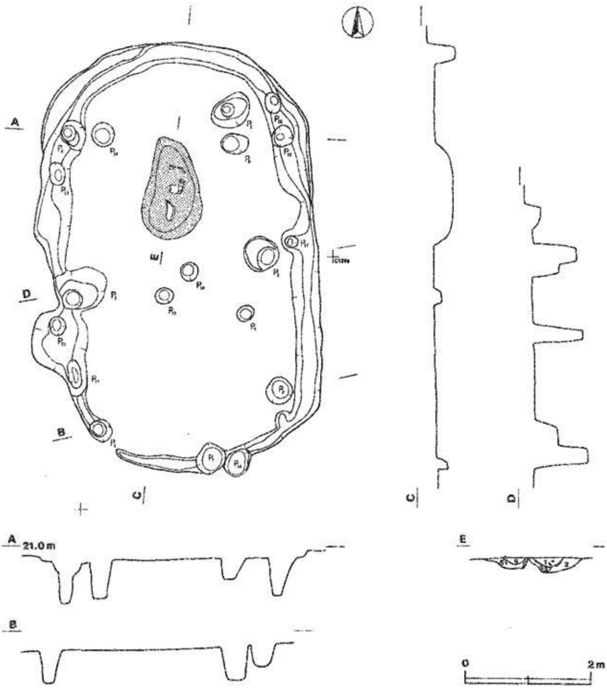
床　平坦である。

ピット　19か所。P_1～P_6は径37～77cmの円形で，深さは56～87cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。その他のピットの性格は不明である。

炉　長径80cm，短径44cmの楕円形で，床面を12cmほど掘りくぼめ，深鉢を埋設した土器片囲い炉である。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
5　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量

遺物　縄文土器片121点が出土している。第372図1の深鉢の胴部から口縁部付近の破片は炉に埋設された状態で出土し，2の深鉢の胴部片は覆土から出土している。

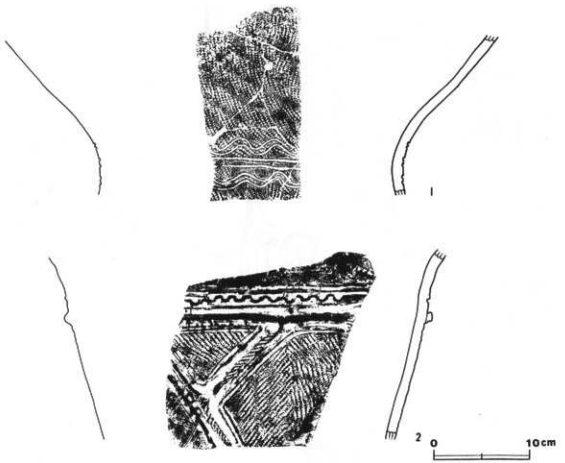


第371図　第501号住居跡実測図

所見　本跡の時期は，埋設土器から縄文時代中期中葉(中峠式期)である。２条の壁溝及び柱穴の配置から，建て替えの可能性が考えられる。

第501号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第372図 1	深　鉢 縄文土器	B (17.0)	胴部から口縁部付近の破片。頸部はくびれる。地文はＲＬの単節縄文で，口縁部と胴部は，２本単位の波状沈線及び横位の沈線により区画されている。	砂粒・スコリア にぶい褐色 普通	P32　5%　PL52 炉埋設土器 中峠式
2	深　鉢 縄文土器	B (20.2)	胴部片。胴部はわずかに内彎する。胴部上位には交互刺突文が施され，以下はＲＬの単節縄文を地文に，断面カマボコ状の隆帯が貼られ，三角形状の区画を作っている。隆帯には縄文が施され，隆帯に沿って半截竹管による２本単位の浅い沈線が施されている。	砂粒・長石・雲母 黒褐色 普通	P33　15%　PL52 覆土 中峠式併行



第372図　第501号住居跡出土遺物実測図

表9　前田村遺跡H区縄文時代住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)(長径×短径)	壁高(cm)	床面	内部施設					炉	覆土	出土遺物	時期	備考(重複関係)
							壁溝	主柱穴	ピット	出入口	貯蔵穴					
419	D14[illegible]	N-50°-W	楕円形	3.41×2.40	8～20	平坦	−	4	1	−	−	−	自然	深鉢	中峠式期	SK-2361,2367(より古)
421	D14[illegible]	[N-20°-E]	隅丸長方形	5.37×4.25	16～26	平坦	−	7	8	−	−	1	人為	深鉢、磨石	加曽利EⅠ～Ⅱ式期	SK-2371,2368,2372(より古)
422	D14[illegible]	N-33°-E	(楕円形)	[5.11×3.90]	16	平坦	−	−	2	−	−	1	人為	鉢、深鉢、蓋	加曽利EⅠ～Ⅱ式期	SK-2364,2376,2365,2430,2432,2476(より古)
424	D14[illegible]	[N-44°-W]	[楕円形]	[3.65×3.37]	12	平坦	−	2	−	−	−	−	自然	深鉢	加曽利EⅢ式期	SK-2394,2393,2400(より古)
425	D15[illegible]	[N-7°-E]	楕円形	4.46×3.38	30～41	平坦	−	2	−	−	−	−	自然	深鉢	不明	SK-2426,2425,2422(より古)
427	D14[illegible]	[N-33°-E]	[隅丸長方形]	5.09×3.44	8～30	平坦	−	3	10	−	−	−	自然	深鉢	加曽利EⅡ～Ⅲ式期	SI-428(より新)、SK-2475,2468,2469,2517,2518,2566(より古)
428	D14[illegible]				20	平坦	−	−	−	−	−	−	不明	鉢,ミニチュア,土器片錘	加曽利EⅠ式期	SI-427　SK-2427,2488,2489
429	D14[illegible]	N-17°-E	隅丸長方形	[5.35]×4.42	6～10	平坦	−	5	6	−	−	−	自然	深鉢	加曽利EⅠ式期	SK-2428,2471,2567,2491,2415,2435
430	D15[illegible]	N-26°-W	楕円形	[4.30×4.05]	−	平坦	−	5	2	−	−	2	−	深鉢,耳飾,土器片円盤	安行2式期	SI-432　SK-2474,2481,2504,2505
431	D14[illegible]	N-23°-W	楕円形	5.09×3.72	34～55	平坦	−	7	−	−	−	1	人為	深鉢,土器片錘	加曽利EⅠ式期	SK-2521,2522
432	D15[illegible]	N-34°-W	[隅丸長方形]	4.19×[3.55]	25	平坦	−	−	2	−	−	−	自然	深鉢	加曽利EⅠ式期	SK-2474,2449,2479,2487,2481,2504,2505
433	D14[illegible]	N-60°-W	(楕円形)	[5.26]×	−	平坦	一部	4	9	−	−	1	人為	深鉢,土器片錘	加曽利EⅢ式期	SI-435,436　SK-2494,2511,2503
435	D14[illegible]	[N-20°-E]			−	平坦	−	−	−	−	−	1	不明	深鉢	加曽利EⅠ式期	炉埋設　SI-433,436　SK-2499
436	D14[illegible]	N-0°			−	平坦	−	−	−	−	−	1	自然	深鉢、凹石、垂飾	加曽利EⅡ式期	炉埋設　SI-433,435　SK-2499
437	D14[illegible]	[N-77°-W]	[楕円形]	4.50×3.40	16	緩斜	−	1	−	−	−	−	自然		阿玉台式期以前	SI-438　SK-2508
438	D14[illegible]	[N-12°-E]	[楕円形]	×4.30	22	平坦	−	−	1	−	−	−	不明	深鉢	阿玉台Ⅱ～Ⅲ式期	SI-437　SK-2615
439	D15[illegible]	[N-58°-W]			−	−	−	−	−	−	−	1	自然	深鉢	加曽利EⅡ式期	炉埋設　SI-433　SK-2493
440	D14[illegible]		[楕円形]	5.24×	5	平坦	−	−	2	−	−	1	不明		不明	SI-431　SK-2516,2515
452	D14[illegible]	[N-44°-W]			−	平坦	−	−	−	−	−	−	不明	深鉢、凹石	加曽利EⅡ式期	炉埋設　SK-2420
478	D14[illegible]	[N-16°-E]	[楕円形]	[3.65×3.16]	−	平坦	−	2	−	−	−	1	不明	深鉢	加曽利EⅠ式期	SK-5868
499	C13[illegible]	[N-2°-E]	楕円形	[5.60×5.00]	−	−	−	6	−	−	−	1	自然	深鉢	加曽利EⅠ式期	
500	C14[illegible]	[N-71°-W]	楕円形	5.47×3.85	12～22	平坦	−	2	−	−	−	−	自然	深鉢,磨製石斧	阿玉台Ⅲ式期	SK-2952
501	C13[illegible]	[N-2°-E]	楕円形	5.89×4.45	6～10	平坦	全周	6	10	−	−	−	自然	深鉢	中峠式期	炉埋設

（2）土坑墓

第2463号土坑（第373図）

位置　調査区の南東部，D14 g0 区。

重複関係　第2415号土坑，第2435号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形　長径［1.66］m，短径［0.52］mの長楕円形と推定され，深さは41cmである。

長軸方向　N－58°－W

壁　ほぼ垂直に立ち上がる。

底　平坦である。

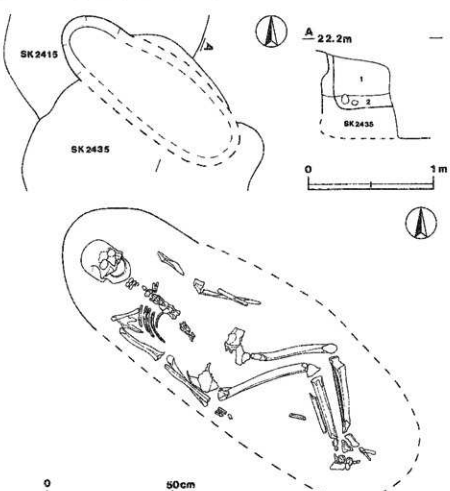
覆土　2層に分層され，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　　ローム粒子少量，炭化物微量
2　暗褐色　　ローム粒子中量，炭化物少量

遺物　縄文土器片18点が出土している。

埋葬人骨　埋葬された状態で出土した人骨は，頭位がN－60°－Wを向き，埋葬姿勢は膝立屈葬である。

所見　本跡の時期は，縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅠ式期）の土坑を掘り込んでいること及び縄文時代中期の覆土と類似することから縄文時代中期の土坑墓と考えられる。



第373図　第2463号土坑実測図

（3）土坑

第2357号土坑（第374図）

位置　調査区の南東部，D14h7区。

規模と平面形　径2.08mの円形で，深さは21cmである。

壁　外傾して立ち上がる。

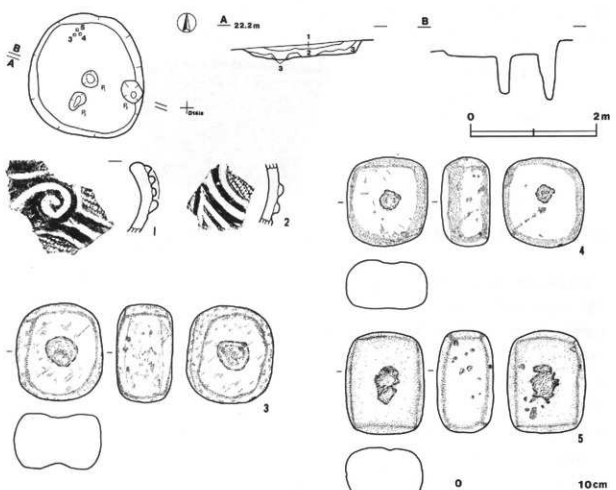
底　平坦である。

ピット　3か所。P_1は中央部に位置し，径28cmの円形で，深さは60cmである。P_2は東壁際に位置し，長径38cm，短径32cmの楕円形で，深さは74cmである。P_3は南側に位置し，長径32cm，短径21cmの楕円形で，深さは18cmである。

覆土　3層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム大ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　縄文土器片23点，磨石3点が出土している。第374図3～5の磨石は覆土下層から出土している。1は深鉢の口縁部片で，RLの単節縄文を地文に沈線による渦巻文が施されている。2は深鉢の胴部片で，地文はRLの単節縄文である。



第374図　第2357号土坑・出土遺物実測図

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅠ式期）と考えられる。

第2357号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第374図3	磨石	7.7	6.9	4.6	(405.0)	緑色凝灰岩	Q7　覆土下層　西石表用
4	磨石	7.1	6.5	3.9	(310.0)	安山岩	Q8　覆土下層　西石表用
5	磨石	8.1	6.2	4.5	(374.0)	安山岩	Q9　覆土下層　西石表用

第2361号土坑（第375図）

位置　調査区の南東部，D14ｊ6区。

重複関係　第419号住居跡の西側部分を掘り込んでいる。

規模と平面形　径0.70mの円形で，深さは47cmである。

壁　ほぼ垂直に立ち上がる。

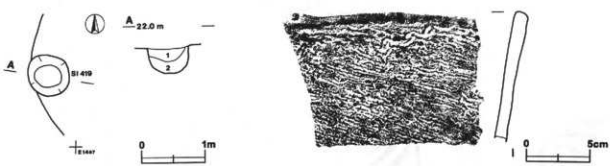
底　皿状である。

覆土　2層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子微量

遺物　縄文土器片93点が出土している。第375図1は深鉢の口縁部片で，縄文はRの無節縄文である。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期前葉（堀之内Ⅰ式期）と考えられる。



第375図　第2361号土坑・出土遺物実測図

第2364号土坑（第376～379図）

位置　調査区の南東部，E14ａ0区。

重複関係　第422号住居跡の南壁と第2376号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形　径2.40mの円形で，深さは304cmである。

壁　ほぼ垂直に立ち上がる。

底　平坦である。

覆土　18層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
2　黒褐色　炭化物少量・焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，炭化物微量
4　暗赤褐色　炭化粒子・焼土ブロック中量，炭化物少量
5　暗褐色　ローム粒子少量，炭化物微量，3層より明るい
6　黒褐色　炭化物多量，焼土粒子少量

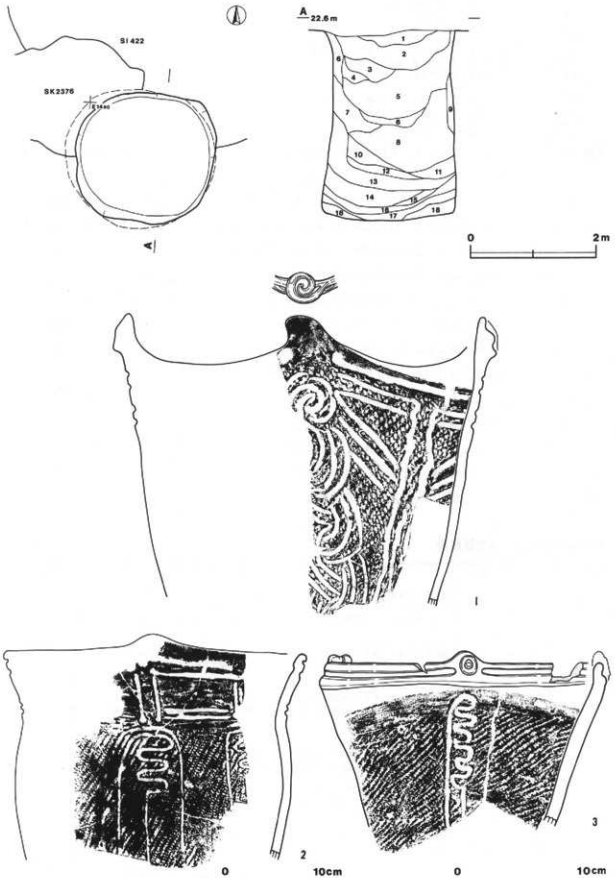
7　暗褐色　ローム粒子少量、炭化物微量、5層より暗い
8　暗褐色　ローム粒子中量、炭化物微量
9　暗褐色　ローム粒子微量
10　暗褐色　白色粘土ブロック少量、炭化物多量
11　褐　色　ローム粒子中量、ローム小ブロック微量、炭化物少量
12　黒褐色　ローム粒子少量、炭化物多量、焼土粒子微量
13　暗褐色　ローム粒子少量、炭化物多量
14　赤褐色　ローム粒子・炭化物少量
15　暗褐色　ローム粒子少量、ローム小ブロック微量、炭化物少量
16　暗褐色　ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
17　暗褐色　ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化物少量
18　暗褐色　ローム粒子多量、ローム小ブロック少量

遺物　縄文土器片2360点、敲石1点、多量の獣骨・魚骨片が出土している。1～9の深鉢の胴部から口縁部の破片、10の深鉢の胴部片、11の深鉢の底部から胴部の破片、31の敲石は覆土から出土している。12～23は深鉢の口縁部片である。12・13は波状口縁で、波頂部に円形刺突文が施されている。地文はLRの単節縄文で、沈線が斜行している。14は波状口縁で、口唇部直下に沈線が施され、波頂部に円形刺突文が施されている。口縁部より下は沈線が施されている。15は波状口縁で、波頂部に円形刺突文及び孔が施されている。口縁部より下はRLの単節縄文を地文に断面三角形の隆帯及び沈線が施されている。16は波状口縁で、口唇部直下に幅広の沈線が施されている。口縁部にはLRの単節縄文を地文に沈線が施されている。17は斜位の沈線文を有する突起を有し、口唇部は沈線が施されている。18はRLの単節縄文を地文に沈線が施されている。19は波状口縁で小突起を有し、LRの単節縄文を地文にキザミを有する隆帯及び沈線が施されている。20は波状口縁で、地文は無節縄文で、沈線が施されている。21はLRの単節縄文を地文に沈線により文様が施されている。22は渦巻状の沈線が施されている。23はRLの単節縄文を地文に沈線が施されている。24～28は深鉢の胴部片である。24～26はLRの単節縄文を地文に沈線が施されている。27は多条の沈線が波状に施されている。28はLRの単節縄文を地文に沈線が施されている。29は鉢形土器の底部片で、LRの単節縄文を地文に半截竹管による平行沈線文が施されている。30は深鉢の底部片で、底部に網代痕が見られる。

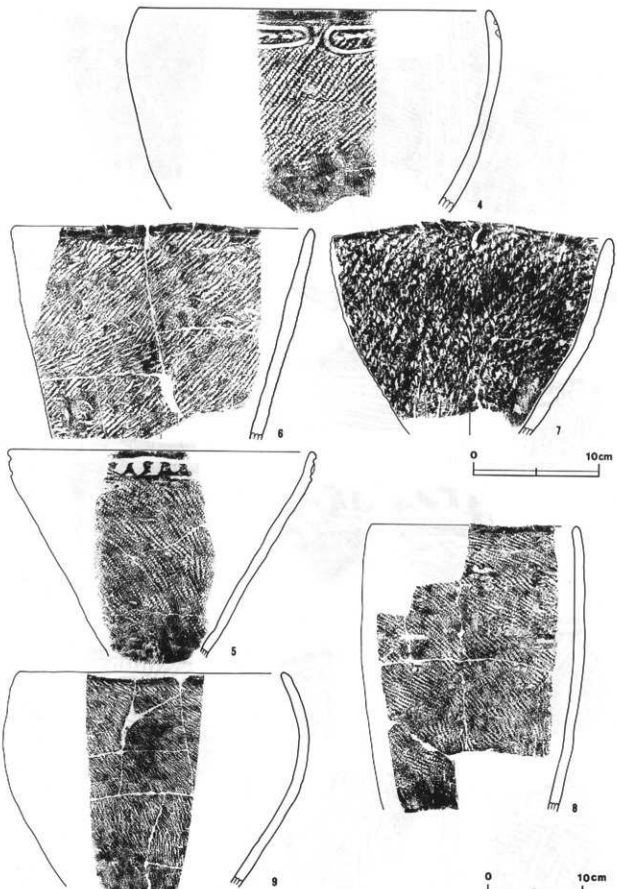
所見　本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉（堀之内Ⅰ式期）と考えられる。

第2364号土坑出土遺物観察表

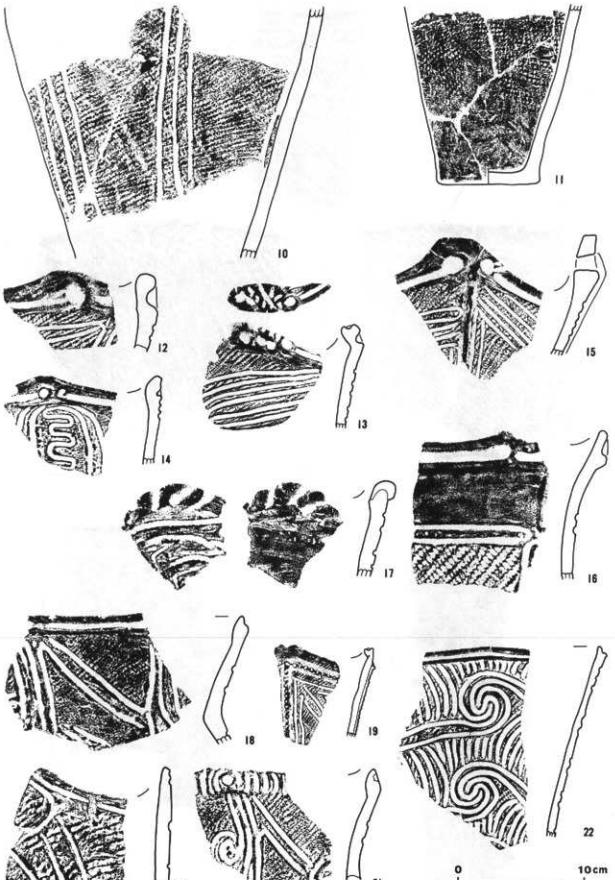
図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第376図 1	深　鉢 縄文土器	A (28.1) B (23.0)	胴部から口縁部の破片。波状口縁を呈するも僅部はわずかに外反する。口縁部には連巻文が施された小突起を有し、口唇部直下には沈線が施されている。胴部はLRの単節縄文を地文に、蛇行沈線文及び菱手文が施されている。	砂粒・石英・スコリア 黒褐色 普通	P34 20% PL53 覆土 堀之内Ⅰ式
2	深　鉢 縄文土器	A (31.8) B (23.3)	胴部から口縁部の破片。胴部上位にくびれをもち、口縁部波状口縁。口縁部には沈線及び円形刺突文が施され、胴部にはRLの単節縄文を地文に沈線による菱手文及び蛇行沈線文が施されている。	砂粒・雲母 灰褐色 普通	P35 20% PL53 覆土 堀之内Ⅰ式
3	深　鉢 縄文土器	A (21.6) B (13.0)	胴部から口縁部の破片。円形刺突文及びキザミが施された3単位の小突起を有する。口唇部直下には沈線が施されている。胴部にはLRの単節縄文を地文に蛇行沈線が施されている。	砂粒・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P36 30% PL53 覆土 堀之内Ⅰ式
第377図 4	深　鉢 縄文土器	A (25.0) B (16.0)	胴部から口縁部の破片。口縁部はわずかに内湾する。口縁部は沈線により長楕円形に区画され、区画間及び区画内に細い竹管による刺突文が施されている。胴部にはLRの単節縄文が施されている。	砂粒・石英 にぶい褐色 普通	P37 10% PL53 覆土 堀之内Ⅰ式
5	鉢 縄文土器	A (32.4) B (22.0)	胴部から口縁部の破片。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに内湾する。口縁部には2本の沈線間に大きめの円形刺突文が施されている。胴部の地文はRLの単節縄文である。	砂粒・スコリア にぶい褐色 普通	P38 20% 覆土 堀之内Ⅰ式
6	深　鉢 縄文土器	A (23.6) B (16.8)	胴部から口縁部の破片。口縁部は直線的に立ち上がる。地文は無節縄文である。	砂粒・長石 にぶい赤褐色 普通	P39 20% PL53 覆土 堀之内Ⅰ式
7	深　鉢 縄文土器	A (22.0) B (15.7)	胴部から口縁部の破片。胴部はわずかに内湾する。地文は無節縄文である。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P40 20% PL53 覆土 堀之内Ⅰ式



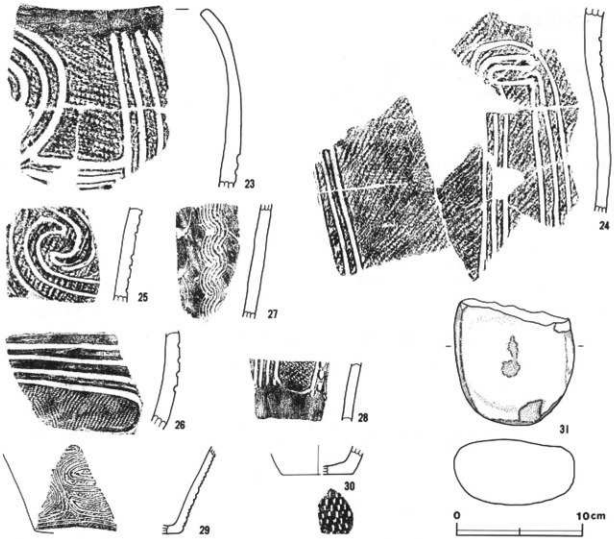
第376図　第2364号土坑・出土遺物実測図（1）



第377図　第2364号土坑出土遺物実測図（2）



第378図　第2364号土坑出土遺物実測図（3）



第379図　第2364号土坑出土遺物実測図（4）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第377図 8	深鉢 縄文土器	A (22.0) B (30.0)	胴部から口縁部の破片。口縁部はわずかに内彎して立ち上がる。地文はRLの単節縄文である。	砂粒・長石・石英 灰褐色 普通	P41 20% PL53 覆土 堀之内Ⅰ式
9	深鉢 縄文土器	A 27.5 B (22.9)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。地文は撚糸文である。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P42 70% PL53 覆土 堀之内Ⅰ式
第378図 10	深鉢 縄文土器	B (19.7)	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。RLの単節縄文を地文に、3本一組の沈線を垂下させている。	砂粒・長石・ スコリア にぶい褐色 普通	P43 15% PL53 覆土 堀之内Ⅰ式
11	深鉢 縄文土器	B (14.3) C 8.2	底部から胴部の破片。底部はわずかに突出し、胴部は外傾して立ち上がる。地文はLRの単節縄文である。	砂粒 にぶい橙色 普通	P44 30% PL53 覆土 堀之内Ⅰ式

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第379図31	敲石	(10.0)	9.1	5.3	(735.0)	緑色凝灰岩	Q10 覆土

第2365号土坑（第380・381図）

位置　調査区の南東部，D14 j9 区。

重複関係　第422号住居跡の西側部分を掘り込んでいる。

規模と平面形　径1.40mの円形で，深さは124cmである。

壁　外傾して立ち上がる。

底　平坦である。

覆土　6層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1	極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子・ローム小ブロック少量，炭化物・焼土小ブロック微量
4	暗褐色	ローム粒子少量
5	暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック中量
6	暗褐色	ローム粒子微量，ローム中ブロック少量

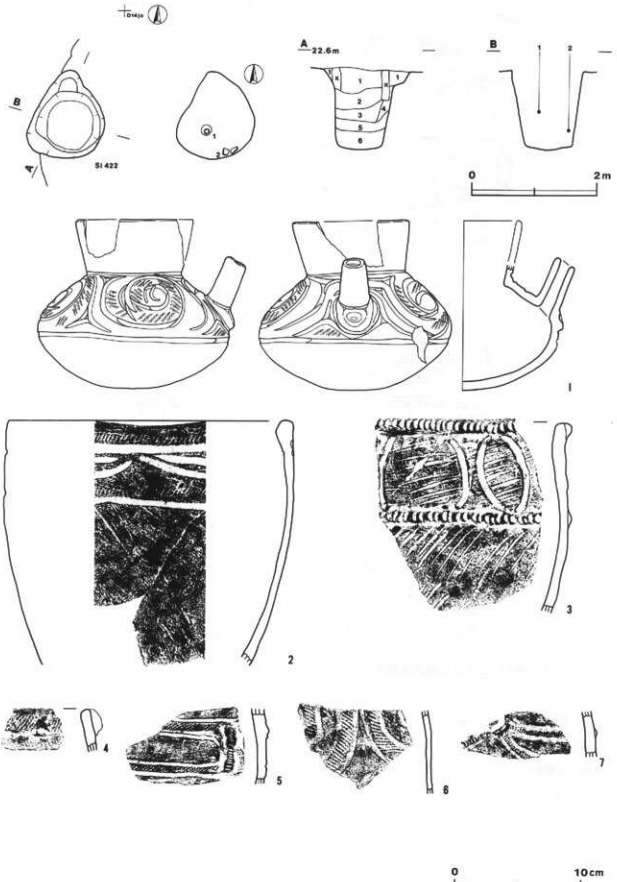
遺物　縄文土器片93点，土偶1点，土版1点，獣骨片が出土している。第380図1の注口土器は覆土中層から，2の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土下層から，第381図8の土偶及び9の土板は覆土から出土している。3～4は深鉢の口縁部片である。3はキザミをもつ紐線文が施され，紐線文による区画内に弧状の沈線が施されている。胴部は斜行する条線文が施されている。4は無節の隆起手法による縄文帯に突起が付されている。5～7は深鉢の胴部片である。5はLRの単節縄文の隆起手法による縄文帯で区画され，キザミをもつ縦長の突起が付されている。6はLRの単節縄文の幅広の沈線による磨消文が施されている。7はキザミをもつ隆帯が施されている。注口土器及び土製品は安行3a式期のものと思われるが，土器片の中に安行1・2式期のものも含まれている。8はミミズク形土偶で，9は土版である。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代晩期（安行3a式期）と考えられる。

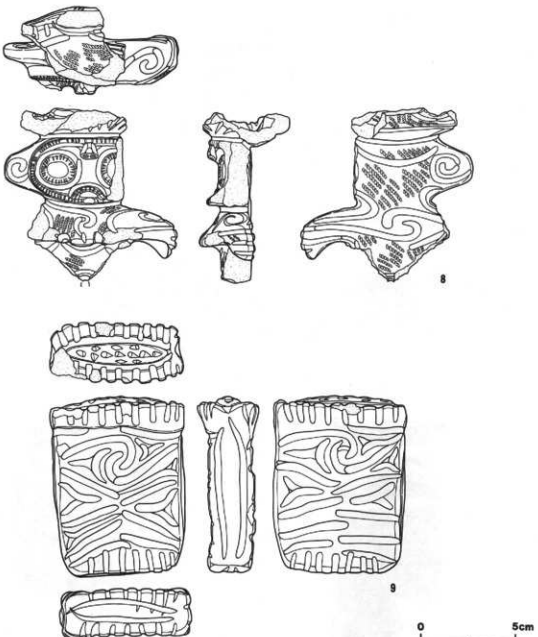
第2365号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第380図 1	注口土器 縄文土器	A 9.4 B 13.4 C 2.6	丸底で，胴部は内彎しながら立ち上がり，強く屈曲して内傾し，口縁部に至る。口縁部は無文で，ほぼ直線的に立ち上がる。胴部上位は単節縄文を地文に，浅い沈線による三叉文及び渦巻文が施されている。胴部中位に横位の沈線が施され，以下は無文である。注口基部は膨らみをもち，中央にくぼみがある。赤彩痕。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P45 90% PL54 覆土中層 安行3a式
2	深鉢 縄文土器	A [22.6] B (19.4)	胴部から口縁部の破片。胴部上位で内彎する。口縁部には横位あるいは斜位の沈線とキザミが施されている。胴部は無文である。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P45 20% PL54 覆土下層 安行3a式

図版番号	器種	計測値(cm)			重量	現存率	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ	(g)	(%)		
第381図 8	土偶	(9.2)	(9.1)	(4.6)	(146)	30	顔面部はキザミをもつ隆帯で縁取りされて，目と口もキザミをもつ隆帯で描かれている。背部及び胸部はRLの単節縄文を地文に，沈線による渦巻文と三叉文が施され，胸部は突出している。裏面はRLの単節縄文を地文に，沈線による渦巻文が施されている。赤彩痕。	DP9 覆土 安行3a式
9	土版	9.4	7.3	3.2	(249)	95	上端側面にキザミが施され，頭部は沈線により長楕円形に区画され，区画内には刺突文が施されている。表面及び裏面に沈線による三叉文が施されている。	DP10 覆土 安行3a式



第380図　第2365号土坑・出土遺物実測図（1）



第381図　第2365号土坑出土遺物実測図（2）

第2366号土坑（第382図）

位置　調査区の南東部，D14h9区。

規模と平面形　長径2.83m，短径1.90mの不定形で，深さは67cmである。

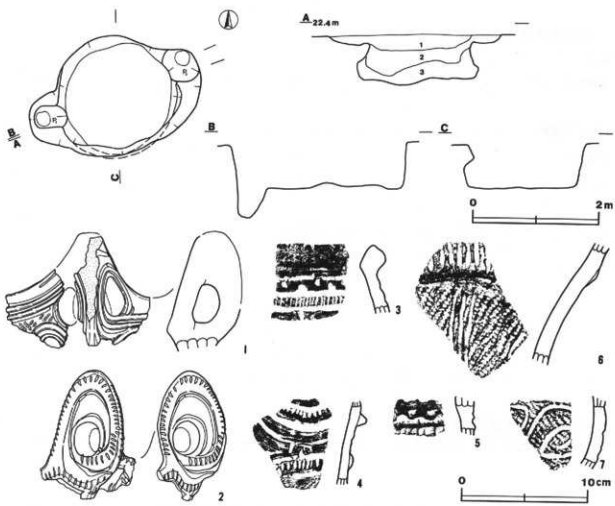
長径方向　N－60°－E

壁　袋状である。

底　平坦である。

ピット　2か所。P_1は西壁際に位置し，長径50cm，短径30cmの楕円形で，深さは117cmである。P_2は東壁際に位置し，長径60cm，短径48cmの楕円形で，深さは74cmである。

覆土　3層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。



第382図　第2366号土坑・出土遺物実測図

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量，ローム中ブロック少量
3　褐　色　ローム粒子少量，ローム大ブロック中量

遺物　縄文土器片135点が出土している。第382図1・2の深鉢の把手は覆土から出土している。3は深鉢の口縁部片で，沈線間に交互刺突文及びキザミが施されている。4～7は深鉢の胴部片である。4はLRの単節縄文を地文に，隆帯及び沈線が施され，隆帯にはキザミが施されている。5は2本の沈線間に交互刺突文が施されている。6・7はRLの単節縄文を地文に沈線が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

第2366号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第382図 1	深　鉢 縄文土器	B (8.7)	環状把手。孔に沿って2本あるいは3本の沈線が施されている。以下はRLの単節縄文を地文に，沈線の施された隆帯が貼り付けられている。	砂粒 褐色 普通	P47　5% 覆土 中峠式
2	深　鉢 縄文土器	B (10.3)	表側にはキザミをもつ厚い隆帯が貼り付けられ，隆帯に沿って沈線が施されている。裏側には厚い隆帯が貼り付けられ，隆帯に沿ってキザミが施されている。	砂粒・長石・雲母 褐色 普通	P48　5% 覆土 中峠式

第2370号土坑（第383図）

位置　調査区の南東部，D14ｉ8区。

重複関係　第421号住居跡の北西壁を掘り込んでいる。南西部分で第2371号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　長径2.05m，短径1.88mの楕円形で，深さは45cmである。

長径方向　N－0°

壁　外傾して立ち上がる。

底　平坦である。

ピット　1か所。P_1は中央部に位置し，長径25cm，短径20cmの楕円形で，深さは48cmである。

覆土　3層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

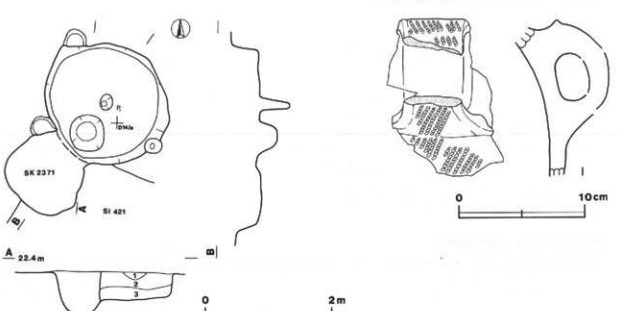
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量，ローム小ブロック少量
2　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム大ブロック微量
3　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中・大ブロック少量

遺物　縄文土器片77点が出土している。第383図1の広口壺把手部片は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅣ式期）と考えられる。

第2370号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第383図1	広口壺 縄文土器	B（11.6）	楕状把手。把手表面及び胴部にＲＬの単節縄文が施されている。	砂粒・スコリア 浅黄橙色 普通	P49　5％ 覆土 加曽利ＥⅣ式



第383図　第2370号土坑・出土遺物実測図

第2372号土坑（第384図）

位置　調査区の南東部，D14ｊ8 区。

重複関係　第421号住居跡の西側部分を掘り込んでいる。南西部分で第2373号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　長径1.56m，短径1.37mの楕円形で，深さは40cmである。

長径方向　N－3°－E

壁　段状である。

底　平坦である。

覆土　3層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

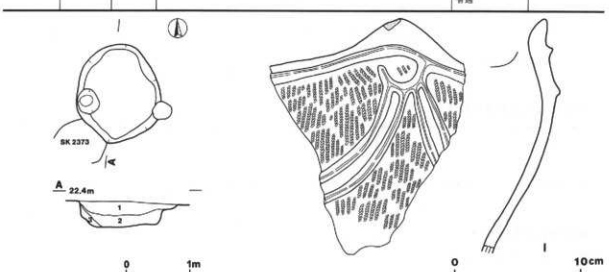
土層解説
1　褐　色　ローム粒子・炭化物少量，ローム小ブロック微量
2　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化物微量
3　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

遺物　縄文土器片49点が出土している。第384図１の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅢ式期）と考えられる。

第2372号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第384図 1	深　鉢 縄文土器	B（18.6）	胴部から口縁部の破片。胴部は外傾し，口縁部はわずかに内彎する。波状口縁。口縁帯は隆起線を巡らし，無文帯を作っている。胴部はＲＬの単節縄文を地文とし，２本一組の微隆起線文が施されている。	砂粒・石英・雲母 スコリア にぶい褐色 普通	P50　10%　PL54 覆土 加曽利ＥⅢ式



第384図　第2372号土坑・出土遺物実測図

第2374号土坑（第385図）

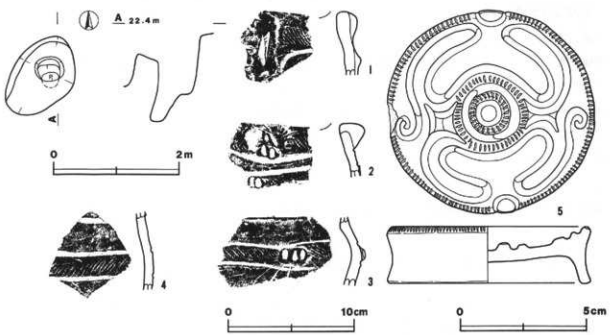
位置　調査区の南東部，E15ａ1 区。

規模と平面形　長径1.40m，短径0.98mの楕円形で，深さは22cmである。

長径方向　N－45°－W

壁　外傾して立ち上がる。

底　平坦である。



第385図　第2374号土坑・出土遺物実測図

ピット　1か所。P_1は中央部に位置し，長径49cm，短径40cmの楕円形で，深さは99cmである。

遺物　縄文土器片265点及び土製耳飾り1点が出土している。第385図5の土製耳飾りは覆土から出土している。1・2は深鉢の口縁部片である。1はRLの単節縄文の隆起手法による縄文帯に貼付文が付けられている。2はRLの単節縄文の隆起手法による縄文帯に，ブタ鼻状貼付文が付けられている。3・4は深鉢の胴部片である。3はRLの単節縄文の沈線手法の縄文帯にキザミをもつ貼付文が付けられている。4はLRの単節縄文の沈線手法の縄文帯が施されている。5は土製耳飾りである。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期後葉（安行2a式期）と考えられる。

第2374号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
第385図5	土製耳飾り	8.0	8.2	2.4	(84)	95	台状。沈線による羊歯状の文様及びキザミ。	DP11　覆土

第2375号土坑（第386図）

位置　調査区の南東部，D14h9区。

重複関係　北側部分を第2401号土坑に掘り込まれている。東側部分で第2410号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

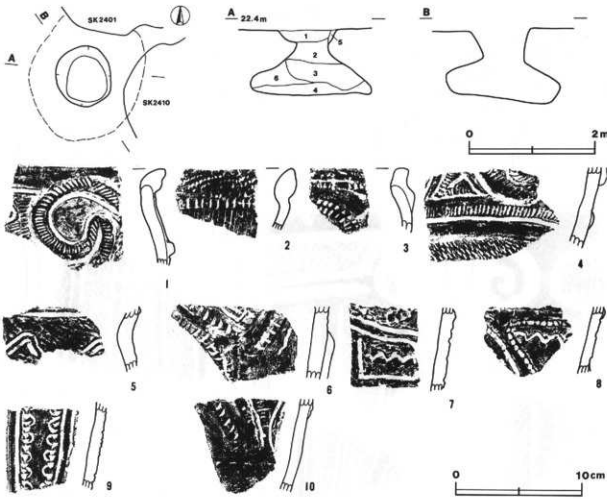
規模と平面形　径0.98mの円形で，深さは110cmである。

壁　袋状である。

底　平坦である。

覆土　6層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
4　褐　色　ローム粒子中量
5　褐　色　ローム粒子多量
6　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量



第386図　第2375号土坑・出土遺物実測図

遺物　縄文土器片26点が出土している。第386図１～３は深鉢の口縁部片である。１は隆帯にキザミが施されている。２は口縁部上端に単節ＬＲの縄文が施され，その下に瓜形文が施されている。３は押引き刺突文が施されている。４～10は深鉢の胴部片である。４は頸部に隆帯を巡らし，口縁部はキザミをもつ隆帯により文様を施している。胴部は撚糸文を施している。５は横位の沈線及び半截竹管による山形沈線文が施されている。６・８は断面三角形の隆帯に沿って押引き文が施されている。７は沈線及び結節沈線文が施されている。９は隆帯に沿って半截竹管による刺突文が施されている。10は沈線及びキザミのある隆帯が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

第2376号土坑（第387図）

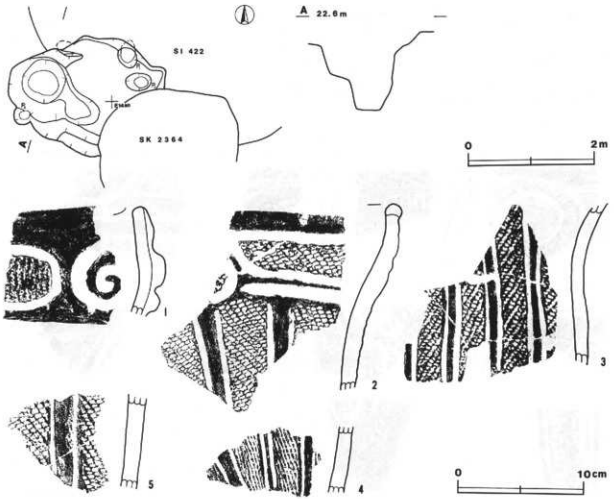
位置　調査区の南東部，D14ｊ9区。

重複関係　第422号住居跡の南西側部分を掘り込んでいる。南東部分で第2364号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　長径1.58m，短径1.46mの楕円形で，深さは74cmである。

長径方向　Ｎ－90°－Ｅ

壁　段状である。



第387図　第2376号土坑・出土遺物実測図

底　平坦である。

ピット　3か所。P_1は北東壁際に位置し，長径35cm，短径28cmの楕円形で，深さは20cmである。P_2は東側に位置し，長径40cm，短径28cmの楕円形で，深さは28cmである。P_3は南西壁際に位置し，径32cmの円形と推定され，深さは40cmである。

遺物　縄文土器片124点が出土している。第387図1・2は深鉢の口縁部片である。1は隆帯による渦巻文及び沈線による楕円区画文が施され，区画内には無節縄文が施されている。2は複節縄文を地文に沈線による区画文及び磨消懸垂文が施されている。3～5は深鉢の胴部片である。3はRLの単節縄文を地文に2本沈線の磨消懸垂文が施されている。4は撚糸文を地文に2本沈線の磨消懸垂文が施されている。5は幅広の2本沈線の磨消懸垂文が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利EⅡ式期）と考えられる。

第2377号土坑（第388図）

位置　調査区の南東部，D15j2区。

規模と平面形　径1.89mの円形で，深さは127cmである。

壁　外傾して立ち上がる。

底　平坦である。

覆土　7層に分層され，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子少量，ローム少ブロック・炭化粒子・炭化物・焼土粒子・焼土小ブロック微量
4　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
5　明 褐 色　ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
6　明 褐 色　ローム粒子・炭化粒子微量
7　にぶい褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子微量

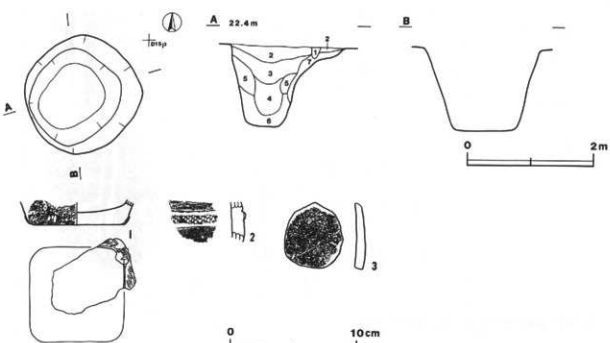
遺物　縄文土器片50点，土器片円盤1点が出土している。第388図1の角底鉢の底部片及び3の土器片円盤は覆土から出土している。2は深鉢の胴部片であり，RLの単節縄文の隆起手法による縄文帯が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期後葉（安行2式期）と考えられる。

第2377号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第388図1	角底鉢縄文土器	B (2.0) C　8.1	底部片。底部が四角形になる鉢で，沈線及びLRの単節縄文の沈線手法の帯縄文が施され，角に四つのキザミをもつ瘤が貼り付けられている	砂粒・スコリア にぶい褐色 普通	P175　5％ 覆土 安行2式

図版番号	器　種	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備　考
第388図3	土器片円盤	5.2	4.5	0.7	(20.0)	95	無文。	DP12　覆土



第388図　第2377号土坑・出土遺物実測図

第2378号土坑（第389図）

位置　調査区の南東部，D15a2区。

重複関係　第423号住居跡の炉を掘り込んでいる。北東部分で第2409号土坑と重複し，南側部分で第2407号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　長径1.69m，短径1.29mの楕円形で，深さは31cmである。

長径方向　N－59°－W

壁　外傾して立ち上がる。

底　皿状である。

覆土　2層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

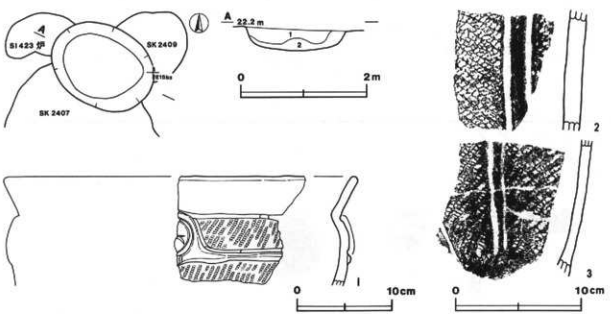
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
2　褐　色　ローム粒子・ローム中ブロック中量

遺物　縄文土器片91点が出土している。第389図1は深鉢の胴部から口縁部の破片で，覆土から出土している。2・3は深鉢の胴部片である。2は複節縄文を地文に2本沈線の磨消懸垂文が施されている。3はRLの単節縄文を地文に2本沈線の磨消懸垂文が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利EⅡ式期）と考えられる。

第2378号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第389図 1	深　鉢 縄文土器	A（36.0） B（11.5）	胴部から口縁部の破片。胴部上位でわずかに内彎し，口縁部は外短する。口縁部は無文で，以下はLRの単節縄文を地文に沈線及び隆帯で区画文が施されている。	砂粒 にぶい橙色 普通	P51　5%　PL54 覆土 加曽利EⅡ式



第389図　第2378号土坑・出土遺物実測図

第2380号土坑（第390図）

位置　調査区の南東部，E15a1区。

重複関係　北東部分で第2379号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　長径0.70m，短径0.50mの楕円形で，深さは60cmである。

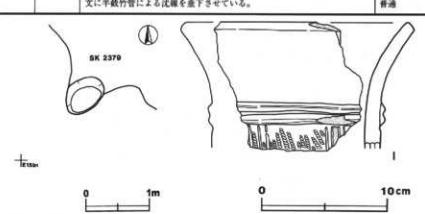
長径方向　N－43°－W

遺物　縄文土器片２点が出土している。第390図１の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅠ式期）と考えられる。

第2380号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第390図 1	深　鉢 縄文土器	A［17.6］ B　(9.8)	胴部から口縁部の破片。口縁部はわずかに外反する。口縁部は無文である。口縁部と胴部は沈線を有する隆帯で区画され，胴部はＬＲの単節縄文を地文に半截竹管による沈線を垂下させている。	砂粒 橙色 普通	P52　10%　PL54 覆土 加曽利ＥⅠ式



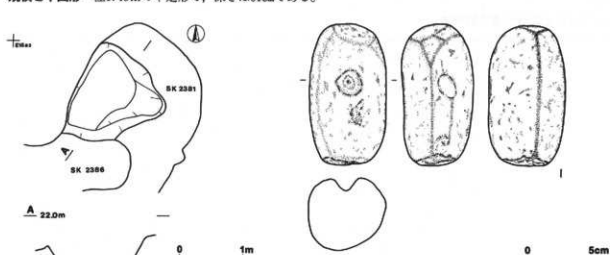
第390図　第2380号土坑・出土遺物実測図

第2383号土坑（第391図）

位置　調査区の南東部，E15a2区。

重複関係　第2381号土坑の西側部分を掘り込んでいる。南側部分で第2386号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　径1.45mの不定形で，深さは61cmである。



第391図　第2383号土坑・出土遺物実測図

長径方向　N－60°－E

壁　緩やかに立ち上がる。

底　皿状である。

遺物　縄文土器片97点，敲石１点が出土している。第391図１の敲石は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物は少量であるが，出土遺物から縄文時代後期と考えられる。

第2383号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第391図１	敲　石	11.2	6.2	3.9	606.9	安山岩	Q11　覆土　石石兼用

第2388号土坑（第392図）

位置　調査区の南東部，D15ｉ1区。

規模と平面形　径2.05ｍの円形で，深さは48cmである。

壁　ほぼ垂直に立ち上がる。

底　平坦である。

ピット　３か所。P_1は北壁際に位置し，径52cmの円形で，深さは28cmである。P_2は南壁際に位置し，径34cmの円形で，深さは46cmである。P_3は南西壁際に位置し，径44cmの円形で，深さは60cmである。

覆土　５層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

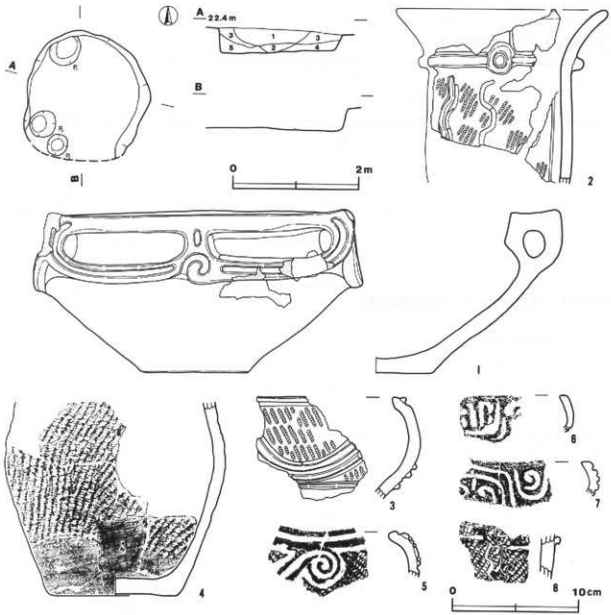
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・炭化物微量
2　褐　色　ローム粒子・ローム中ブロック少量
3　褐　色　ローム粒子少量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量

遺物　縄文土器片177点が出土している。第392図１の浅鉢，２の深鉢の胴部から口縁部の破片，３の深鉢の口縁部片及び４の深鉢の底部から胴部の破片は覆土から出土している。５～７は深鉢の口縁部片である。５は隆帯により渦巻文が施されている。地文はＲＬの単節縄文である。６・７は沈線で文様が施されている。８は深鉢の胴部片で，ＲＬの単節縄文を地文とし，隆帯を巡らしている。波状の沈線を垂下させている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅠ式期）と考えられる。

第2388号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第392図 1	浅　鉢 縄文土器	A　24.4 B　13.0	胴部は外傾して立ち上がる。口縁部には３単位の把手が付く。把手から延びる隆帯により，把手と把手の間に渦巻文が施されている。渦巻文に至るまでの隆帯には沈線が施されている。胴部は無文である。赤彩痕。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P53　75%　PL34 覆土 加曽利ＥⅠ式
2	深　鉢 縄文土器	A（17.0） B（13.5）	胴部から口縁部の破片。胴部はわずかに内傾し，口縁部は外反する。口縁部は無文で，口縁部と胴部は円形刺突の施された突起をもつ隆帯で区画されている。胴部はＲＬの単節縄文を地文に，蛇行する隆帯に沿って２本の蛇行沈線文及び懸垂文が施されている。	砂粒・長石・スコリア 褐灰色 普通	P54　20%　PL54 覆土 加曽利ＥⅠ式
3	深　鉢 縄文土器	B（8.2）	口縁部片。口縁部は内傾する。隆帯を巡らして口縁部文様帯を形成し，ＲＬの単節縄文を地文として２本一組の隆帯を施している。	砂粒・長石・雲母 明赤褐色 普通	P55　5%　PL54 覆土 加曽利ＥⅠ式
4	深　鉢 縄文土器	B（15.4） C　10.0	底部から胴部の破片。胴部は中位で内彎する。地文はＲＬの単節縄文である。	砂粒・石英・雲母 スコリア にぶい橙色 普通	P56　30%　PL54 覆土 加曽利ＥⅠ式



第392図　第2388号土坑・出土遺物実測図

第2389号土坑（第393図）

位置　調査区の南東部，D15j1区。

規模と平面形　径1.40mの円形で，深さは104cmである。

壁　外傾して立ち上がる。

底　平坦である。

覆土　6層に分層され，覆土の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

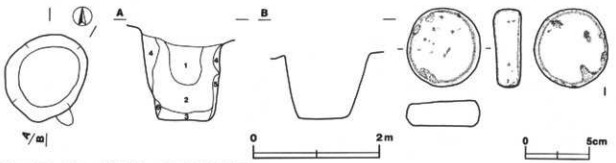
1　褐　色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　　ローム粒子・ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　　ローム粒子・ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量，2層より色調が暗い
4　褐　色　　ローム粒子微量，ロームブロック少量
5　褐　色　　ローム粒子微量，ロームブロック少量，4層より色調が明るい
6　褐　色　　ローム粒子・焼土粒子微量，ローム小ブロック少量

遺物　縄文土器片304点，磨石1点が出土している。第393図1の磨石は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期と考えられる。

第2389号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第393図1	磨石	6.3	5.8	2.2	(120.0)	安山岩	Q12 覆土



第393図　第2389号土坑・出土遺物実測図

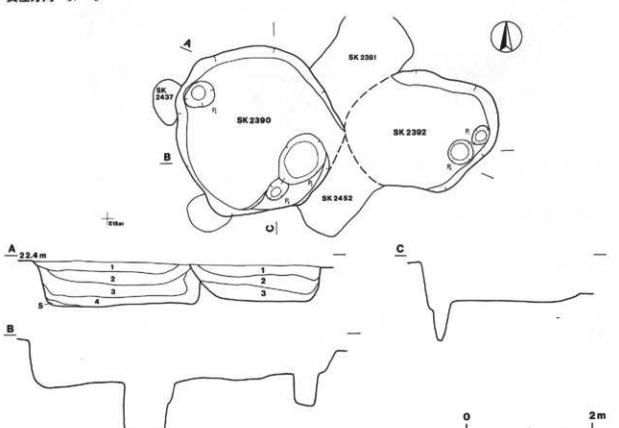
第2390号土坑（第394図）

位置　調査区の南東部，D15j1区。

重複関係　第2392号土坑に掘り込まれている。東側部分で第2391号土坑，第2452号土坑と，西側部分で第2437号土坑とそれぞれ重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　長径2.70m，短径2.57mの楕円形で，深さは76cmである。

長径方向　N－0°



第394図　第2390・2392号土坑実測図

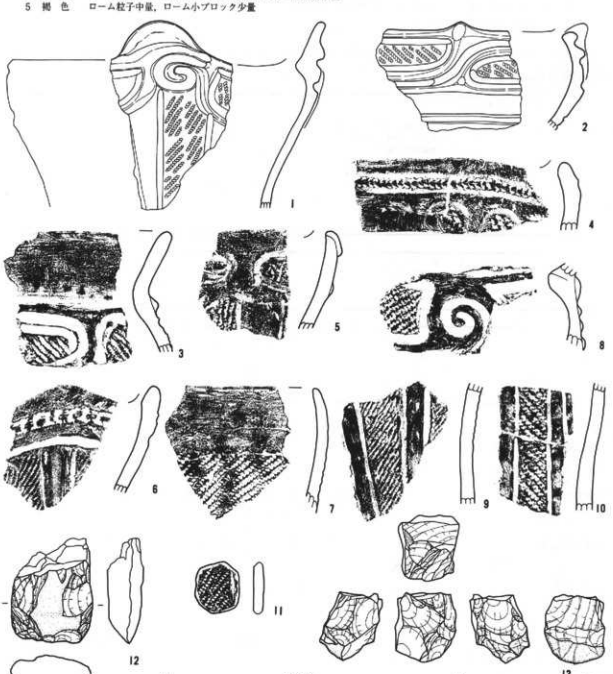
壁　ほぼ垂直に立ち上がる。

底　平坦である。

ピット　3か所。P_1は北西壁際に位置し，長径50cm，短径42cmの楕円形で，深さは46cmである。P_2は南東壁際に位置し，長径86cm，短径65cmの楕円形で，深さは87cmである。P_3は南壁際に位置し，長径40cm，短径28cmの楕円形で，深さは68cmである。

覆土　5層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　褐　色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物微量
3　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量，ローム小ブロック微量
4　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
5　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量



第395図　第2390号土坑出土遺物実測図

遺物　縄文土器片932点，土器片円盤１点，打製石斧１点，石核１点が出土している。第395図１・２の深鉢の口縁部片，11の土器片円盤，12の打製石斧及び13の石核は覆土から出土している。３・８は鉢の口縁部片である。３は隆帯による長方形区画文内にＲＬの単節縄文が施されている。８は隆帯で渦巻文及び長方形区画文が施され，区画内にはＲＬの単節縄文が施されている。４～７は深鉢の口縁部から胴部の破片である。４は口唇部直下に半截竹管による刺突文が施されている。胴部は沈線による逆Ｕ字状文内に複節文を充填している。５は隆帯で楕円区画文が施され，区画内にはＲＬの単節縄文が施されている。胴部はＲＬの単節縄文を地文に沈線の磨消懸垂文が施されている。６は波状口縁で，半截竹管による瓜形文を巡らしている。胴部はＲＬの単節縄文を地文に２本単位の沈線を垂下させ，幅広の沈線間を磨り消している。７はＲＬの単節縄文を施している。９・10は深鉢の胴部片である。９はＲＬの単節縄文を地文に２本沈線の磨消懸垂文が施されている。10は複節縄文を地文に沈線の磨消懸垂文が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅡ式期）と考えられる。

第2390号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第395図 1	深鉢 縄文土器	A〔23.4〕 B（15.0）	胴部から口縁部の破片。口縁部はわずかに内彎する。波頂部に突起をもつ。口縁部は隆線と沈線で渦巻文及び区画文を描き，区画内にＲＬの単節縄文が施されている。胴部はＲＬの単節縄文を地文に，２本沈線による幅広の磨消懸垂文が施されている。	砂粒・長石・スコリアにぶい褐色	P57　5％ 覆土 加曽利ＥⅡ式
2	深鉢 縄文土器	B（8.5）	口縁部片。口縁部には沈線及び隆帯による区画文が施され，隆帯は口縁端部で突起をもつ。区画内にはＲＬの単節縄文が施されている。	砂粒・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P58　10％ PL54 覆土 加曽利ＥⅡ式

図版番号	器種	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
第395図11	土器片円盤	4.1	3.6	0.7	(16.0)	95	沈線及び単節縄文Ｒｌ。	ＤＰ13　覆土

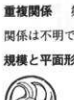
図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
第395図12	打製石斧	(8.3)	6.5	2.8	(164.0)	砂岩	Q13　覆土
13	石核	2.7	2.4	2.5	(19.0)	チャート	Q14　覆土

第2392号土坑（第394図）

位置　調査区の南東部，Ｄ15ｊ2区。

重複関係　第2391号土坑を掘り込んでいる。西側部分で第2390号土坑，第2452号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　長径〔2.45〕m，短径〔2.00〕mの楕円形と推定され，深さは45cmである。



第396図　第2392号土坑出土遺物実測図

長径方向　Ｎ－5°－Ｗ

壁　外傾して立ち上がる。

底　平坦である。

ピット　２か所。P_1は東壁際に位置し，長径33cm，短径25cmの楕円形で，深さは11cmである。P_2は南東壁際に位置し，径42cmの円形で，深さは51cmである。

覆土　３層に分層され，自然堆積と考えられる。

土層解説
1 褐 色 ローム粒子・炭化物少量
2 褐 色 ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化物微量
3 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

遺物 縄文土器片129点，土製耳飾り1点が出土している。第396図1の土製耳飾りは覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期から晩期と考えられる。

第2392号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備 考
第396図1	土製耳飾り	2.0	2.0	1.4	(3.0)	95	臼状。弧線。	DP14 覆土

第2394号土坑（第397図）

位置 調査区の南東部，D14h0区。

重複関係 第424号住居跡の北壁を掘り込んでいる。

規模と平面形 径1.45mの円形で，深さは119cmである。

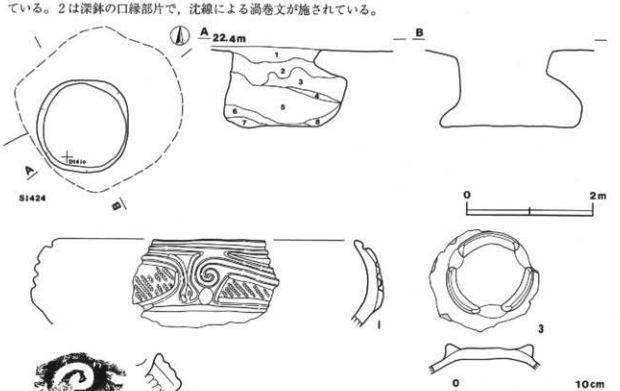
壁 袋状である。

底 平坦である。

覆土 8層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
3 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
4 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
5 褐 色 ローム粒子多量，ローム中ブロック中量
6 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子多量
7 褐 色 ローム粒子多量，ローム大ブロック中量
8 褐 色 ローム粒子多量，ローム中ブロック少量

遺物 縄文土器片170点及び土製蓋が出土している。第397図1の深鉢の口縁部片及び3の蓋は覆土から出土している。2は深鉢の口縁部片で，沈線による渦巻文が施されている。



第397図 第2394号土坑・出土遺物実測図

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅠ式期）と考えられる。

第2394号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第397図 1	深鉢 縄文土器	A［23.2］ B（6.9）	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部には隆帯と沈線による区画文及び渦巻文が施されている。区画内には，ＲＬの単節縄文が充塡されている。以下は無文である。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P59 5% PL54 覆土 加曽利ＥⅠ式

図版番号	器種	計測値(cm)			重量	現存率	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ	(g)	(%)		
第397図3	土製素	(6.2)	－	(1.9)	(73.0)	60	3本の隆帯を貼り付けた把手。赤彩痕。	DP39 覆土

第2396号土坑（第398・399図）

位置 調査区の南東部，D14g8区。

重複関係 南側部分で第2397号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径3.05m，短径2.62mで，不定形で，深さは61cmである。

長径方向 N－44°－W

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 ほぼ平坦である。

ピット 4か所。P_1は中央部に位置し，径28cmの円形で，深さは42cmである。P_2は南西壁際に位置し，径47cmの円形で，深さは65cmである。P_3は北西壁際に位置し，長径86cm，短径69cmの楕円形で，深さは31cmである。P_4は北側に位置し，径32cmの円形で，深さは9cmである。

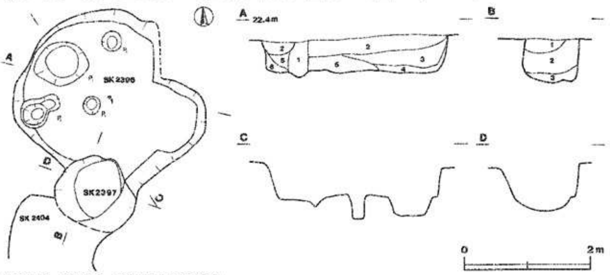
覆土 6層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	焼土粒子・炭化物少量	4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	5	褐色	ローム粒子・ロームブロック少量
3	暗褐色	ローム粒子・ロームブロック少量	6	褐色	ローム粒子・ロームブロック中量

遺物 縄文土器片27点が出土している。第399図1の鉢の底部から胴部の破片は覆土から出土している。2は隆起線文及びＲＬの単節縄文が施されている。

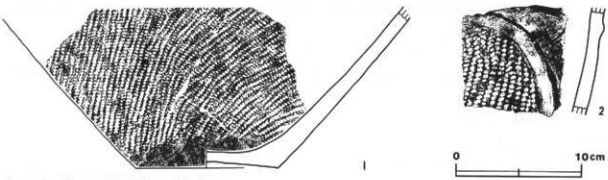
所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅢ式期）と考えられる。



第398図 第2396・2397号土坑実測図

第2396号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第399図 1	鉢 縄文土器	B (12.7) C (11.4)	底部から胴部の破片。胴部は外傾して立ち上がる。地文はRLの単節縄文である。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P61 10% PL55 覆土 加曽利E II式



第399図　第2396号土坑出土遺物実測図

第2397号土坑（第398・400図）

位置　調査区の南東部，D14g8区。

重複関係　北側部分で第2396号土坑と重複し，南西側部分で第2404号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

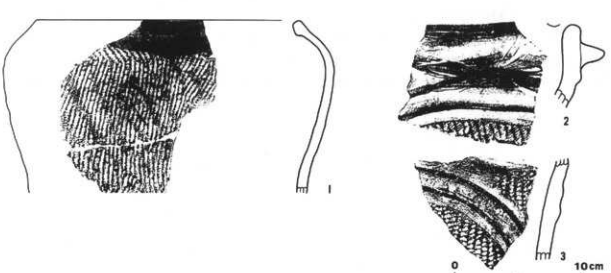
規模と平面形　径1.04mの円形と推定され，深さは75cmである。

壁　外傾して立ち上がる。

底　皿状である。

覆土　3層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　　ローム粒子・焼土粒子少量
2　褐　色　　ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
3　褐　色　　ローム粒子・ローム中ブロック少量



第400図　第2397号土坑出土遺物実測図

遺物　縄文土器片267点，不明土製品３点が出土している。第400図１の深鉢は覆土から出土している。２は深鉢の口縁部片で，幅広の沈線及び断面三角形の隆帯が施されている。縄文はＲＬの単節縄文である。３は深鉢の胴部片で，ＲＬの単節縄文を地文に撚糸起線文が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅢ式期）と考えられる。

第2397号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第400図 1	深鉢 縄文土器	A (21.0) B (13.3)	胴部から口縁部の破片。胴部下位は内湾する。地文はＲＬの単節縄文で，口縁部は縄文を磨り消している。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P62 10% PL55 覆土 加曽利ＥⅢ式

第2399号土坑（第401図）

位置　調査区の南東部，D14g9区。

重複関係　北東部分で第2421号土坑，東側部分で第2420号土坑，南東部分で第2401号土坑とそれぞれ重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　径1.96mの円形で，深さは44cmである。

壁　ほぼ垂直に立ち上がる。

底　平坦である。

ピット　６か所。P_1は北壁際に位置し，長径57cm，短径46cmの楕円形で，深さは85cmである。P_2は北側に位置し，径50cmの円形で，深さは44cmである。P_3は東壁際に位置し，長径51cm，短径45cmの楕円形で，深さは16cmである。P_4は南東壁際に位置し，長径67cm，短径32cmの楕円形で，深さは26cmである。P_5は南側に位置し，長径53cm，短径38cmの楕円形で，深さは59cmである。P_6は南壁を掘り込み，径48cmの円形である。

覆土　４層に分層され，覆土の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子・ローム中ブロック少量
3　褐　色　ローム大ブロック多量
4　褐　色　ローム粒子・ローム大ブロック多量

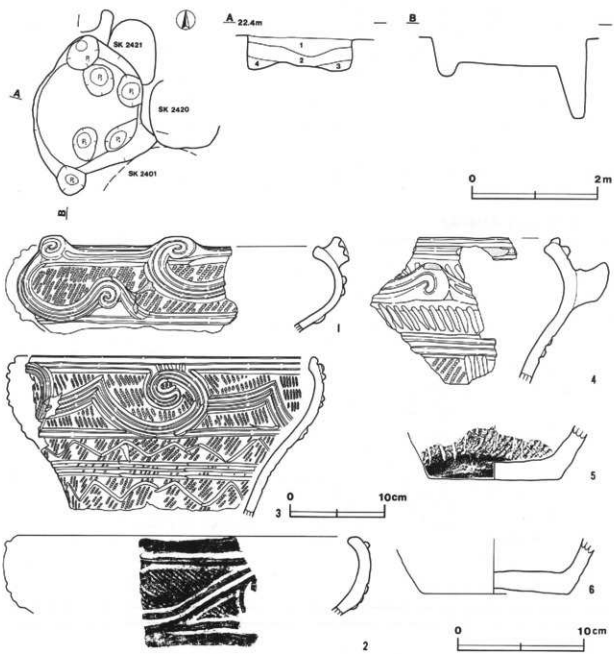
遺物　縄文土器片134点が出土している。第401図１・２の深鉢の口縁部片，３・４の深鉢の胴部から口縁部の破片及び５・６の深鉢の底部片は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅠ式期）と考えられる。

第2399号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第401図 1	深鉢 縄文土器	A (30.0) B (10.1)	口縁部片。口縁部は内湾する。口縁部は隆帯及び沈線で渦巻文及び区画文を描き，区画内に及しの単節縄文が施されている。口縁端部に施された渦巻文は，内傾で突出する。胴部は無文である。	砂粒・黒石・石英 黒褐 にぶい褐色 普通	P63 5% 覆土 加曽利ＥⅠ式
2	深鉢 縄文土器	A (35.2) B (8.3)	口縁部片。隆帯及び沈線による区画文が施され，区画内には無節縄文が充填されている。胴部は無文である。	砂粒・長石・スコリア にぶい赤褐色 普通	P65 10% PL55 覆土 加曽利ＥⅠ式
3	深鉢 縄文土器	A (31.0) B (17.6)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内湾する。口縁部には２本１組の隆帯で区画文及び渦巻文が施され，区画内にＲＬの単節縄文が充填されている。渦巻文直上の隆帯にはキザミが施されている。底はＲＬの単節縄文を施文に由原沈線文及び縦位の沈線が施されている。	砂粒 橙色 普通	P64 30% PL55 覆土 加曽利ＥⅠ式

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第401図 4	深　鉢 縄文土器	B (11.6)	胴部から口縁部の破片。口縁部に沈線による渦巻文が施された突起を有し、地文として沈線が斜位に施されている。口縁部と胴部は2本の沈線で区画され、胴部はRLの単節縄文を地文に沈線を垂下させている。	砂粒・長石・雲母 暗褐色 普通	P66　10%　PL55 覆土 加曽利EⅠ式
5	深　鉢 縄文土器	B (4.5) C 10.4	底部片。LRの単節縄文を地文に縦位の沈線が施されている。	砂粒・石英・スコリア 橙色 普通	P67　15%　PL55 覆土 加曽利EⅠ式
6	深　鉢 縄文土器	B (3.5) C 11.6	底部片。外傾して立ち上がる。無文である。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P68　5%　PL55 覆土 加曽利EⅠ式



第401図　第2399号土坑・出土遺物実測図

第2401号土坑（第402・403図）

位置　調査区の南東部，D14g9区。

重複関係　南側部分で第2375号土坑と接しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　長径2.46m，短径2.00mの楕円形で，深さは120cmである。

長径方向　N－85°－W

壁　ほぼ垂直に立ち上がる。

底　平坦である。

覆土　6層に分層され，覆土の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1	褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	4	暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5	褐色	ローム小ブロック多量
3	褐色	ローム少ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量	6	褐色	ローム粒子・ローム小ブロック少量

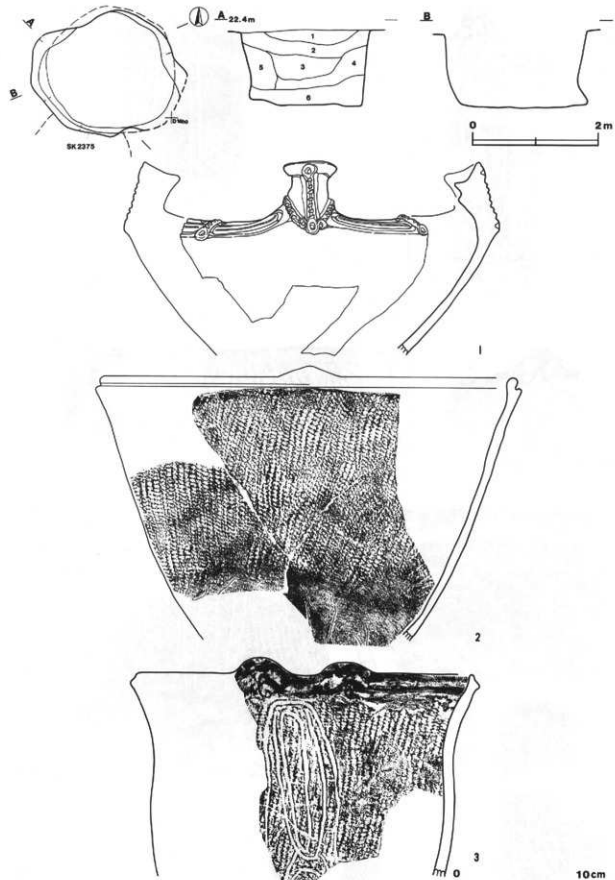
遺物　縄文土器片598点，土器片円盤1点，獣骨片が出土している。1・2の鉢形土器の胴部から口縁部の破片，3～5の深鉢の胴部から口縁部の破片，6・7の深鉢の底部片及び15の土器片円盤は覆土から出土している。8～12は深鉢の口縁部片である。8は波状口縁で，地文はＬＲの単節縄文である。8は混入したものである。9は条線が横位，縦位あるいは斜位に施されている。10はＬＲの単節縄文が地文で，補修孔が見られる。11はＬＲの単節縄文を地文に沈線が施されている。12は波状口縁で，地文はＬＲの単節縄文である。13・14は深鉢の胴部片で，ＬＲの単節縄文を地文に沈線が施されている。15は土器片円盤である。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期前葉（堀之内Ⅰ式期）と考えられる。

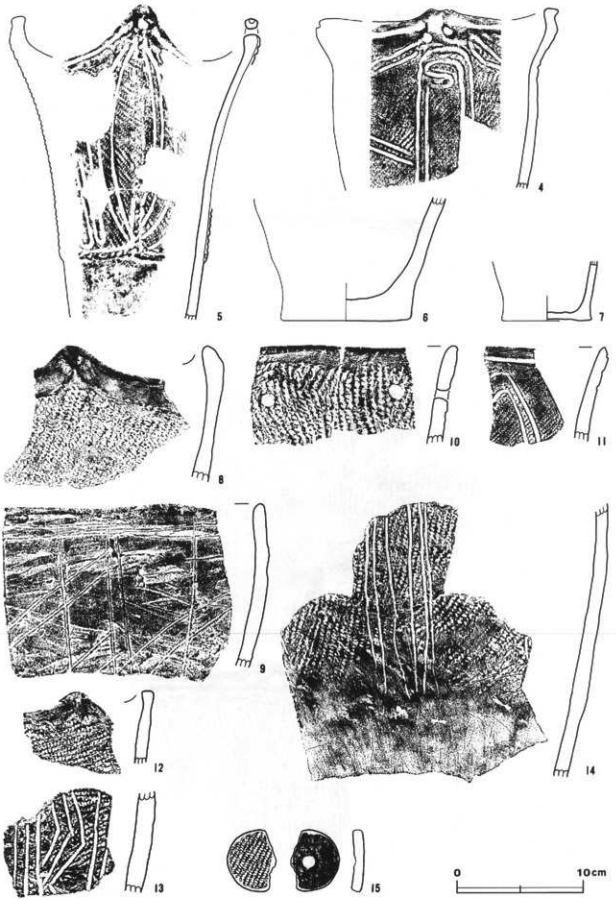
第2401号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第402図 1	深鉢 縄文土器	A〔26.6〕 B〔15.4〕	口縁部から胴部の破片。波状口縁，波頂部に突起を有し，突起には円形刺突文とキザミが付く隆帯が施されている。口縁部はくの字状に内側に折れ曲がる。口縁部には沈線による長楕円形区画内に押引き刺突文が施されている。胴部は無文である。	砂粒・スコリア にぶい橙色 にぶい褐	P69　5% 覆土 堀之内Ⅰ式
2	深鉢 縄文土器	A〔32.4〕 B〔21.0〕	胴部から口縁部の破片。胴部はわずかに内彎する。口縁端部には沈線が施されている。地文はＬＲの単節縄文である。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P73　20%　PL55 覆土 堀之内Ⅰ式
3	深鉢 縄文土器	A〔26.4〕 B〔16.8〕	胴部から口縁部の破片。胴部中位はわずかに内彎する。口縁部は外反する。口縁部に突起を有し，口縁端部に施された断面三角形状の隆帯とつながる部分に円形刺突文が施されている。胴部はＬＲの単節縄文を地文に，長方形状の沈線文が施されている。	砂粒・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P72　20%　PL55 覆土 堀之内Ⅰ式
第403図 4	深鉢 縄文土器	A〔19.0〕 B〔14.6〕	胴部から口縁部の破片。小突起を有し，口縁端部には沈線が施され，小突起の下に円形刺突文が施されている。胴部はＬＲの単節縄文を地文に，縦手文懸垂文及び斜位の沈線が施されている。	砂粒 暗赤褐色 普通	P70　15%　PL55 覆土 堀之内Ⅰ式
5	深鉢 縄文土器	A〔18.1〕 B〔24.1〕	胴部から口縁部の破片。波状口縁，波頂部直下に孔をもち，口縁端部に沈線が施されている。胴部にはＲＬの単節縄文を地文に，キザミを有する隆帯及び沈線による文様が施されている。	砂粒・石英・長石 灰黄褐色 普通	P71　15%　PL55 覆土 堀之内Ⅰ式
6	深鉢 縄文土器	B　(9.8) C　10.2	底部から胴部の破片。底部はわずかに横に突出し，胴部は外傾して立ち上がる。無文である。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P74　10%　PL55 覆土 堀之内Ⅰ式
7	深鉢 縄文土器	B　(4.7) C　7.0	底部から胴部の破片。底部はわずかに横に突出し，胴部は外傾して立ち上がる。無文である。	砂粒・スコリア 明赤褐色 普通	P75　10%　PL55 覆土 堀之内Ⅰ式

図版番号	器種	計測値(cm)			重量	現存率	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ	(g)	(%)		
第403図15	土器片円盤	4.9	3.8	0.8	(19.0)	95	単節縄文ＬＲ。	DP15　覆土



第402図　第2401号土坑・出土遺物実測図（1）



第403図　第2401号土坑出土遺物実測図（２）

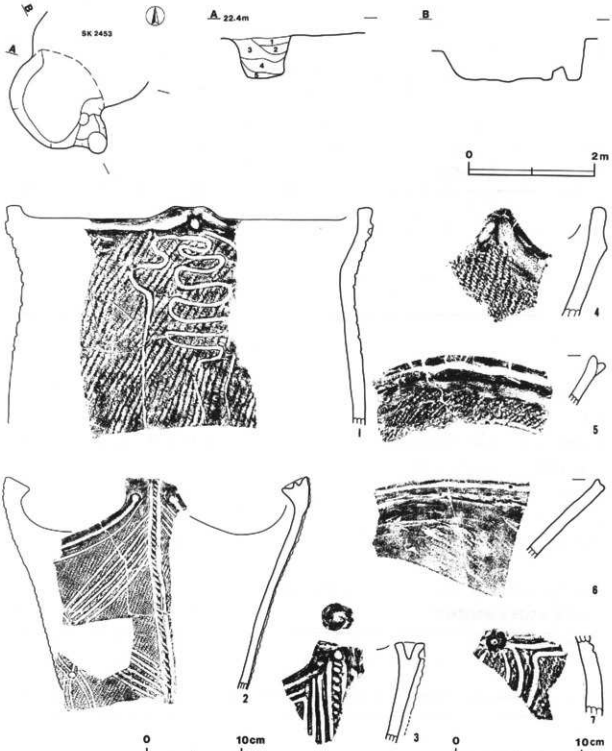
第2408号土坑（第404図）

位置　調査区の南東部，D14ｆｓ区。

重複関係　北側部分で第2453号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形　長径1.53m，短径〔1.13〕mの楕円形と推定され，深さは85cmである。

長径方向　N－47°－E



第404図　第2408号土坑・出土遺物実測図

壁　ほぼ垂直に立ち上がる。

底　ほぼ平坦である。

覆土　5層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化物微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック(1層よりやや大きめ)・炭化物微量
3　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
4　褐　色　ローム粒子少量，炭化物微量
5　褐　色　ローム粒子・炭化物微量

遺物　縄文土器片308点が出土している。第404図1・2の深鉢の口縁部は覆土から出土している。3～5は深鉢の口縁部片である。3は波状口縁の波頂部で，LRの単節縄文を地文に沈線及びキザミをもつ隆帯が垂下している。4・5は混入したもので，LRの単節縄文が施されている。6は無文の浅鉢で，口唇部に浅い沈線が施されている。7は深鉢の胴部片で，LRの単節縄文を地文に沈線及び円形の突起が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期前葉（堀之内Ⅰ式期）と考えられる。

第2408号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第404図 1	深　鉢 縄文土器	A (28.0) B (17.4)	胴部から口縁部の破片。口縁部はわずかに外反する。口縁部には小突起を有し，突起下には円形刺突文が施されている。胴部にはLRの単節縄文を地文に絡打沈線が施されている。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P76　10%　PL56 覆土 堀之内Ⅰ式
2	浅　鉢 縄文土器	A (32.0) B (22.7)	胴部から口縁部の破片。波状口縁。胴部に減巻文が施された突起を有し，口縁端部に沈線及び円形刺突文を有する沈線が施されている。胴部にはLRの単節縄文を地文にキザミをもつ隆帯が施され，沈線が斜位に施されている。	砂粒 にぶい橙色 普通	P76　10%　PL56 覆土 堀之内Ⅰ式

第2415号土坑（第405図）

位置　調査区の南東部，D14g0区。

重複関係　第429号住居跡の西側部分を掘り込み，南東部分を第2435号土坑と第2463号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　径1.60mの円形と推定され，深さは33cmである。

壁　外傾して立ち上がる。

底　平坦である。

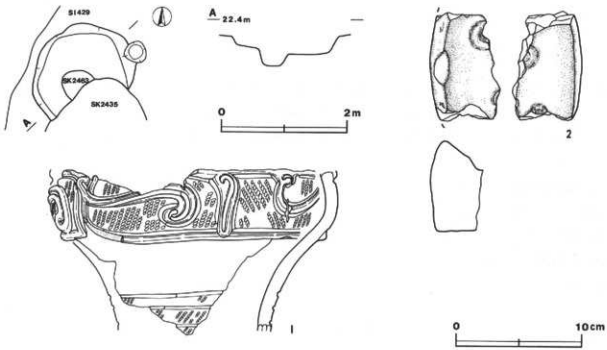
遺物　縄文土器片4点，石皿片1点，獣骨片が出土している。第405図1の深鉢の口縁部片及び2の石皿片は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅠ式期）と考えられる。

第2415号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第405図 1	深　鉢 縄文土器	B (13.0)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。口縁部は隆線及び沈線で画角文及び区画文を描き，区画内にLRの単節縄文が施されている。胴部は無文で，胴部にはLR単節縄文を地文に横位の沈線が施されている。	砂粒・長石 赤褐色 普通	P76　20%　PL56 覆土 加曽利ＥⅠ式

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第405図2	石　皿	8.6	7.2	5.6	(314.0)	安山岩	Q15　置土　凹石兼用



第405図　第2415号土坑・出土遺物実測図

第2418号土坑（第406図）

位置　調査区の南東部，D14h8 区。

重複関係　北西部分で第2417号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

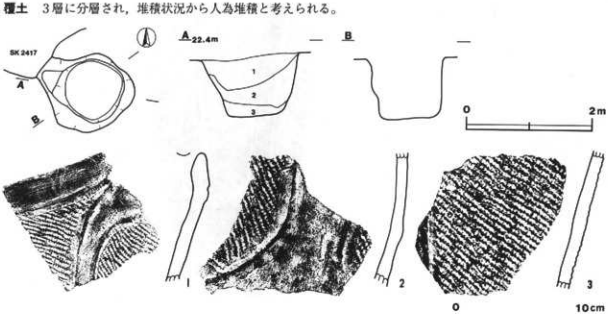
規模と平面形　長径1.50m，短径1.28mの不整楕円形で，深さは98cmである。

長径方向　N－70°－W

壁　ほぼ垂直に立ち上がる。

底　平坦である。

覆土　3層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。



第406図　第2418号土坑・出土遺物実測図

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・炭化物少量
2　暗褐色　ローム粒子・ロームブロック少量
3　褐　色　ローム粒子・ロームブロック中量

遺物　縄文土器片59点が出土している。第406図1は深鉢の口縁部片で，ＲＬの単節縄文を地文とし，微隆起線文が施されている。2・3は深鉢の胴部片で，ＬＲの単節縄文を地文とし，微隆起線文が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅣ式期）と考えられる。

第2427号土坑（第407図）

位置　調査区の南東部，D14*i*0区。

重複関係　東側部分で第2470号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　径0.76mの円形で，深さは28cmである。

壁　外傾して立ち上がる。

底　平坦である。

覆土　2層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

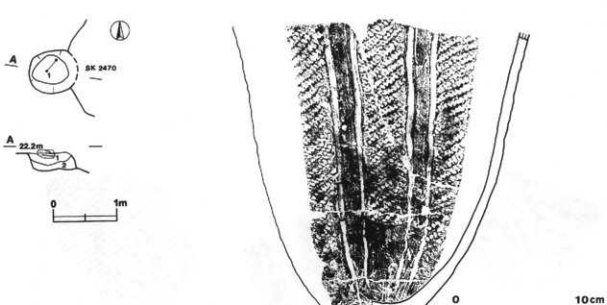
土層解説
1　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量

遺物　縄文土器片2点が出土している。第407図1の深鉢の底部から胴部の破片は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅡ式期）と考えられる。

第2427号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第407図 1	深　鉢 縄文土器	A（23.5） B（23.1）	底部から胴部の破片。底部は小さく，胴部は内彎気味に外傾して立ち上がる。胴部はＲＬの単節縄文を地文に，2本沈線の垂直垂下文が施されている。	砂粒・長石 にぶい赤褐色 普通	P79　60%　PL56 覆土 加曽利ＥⅡ式



第407図　第2427号土坑・出土遺物実測図

第2429号土坑（第408図）

位置　調査区の南東部，D15h2 区。

重複関係　第2506号土坑を掘り込んでいる。北側部分で第2477号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　長径0.96m，短径0.85mの楕円形で，深さは96cmである。

長径方向　N－48°－W

壁　ほぼ垂直に立ち上がる。

底　平坦である。

覆土　4層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

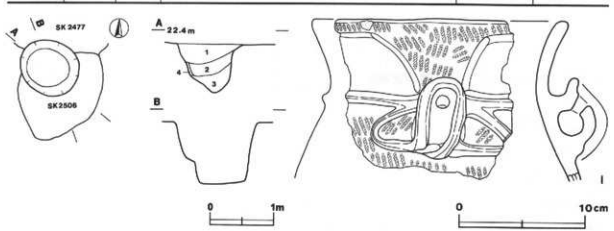
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・炭化物少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，炭化物微量
3　褐　色　ローム粒子多量
4　褐　色　ローム粒子・ロームブロック多量

遺物　縄文土器片35点が出土している。第408図1の広口壺の口縁部片は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅣ式期）と考えられる。

第2429号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第408図 1	広口壺 縄文土器	A (20.4) B (12.7)	胴部から口縁部の破片。頸部はくびれている。地文はRLの単節縄文で，口縁部に沈線による磨消部を作っている。口縁部と胴部は隆帯により区画され，隆帯は菱形の環状把手につながる。把手には孔があり，頸隆起線による区画文が施されている。	砂粒 にぶい褐色 普通	P80 10% PL56 覆土 加曽利ＥⅣ式



第408図　第2429号土坑・出土遺物実測図

第2432号土坑（第409図）

位置　調査区の南東部，D14j0 区。

重複関係　第422号住居跡の東側部分を掘り込んでいる。

規模と平面形　長径1.86m，短径0.90mの不定形で，深さは106cmである。

長径方向　N－26°－W

壁　段状である。

底　平坦である。

ピット　1か所。P_1 は北西部に位置し，長径50cm，短径36cmの楕円形で，深さは75cmである。

覆土　3層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

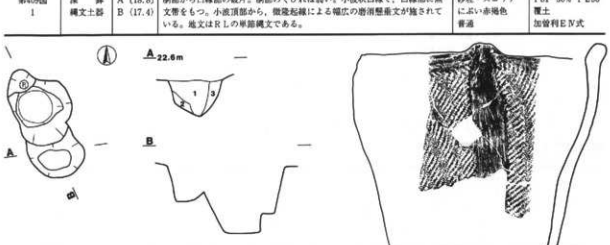
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・炭化物少量
2　暗褐色　ローム粒子・ロームブロック中量
3　褐　色　ローム粒子・ロームブロック多量

遺物　縄文土器片66点が出土している。第409図1の深鉢の口縁部片は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅣ式期）と考えられる。

第2432号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第409図1	深　鉢 縄文土器	A〔18.8〕 B〔17.4〕	胴部から口縁部の破片。胴部のくびれは弱い。小波状口縁で，口縁部に無文帯をもつ。小波頂部から，微隆起線による幅広の磨消懸垂文が施されている。地文はＲＬの単節縄文である。	砂粒・スコリアにぶい赤褐色 普通	P51　30%　PL56 覆土 加曽利ＥⅣ式



第409図　第2432号土坑・出土遺物実測図

第2433号土坑（第410図）

位置　調査区の南東部，D15g2区

重複関係　東側部分で第2441号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　長径0.95m，短径〔0.77〕mの楕円形と推定され，深さは64cmである。

長径方向　Ｎ－69°－Ｗ

壁　袋状である。

底　平坦である。

覆土　4層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

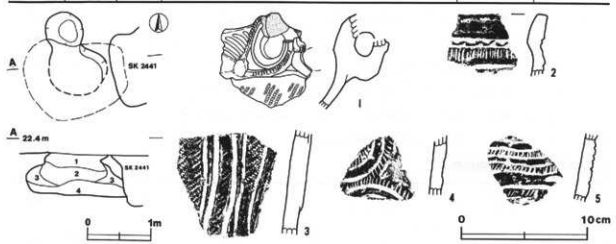
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・炭化物少量
2　黒褐色　ローム粒子少量，炭化物中量
3　暗褐色　ローム粒子・ロームブロック少量
4　褐　色　ローム粒子・ロームブロック中量

遺物　縄文土器片176点が出土している。第410図1は深鉢の把手を有する口縁部片で，覆土から出土している。2は深鉢の口縁部片で，交互刺突文が施されている。3～5は深鉢の胴部片である。3はＲＬの単節縄文を地文に沈線及び隆帯による懸垂文が施され，隆帯上にもＲＬの単節縄文の縄文が充填されている。4は隆帯にキザミが施され，隆帯に沿って沈線が施されている。5は横位の沈線間にキザミが施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

第2433号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第410図 1	深　鉢 縄文土器	B (7.7)	眼鏡状把手を有する口縁部片。孔に沿ってキザミ及び沈線が施されている。 地文はRLの羊歯縄文である。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P 382　2 % 覆土 中峠式



第410図　第2433号土坑・出土遺物実測図

第2444号土坑（第411・412図）

位置　調査区の南東部，D15g2区。

重複関係　第2445号土坑に掘り込まれている。南東部分で第2443号土坑，第2447号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

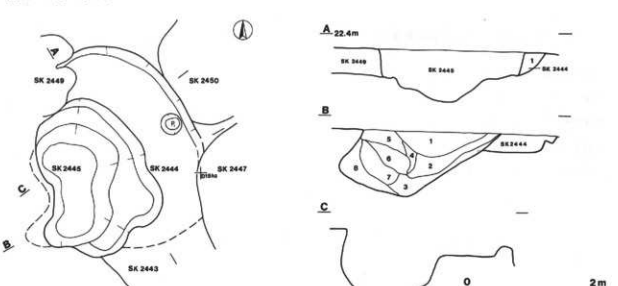
規模と平面形　径〔2.30〕mの円形と推定され，深さは30cmである。

壁　外傾して立ち上がる。

底　平坦である。

ピット　1か所。P_1は東壁際に位置し，径38cmの円形で，深さは41cmである。

覆土　1層である。



第411図　第2444・2445号土坑実測図

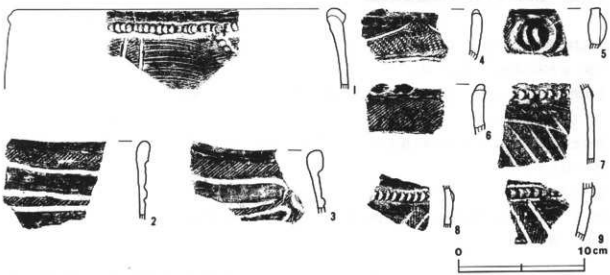
土層解説
1 褐 色 ロームブロック多量

遺物 縄文土器片526点が出土している。第412図1の深鉢の口縁部片は覆土から出土している。2～6は深鉢の口縁部片である。2・3はLRの単節縄文の隆起手法の縄文帯に沿って浅い沈線が施されている。4・6は混入した可能性がある。4はRLの単節縄文の沈線手法の縄文帯が施され，口唇部にコブ状突起が付されている。6はLRの単節縄文で，口唇部にコブ状突起が付されている。5はRLの単節縄文で，大形のブタ鼻状突起が付されている。7～9は深鉢の胴部片である。7は押圧文をもつ組紐文が施され，以下に条線文が斜行している。8は押圧文をもつ組紐文が施され，以下にLRの単節縄文の沈線手法による帯縄文が施されている。9は押圧文をもつ組紐文が施され，沈線手法によるRLの単節縄文の縄文帯及び条線文が施されている。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期後葉（安行2式期）と考えられる。

第2444号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第412図 1	深鉢 縄文土器	A (33.0) B (8.5)	口縁部片。口縁部に押圧文を有する組紐文が貼り付けられている。胴部には横位の条線文及び2本単位の沈線文が施され，沈線間にRLの単節縄文が充填されている。	砂粒・スコリア 褐色 普通	P83 10% 覆土 安行2式



第412図 第2444号土坑出土遺物実測図

第2445号土坑（第411・413図）

位置 調査区の南東部，D15g2区。

重複関係 第2444号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径1.95m，短径0.91mの不定形で，深さは120cmである。

長軸方向 N－90°－W

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 皿状である。

覆土 8層に分層され，覆土の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4 褐 色 ロームブロック少量
5 褐 色 ロームブロック微量
6 褐 色 ロームブロック少量
7 褐 色 ロームブロック少量，6層より色調が明るい
8 褐 色 ロームブロック微量，7層より色調が明るい

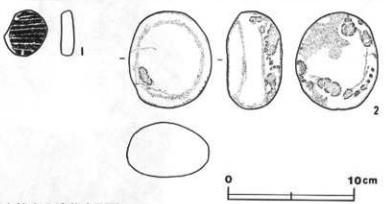
遺物　縄文土器片381点，土器片円盤１点及び磨石１点が出土している。第413図１の土器片円盤と２の磨石は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期と考えられる。

第2445号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm) 長　さ	幅	厚　さ	重　量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備　考
第413図１	土器片円盤	3.7	3.3	1.0	(14.0)	95	条痕文。	DP17　覆土

図版番号	器　種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石　質	備　考
第413図２	磨　石	7.7	6.5	4.6	(315.0)	安山岩	Q16　覆土



第413図　第2445号土坑出土遺物実測図

第2446号土坑（第414図）

位置　調査区の南東部，D14e0区。

重複関係　第434号住居跡の南側部分を掘り込んでいる。北側部分で第2503号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　径2.06mの円形で，深さは105cmである。

壁　ほぼ垂直に立ち上がる。

底　平坦である。

ピット　２か所。P_1は北東壁際に位置し，長径55cm，短径38cmの楕円形で，深さは50cmである。P_2は北側に位置し，長径42cm，短径34cmの楕円形で，深さは18cmである。

覆土　４層に分層され，覆土の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　色　　ロームブロック多量
3　褐　色　　ロームブロック多量，２層より色調が明るい
4　褐　色　　ロームブロック少量

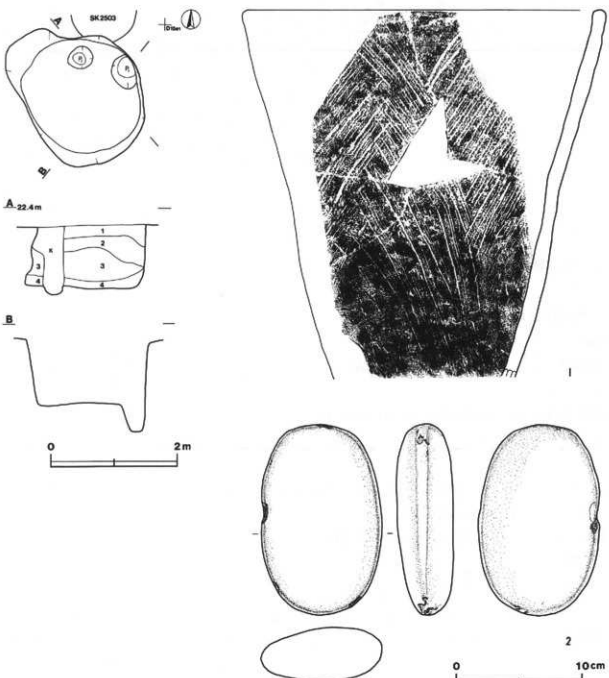
遺物　縄文土器片203点，敲石１点が出土している。第414図１の深鉢の胴部から口縁部の破片と２の敲石は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期前葉（堀之内Ⅰ式期）と考えられる。

第2446号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第414図 1	深鉢 縄文土器	A (28.6) B (29.3)	胴部から口縁部の破片。胴部は直線的に立ち上がる。斜行する条線文が施されている。	砂粒 灰褐色 普通	P84 25% P L56 覆土 堀之内1式

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第414図 2	敲石	15.3	9.6	4.5	(1,030.0)	安山岩	Q17 覆土



第414図　第2446号土坑・出土遺物実測図

第2451号土坑（第415図）

位置　調査区の南東部，D14d0区。

重複関係　第2520号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形　径〔1.88〕mの円形と推定され，深さは63cmである。

壁　外傾して立ち上がる。

底　皿状である。

覆土　2層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

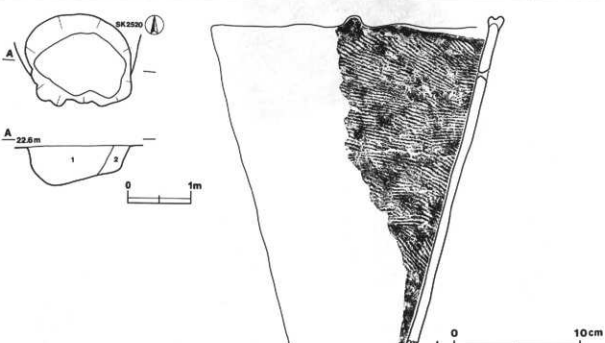
土層解説
1　黒褐色　炭化物多量
2　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物　縄文土器片490点が出土している。第415図1の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期前葉（堀之内Ⅰ式期）と考えられる。

第2451号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第415図 1	深　鉢 縄文土器	A〔22.6〕 B〔26.4〕	胴部から口縁部の破片。口縁端部に小突起を有し，地文は無節縄文である。補修孔がある。	砂粒・雲母・スコリア 褐色 普通	P85　30%　PL56 覆土 堀之内Ⅰ式



第415図　第2451号土坑・出土遺物実測図

第2456号土坑（第416図）

位置　調査区の南東部，D14f9区。

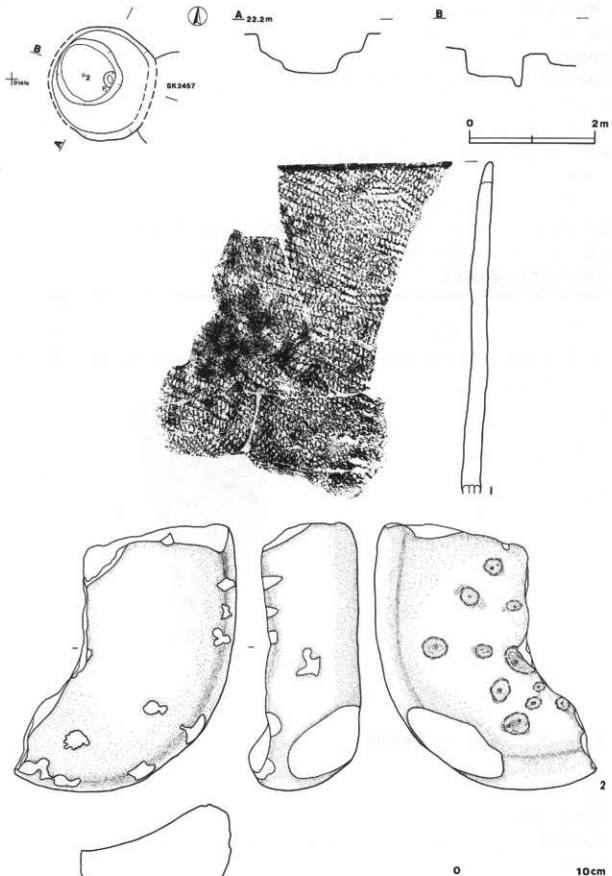
重複関係　東側部分で第2457号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　長径1.80m，短径〔1.70〕mの楕円形と推定され，深さは62cmである。

長径方向　N－0°

壁　段状に立ち上がる。

底　平坦である。



第416図　第2456号土坑・出土遺物実測図

ピット　1か所。P_1は中央部に位置し，長径23cm，短径18cmの楕円形で，深さは28cmである。

遺物　縄文土器片286点，石皿1点及び不明石器1点が出土している。第416図1は深鉢の胴部から口縁部の破片で，RLの単節縄文が施されている。2の石皿は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期前葉（堀之内Ⅰ式期）と考えられる。

第2456号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
第416図2	石皿	(21.2)	(17.7)	7.1	(2920.0)	安山岩	Q18 覆土 凹石兼用

第2459号土坑（第417図）

位置　調査区の南東部，D14f9区。

重複関係　北側部分で第2458号土坑と，南側部分で第2518号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　長径〔1.25〕m，短径1.08mの楕円形と推定され，深さは53cmである。

長径方向　N－8°－E

壁　外傾して立ち上がる。

底　ほぼ平坦である。

ピット　1か所。P_1は北東部に位置し，径23cmの円形で，深さは58cmである。

覆土　3層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量，炭化物少量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子微量，炭化物少量
3　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量

遺物　縄文土器片315点及び土器片円盤1点が出土している。第417図1の土器片円盤は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期と考えられる。

第2459号土坑出土遺物観察表

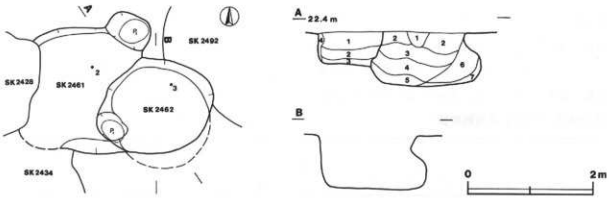
図版番号	器種	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	現存率(%)	形状及び文様の特徴	備考
第417図1	土器片円盤	3.6	3.4	0.8	(13.0)	95	無文。	DP16 覆土

第417図　第2459号土坑・出土遺物実測図

第2461号土坑（第418図）

位置　調査区の南東部，D15f1区。

重複関係　東側部分で第2462号土坑を掘り込んでいる。南側部分で第2434号土坑と，西側部分で第2428号土坑



第418図　第2461・2462号土坑実測図

とそれぞれ重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　径1.95mの円形と推定され，深さは40cmである。

壁　ほぼ垂直に立ち上がる。

底　平坦である。

ピット　1か所。P_1は北東壁際に位置し，長径72cm，短径48cmの楕円形で，深さは52cmである。

覆土　4層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　にぶい褐色　ローム・ブロック少量
3　褐　色　ローム・ブロック少量
4　褐　色　ローム・ブロック少量，3層より色調が明るい

遺物　縄文土器片2点が出土している。第419図1の深鉢の口縁部片と2の深鉢の胴部片は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅠ式期）と考えられる。

第2461号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第419図 1	深　鉢 縄文土器	A (20.8) B (4.1)	口縁部片。口縁端部に沈線が施されている。口縁部には隆帯による区画文及び渦巻文が施され，区画内にはＲＬの単節縄文が充填されている。頸部は無文である。	砂粒・長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P86　5％ PL56 覆土 加曽利ＥⅠ式
2	深　鉢 縄文土器	B (15.8)	胴部片。胴部下位がわずかに内彎する。ＲＬの単節縄文を地文に，沈線による懸垂文及び蛇行沈線文が施されている。	砂粒・石英・ スコリア にぶい赤褐色 普通	P87　10％ PL56 覆土 加曽利ＥⅠ式

第419図　第2461号土坑出土遺物実測図

第2462号土坑（第418図）

位置　調査区の南東部，D15f1区。

重複関係　第2461号土坑に掘り込まれている。北東部分で第2492号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　長径1.92m，短径1.54mの楕円形で，深さは86cmである。

長径方向　N－23°－W

壁　袋状である。

底　平坦である。

ピット　1か所。P_1は南西壁際に位置し，長径52cm，短径37cmの楕円形で，深さは36cmである。

覆土　7層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

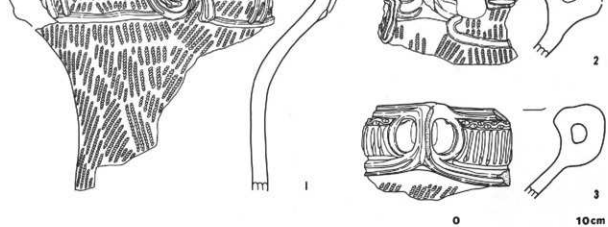
土層解説
1　褐　色　ローム粒子少量
2　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ロームブロック少量
4　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　褐　色　ロームブロック中量
6　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　褐　色　ローム粒子少量，1層より明るい

遺物　縄文土器片181点が出土している。第420図1の深鉢の胴部から口縁部の破片と2の深鉢の口縁部片は覆土から出土している。1と2は接合しないが，同一個体の可能性がある。3の深鉢の口縁部片は覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅠ式期）と考えられる。

第2462号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第420図 1	深　鉢 縄文土器	A（25.6） B（22.9）	胴部から口縁部の破片。キャリパー形の器形で，口縁部上位に沈線が施され部分的に沈線に沿って交互刺突文がみられる。口縁部にはＲＬの単節縄文を地文に，横く貼り付けられた隆帯で渦巻文及び区画文が施されている。隆帯に沈線が施されている部分がみられる。	砂粒・長石・雲母にぶい橙色 普通	P88A 40% PL56 覆土 加曽利ＥⅠ式併行
2	深　鉢 縄文土器	B（9.2）	口縁部片。縄文及び沈線の施された把手を有する。ＲＬの単節縄文を地文に，横く貼り付けられた隆帯により区画文が施されている。	砂粒・長石・雲母にぶい橙色 普通	P88B 5% PL56 覆土 加曽利ＥⅠ式併行



第420図　第2462号土坑出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第420図 3	深鉢 縄文土器	B (7.6)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。頸部状把手を有する。口縁端部に沈線が施され、把手につながる。口縁部は隆帯及び沈線により区画され、区画内に交互刺突文及び縦位の沈線が施されている。口縁部と胴部は把手から続く沈線の施された厚い隆帯で区画され、胴部にはRLの単節縄文が施されている。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P89 5% PL57 覆土 加曽利EⅠ式

第2465号土坑（第421図）

位置　調査区の南東部，D15h4 区。

重複関係　第2464号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形　長径1.95m，短径〔1.18〕mの楕円形と推定され，深さは65cmである。

長軸方向　N－4°－W

壁　緩やかに立ち上がる。

底　皿状である。

覆土　4層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

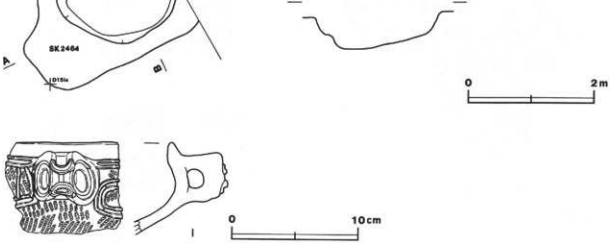
土層解説
1　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
4　褐　色　ロームブロック少量

遺物　縄文土器片85点が出土している。第421図1の深鉢の口縁部片は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利EⅠ式期）と考えられる。

第2465号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第421図 1	深鉢 縄文土器	B (7.3)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。頸部状把手を有する。把手先端に沈線の施された U字状の隆帯が貼り付けられている。口縁部は沈線の施された隆帯で，文様を施している。地文はRLの単節縄文である。	砂粒・雲母・ スコリア にぶい赤褐色 普通	P90 5% 覆土 加曽利EⅠ式



第421図　第2465号土坑・出土遺物実測図

第2468号土坑（第422図）

位置　調査区の南東部，D14eo区。

重複関係　第2469号土坑に掘り込まれている。南側部分で第2470号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　長径2.33m，短径1.90mの不整楕円形で，深さは74cmである。

長軸方向　N－0°

壁　ほぼ垂直に立ち上がる。

底　平坦である。

ピット　1か所。P_1は北壁際に位置し，径26cmの円形で，深さは20cmである。

覆土　4層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

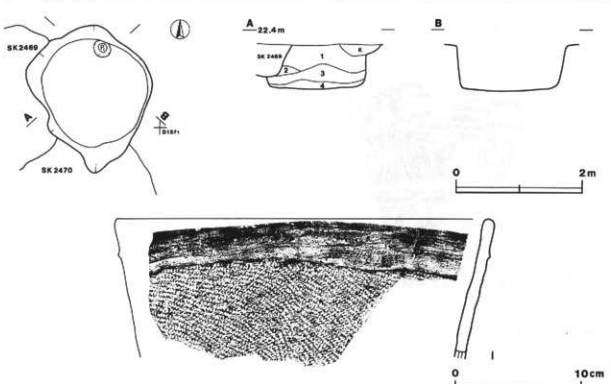
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・ロームブロック微量
2　黒褐色　炭化物少量
3　暗褐色　ローム粒子・ロームブロック少量
4　褐　色　ローム粒子・ロームブロック中量

遺物　縄文土器片14点が出土している。第422図1の深鉢の口縁部片は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる。

第2468号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第422図 1	深　鉢 縄文土器	A〔29.0〕 B（11.1）	胴部から口縁部の破片。胴部から口縁部にかけて外傾する。口縁部に微隆起線文を巡らして，無文帯を作っている。胴部はRLの単節縄文を施している。	砂粒・長石にぶい橙色 普通	P91　10%　PL57 覆土 加曽利EⅣ式



第422図　第2468号土坑・出土遺物実測図

第2472号土坑（第423図）

位置　調査区の南東部，D15ez区。

規模と平面形　長径1.51m，短径1.35mの楕円形で，深さは50cmである。

長径方向　N－15°－W

壁　袋状である。

底　平坦である。

ピット　1か所。P_1は中央部に位置し，径36cmの円形で，深さは15cmである。

覆土　5層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

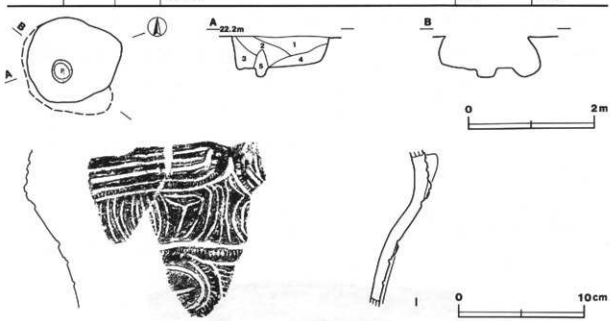
土層解説
1　褐　　色　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化材中量，炭化物微量
2　褐　　色　ローム粒子・ローム中ブロック中量，炭化材少量
3　にぶい褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック多量
4　にぶい褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
5　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック多量

遺物　縄文土器片12点が出土している。第423図1の深鉢の口縁部片は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

第2472号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第423図 1	深　鉢 縄文土器	B (13.1)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。口縁部から胴部にかけて，キザミが施された隆帯により文様が描かれている。区画文内には沈線文を施している。	砂粒・雲母 黒褐色 普通	P92　10%　PL57 覆土 中峠式



第423図　第2472号土坑・出土遺物実測図

第2474号土坑（第424図）

位置　調査区の南東部，D15g1区。

重複関係　第432号住居跡の西側部分を掘り込んでいる。

規模と平面形　長径1.32m，短径1.20mの楕円形で，深さは84cmである。

長径方向　N－0°

壁　ほぼ垂直に立ち上がる。

底　平坦である。

ピット　1か所。P_1は中央部に位置し，径47cmの円形で，深さは59cmである。

覆土　8層に分層され，自然堆積と考えられる。

土層解説

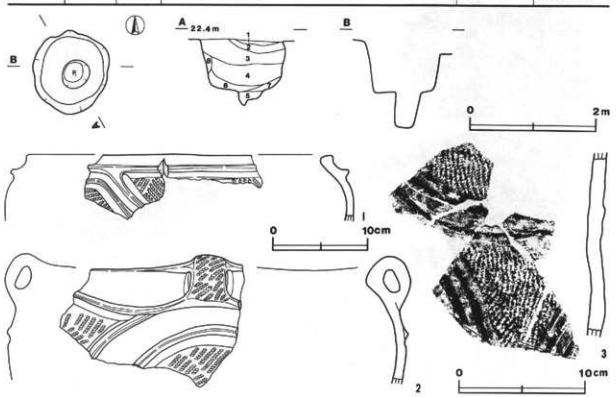
1	暗赤褐色	ローム粒子中量，焼土粒子多量		5	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2	明褐色	ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子多量		6	褐　色	ローム粒子・ローム小ブロック中量
3	褐　色	ローム粒子・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化材少量		7	にぶい褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
4	褐　色	ローム粒子微量，ローム中ブロック少量		8	にぶい褐色	ローム粒子・ローム小ブロック微量

遺物　縄文土器片133点が出土している。第424図1・2の深鉢の口縁部片は覆土から出土している。3は深鉢の胴部片で，RLの単節縄文を地文とし，2本一組の微隆起線文が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第2474号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第424図 1	深　鉢 縄文土器	A〔30.7〕 B　(7.2)	口縁部片。口縁部は内弯する。口縁部には RL の単節縄文を地文とし，微隆起線文が施されている。	砂粒・雲母 黒褐色 普通	P93　5％　PL57 覆土 加曽利EⅢ式
2	深　鉢 縄文土器	A〔29.0〕 B　(10.1)	胴部から口縁部の破片。波状口縁。縄文の施された把手を有する。胴部には微隆起線の磨消帯が施されている。縄文は RL の単節縄文である。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P94　5％　PL57 覆土 加曽利EⅢ式



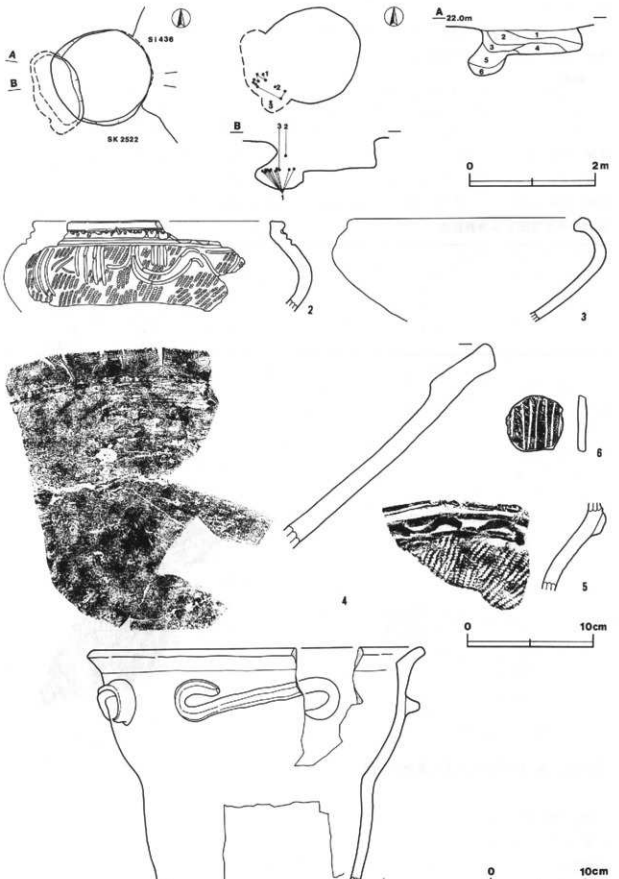
第424図　第2474号土坑・出土遺物実測図

第2475号土坑（第425図）

位置　調査区の南東部，D14d9区。

重複関係　第436号住居跡の西側部分を掘り込んでいる。南側部分で第2522号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　径1.57mの円形で，深さは50cmである。



第425図　第2475号土坑・出土遺物実測図

壁　袋状である。

底　平坦である。南西壁際に大形ピットがある。

覆土　6層に分層され，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子・ロームブロック微量，焼化物中量
2　暗 褐 色　ローム粒子・炭化物少量
3　暗赤褐色　ローム粒子微量，焼土粒子少量
4　褐　色　ローム粒子・ロームブロック多量
5　暗 褐 色　ローム粒子微量，焼土粒子少量
6　暗 褐 色　ローム粒子少量

遺物　縄文土器片101点，土器片円盤1点が出土している。第425図1～3の深鉢や鉢の胴部から口縁部の破片は覆土中層から下層にかけて出土している。6の土器片円盤は覆土から出土している。4は浅鉢の口縁部片で，無文である。5は深鉢の胴部片で，2本の沈線を施し，その上から微隆帯を波状に貼り付けている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（中峠式期）と考えられる。

第2475号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	施土・色調・焼成	備　考
第423図 1	深　鉢 縄文土器	A (35.4) B (25.4)	胴部から口縁部の破片。胴部はくびれて，口縁部は外反する。口縁部には，4単位と推定される厚みのある横S字状の隆帯が貼り付けられている。無文である。	砂粒・長石・石英 堅緻 にぶい赤褐色 普通	P95 40% PL57 覆土下層 中峠式
2	深　鉢 縄文土器	A (20.0) B (7.2)	胴部から口縁部の破片。胴部は大きく外に膨らむ。口縁部には，刺突文及び2本単位の横位の沈線が施されている。胴部にはRLの単節縄文を地文に山形沈線文および楕円の沈線が施されている。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P96 10% PL57 覆土中層 中峠式
3	鉢 縄文土器	A (18.0) B (8.8)	胴部から口縁部の破片。胴部上位で外側に大きく張り出し内湾する。口縁端部に薄い隆帯が貼り付けられている。無文である。	砂粒・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P97 10% PL57 覆土下層

図版番号	器　種	計測値(cm) 長　さ	幅	厚　さ	重　量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備　考
第423図6	土器片円盤	4.5	4.5	0.7	(20.0)	95	条線文。	DP18 覆土

第2486号土坑（第426図）

位置　調査区の南東部，D15e1区。

規模と平面形　長径1.11m，短径0.90mの楕円形で，深さは40cmである。

長軸方向　N－31°－W

壁　ほぼ垂直に立ち上がる。

底　皿状である。

ピット　1か所。P_1は南東壁際に位置し，径21cmの円形で，深さは54cmである。

覆土　3層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

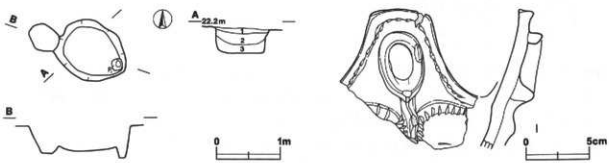
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
2　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量，ローム小ブロック中量
3　褐　色　ローム粒子・ローム中ブロック少量

遺物　縄文土器片20点が出土している。第426図1は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。

第2486号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第426図 1	深鉢 縄文土器	B (11.0)	波状口縁。頭部に薄く隆帯を巡らして，隆帯に沿ってペン先状工具による押引き刺突文が施されている。把手中央の0字状の隆帯の下に蛇行する隆帯を垂下させている。隆帯に沿って爪形文が施されている。	砂粒・雲母 灰黄褐色 普通	P98 5% PL57 覆土 阿玉台Ⅲ式



第426図　第2486号土坑・出土遺物実測図

第2492号土坑（第427図）

位置　調査区の南東部，D15f1区。

重複関係　北側部分で第2512号土坑と，南西部分で第2462号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　長径2.90m，短径2.50mの楕円形で，深さは35cmである。

長径方向　N－38°－W

壁　外傾して立ち上がる。

底　平坦である。

ピット　2か所。P_1は南側に位置し，長径66cm，短径46cmの楕円形で，深さは86cmである。P_2は西壁際に位置し，長径56cm，短径（46）cmの不整形で，深さは35cmである。

覆土　2層に分層され，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・ローム中ブロック中量，焼土粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量

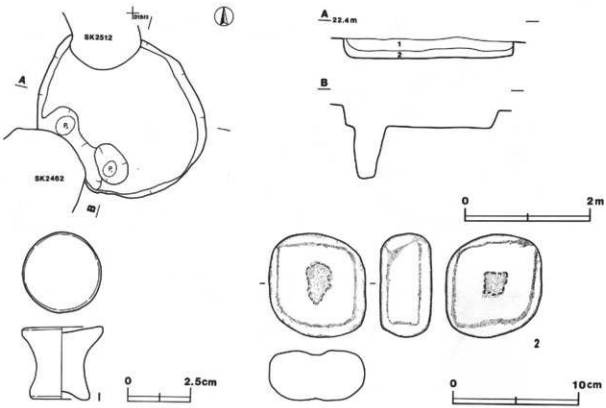
遺物　縄文土器片66点，土製耳飾り1点，磨石1点が出土している。第427図1の土製耳飾り，2の磨石は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期と考えられる。

第2492号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
第427図1	土製耳飾り	3.2	2.4	2.9	(20.0)	95	無孔。ラッパ状。	DP20 覆土

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
第427図2	磨石	8.1	7.7	4.4	(458.0)	安山岩	Q20 覆土 凹石兼用



第427図　第2492号土坑・出土遺物実測図

第2493号土坑（第428・429図）

位置　調査区の南東部，D15e1区。

重複関係　第433号住居跡を掘り込み，第439号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形　長径2.35m，短径〔2.02〕mの楕円形と推定され，深さは54cmである。

長径方向　N－20°－W

壁　外傾して立ち上がる。

底　ほぼ平坦である。

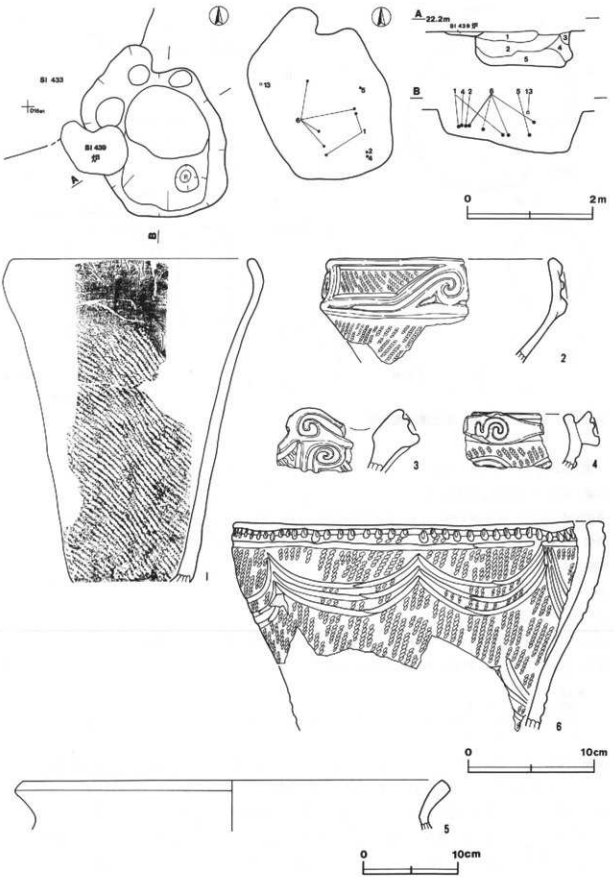
ピット　1か所。P_1は南東部に位置し，長径43cm，短径35cmの楕円形で，深さは23cmである。

覆土　5層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

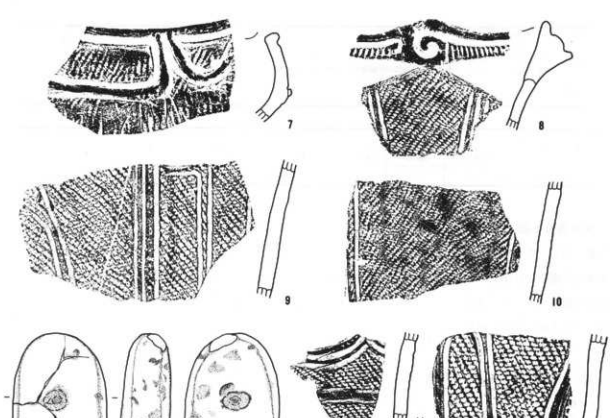
土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量	4	褐　色	ローム粒子少量
2	黒褐色	ローム粒子・炭化物少量	5	褐　色	ローム粒子・ロームブロック少量
3	褐　色	ローム粒子中量			

遺物　縄文土器片407点，敲石1点，獣骨片が出土している。第428図3～5の深鉢と浅鉢の口縁部片，1・2・6の深鉢の胴部から口縁部の破片，第429図13の敲石は覆土から出土している。7・8は深鉢の口縁部から胴部の破片で，LRの単節縄文を地文に長方形区画文及び三角形区画文が隆帯で施され，隆帯に沿って沈線が施されている。8は波頂部に隆帯で渦巻文を描き，幅狭の口縁部に縦位の沈線文が施されている。胴部はRLの単節縄文を地文に幅の狭い沈線による3本1組の磨消懸垂文が施されている。9～12は深鉢の胴部片である。9は2本あるいは3本単位の沈線を垂下させ，沈線間を磨り消している。10はRLの単節縄文を地文とし，沈線を垂下させ沈線間を磨り消している。11はLRの単節縄文を地文とし，2本単位の沈線が横位沈線による連



第428図　第2493号土坑・出土遺物実測図（1）



第429図　第2493号土坑出土遺物実測図（2）

狐文を施し，沈線間を磨り消している。12は複節縄文を地文に2本単位の沈線による懸垂文及び蛇行沈線が施され，沈線間を磨り消している。獣骨はイノシシとシカである。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅡ式期）と考えられる。

第2493号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第428図 1	深鉢 縄文土器	A (19.2) B (25.7)	胴部から口縁部の破片。口縁部の破片。口縁部は内彎する。地文はＲＬの単節縄文で，口縁部に無文帯をもつ。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P99 30% PL57 覆土 加曽利ＥⅡ式
2	深鉢 縄文土器	A (17.4) B (8.4)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。口縁部は隆帯により区画文及び渦巻文が施され，地文としてＲＬの単節縄文が施されている。胴部の地文はＲＬの単節縄文である。	砂粒・長石 にぶい赤褐色 普通	P100 10% PL57 覆土 加曽利ＥⅡ式
3	深鉢 縄文土器	B (4.8)	口縁部片。波状口縁。波頂部に隆帯による渦巻文が施された突起を有し，突起から続く隆帯によりその直下に渦巻文が施されている。	砂粒・赤色粒子 褐色 普通	P101 2% 覆土 加曽利ＥⅡ式
4	深鉢 縄文土器	B (4.5)	口縁部片。口縁部上位に沈線による渦巻文が施された隆帯を巡らしている。口縁部には隆帯による文様が施され，地文としてＲＬの単節縄文が施されている。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P102 2% 覆土 加曽利ＥⅡ式
5	浅鉢 縄文土器	A (46.4) B (5.2)	口縁部片。口縁部は外反する。無文である。赤彩痕。	砂粒・長石・雲母 にぶい黄褐色 普通	P103 10% PL58 覆土 加曽利ＥⅡ式

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第428図 6	深　鉢 縄文土器	A〔29.6〕 B〔16.8〕	胴部から口縁部の破片。キャリパー形の器形で，地文はRLの単節縄文である。口縁端部の沈線間に円形刺突文が施されている。胴部は3本の沈線により連弧文が施されている。	砂粒・石英・雲母 スコリア にぶい褐色 普通	P155 10% PL57 覆土 加曽利EⅡ式

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第429図13	敲　石	(9.3)	7.5	4.0	(423.0)	安山岩	Q21　覆土　凹石兼用

第2495号土坑（第430図）

位置　調査区の南東部，E15e2区。

規模と平面形　長径〔1.62〕m，短径(0.54)mの楕円形と推定され，深さは69cmである。

長径方向　〔N－35°－W〕

壁　ほぼ垂直に立ち上がる。

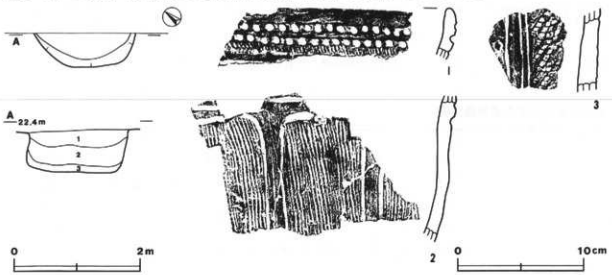
底　平坦である。

覆土　3層に分層され，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化物微量
2　褐　　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，炭化物微量
3　にぶい褐色　ローム粒子・炭化物少量，ローム中ブロック中量

遺物　縄文土器片32点が出土している。第430図1は深鉢の口縁部片で，円形刺突文を施している。地文は撚糸文である。2・3は深鉢の胴部片で，2は撚糸文を地文に沈線で逆U字状に区画し，沈線間を磨り消している。3はRLの単節縄文を地文とし，幅の狭い沈線の磨消懸垂文が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

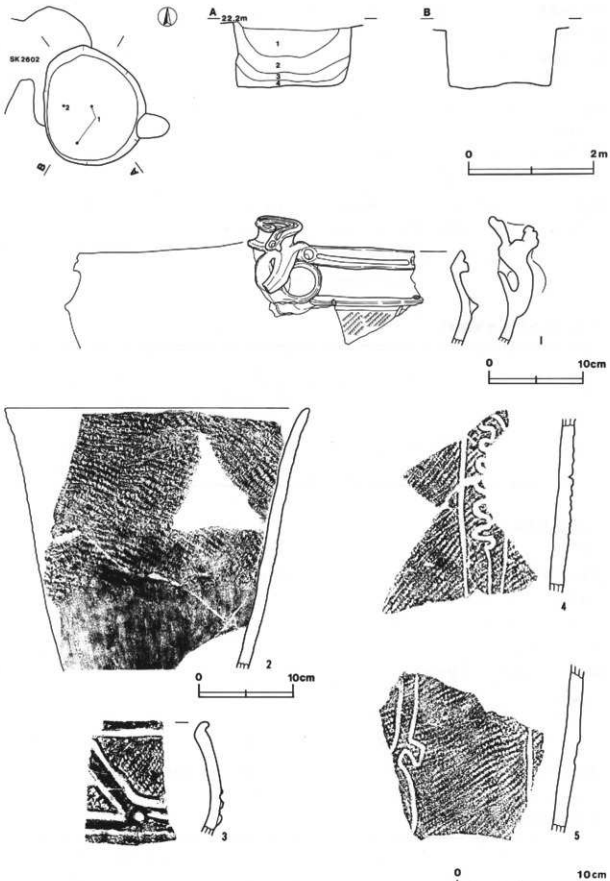


第430図　第2495号土坑・出土遺物実測図

第2497号土坑（第431図）

位置　調査区の南東部，E15b6区。

重複関係　北西部分で第2602号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。



第431図　第2497号土坑・出土遺物実測図

規模と平面形　長径1.91m，短径1.62mの楕円形で，深さは91cmである。

長径方向　N－14°－W

壁　ほぼ垂直に立ち上がる。

底　平坦である。

覆土　4層に分層され，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　暗褐色　　ローム粒子・ローム小ブロック少量
3　暗褐色　　ローム粒子・ローム小ブロック微量，炭化粒子少量
4　暗褐色　　ローム小ブロック少量

遺物　縄文土器片580点が出土している。第431図1・2の深鉢の口縁部片は覆土から出土している。3は深鉢の口縁部片で，LRの単節縄文を地文として，沈線及び円形刺突文が施されている。4・5は深鉢の胴部片で，LRの単節縄文を地文に懸垂文及び蛇行沈線が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期前葉（堀之内Ⅰ式期）と考えられる。

第2497号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第431図 1	深　鉢 縄文土器	A (40.0) B (13.6)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。口縁部に円形刺突及び沈線の施された粒子をもつ。口縁部は，沈線及び円形刺突が施された隆帯により区画されている。区画内は無文である。胴部には無節縄文が施されている。	砂粒・長石・スコリア にぶい橙色 普通	P164 10% PL58 覆土 堀之内Ⅰ式
2	深　鉢 縄文土器	A (31.5) B (27.8)	胴部から口縁部の破片。口縁部はわずかに外反する。胴部中位から口縁部にかけてRLの単節縄文が施されている。	砂粒・長石・雲母 スコリア にぶい黄橙色 普通	P105 20% PL58 覆土 堀之内Ⅰ式

第2498号土坑（第432図）

位置　調査区の南東部，D15g3区。

規模と平面形　長径1.71m，短径0.97mの不定形で，深さは77cmである。

長径方向　N－34°－W

壁　外傾して立ち上がる。

底　平坦である。

覆土　3層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

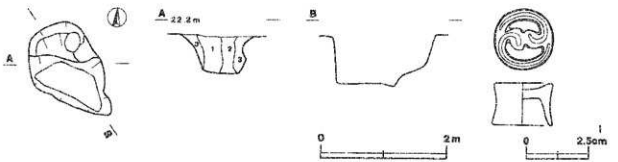
土層解説
1　暗褐色　　ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
2　褐　色　　ローム粒子中量・ローム小ブロック少量
3　褐　色　　ローム粒子・ローム中ブロック少量

遺物　縄文土器片53点，土製耳飾り1点が出土している。第432図1の土製耳飾りは覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期から晩期と考えられる。

第2498号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)			重　量	現存率	形状及び文様の特徴	備　考
		長　さ	幅	厚　さ	(g)	(%)		
第432図1	土製耳飾り	2.4	2.4	1.7	(6.3)	95	白状。横S字状文。	DP21　覆土



第432図　第2498号土坑・出土遺物実測図

第2499号土坑（第433図）

位置　調査区の南東部，D14c0区。

重複関係　第436号住居跡の北壁を掘り込んでいる。

規模と平面形　長径1.92m，短径1.53mの楕円形で，深さは81cmである。

長径方向　N－30°－W

壁　袋状である。

底　平坦である。

覆土　5層に分層され，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化物少量	4	褐　色	ローム粒子・炭化物少量，ローム中ブロック中量
2	にぶい褐色	ローム粒子・ローム大ブロック・炭化物中量	5	褐　色	ローム粒子少量，ローム小ブロック中量，炭化物微量
3	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化物微量			

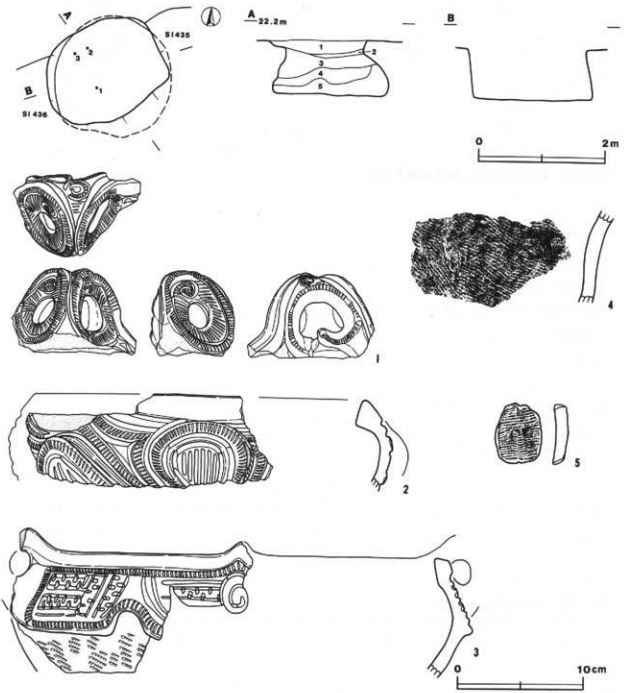
遺物　縄文土器片251点，土器片錘1点が出土している。第433図1の深鉢把手部分，2の深鉢の口縁部片，3の深鉢の胴部から口縁部の破片及び5の土器片錘は覆土から出土している。4は深鉢の胴部片で，地文はRLの単節縄文である。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

第2499号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	施土・色調・焼成	備　考
第433図1	深鉢把手 縄文土器	B (6.8)	鍛鍵状把手。孔に沿ってキザミをもつ隆帯が施されている。頂部には，キザミをもつ細い隆帯による渦巻文が施されている。	砂粒・長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P106　5％ 覆土 中峠式併行
2	深　鉢 縄文土器	A (26.0) B (7.6)	口縁部片。口縁部は内彎する。キザミをもつ隆帯により施した区画内に縦位の沈線が施されている。区画外にはキザミをもつ薄い隆帯が貼り付けられている。	砂粒・長石・石英 雲母・スコリア にぶい赤褐色 普通	P107 5％ PL58 覆土 中峠式併行
3	深　鉢 縄文土器	A (33.6) B (11.4)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。口縁部に把手を有する。口縁部は区画文に沿って爪形文を施し，沈線間に交互刺突による横位と縦位の連続コの字文が施されている。胴部には無節縄文が施されている。	砂粒・長石・雲母 スコリア 褐色 普通	P108 5％ PL58 覆土 中峠式

図版番号	器　種	計測値(cm)			重　量	現存率	形状及び文様の特徴	備　考
		長　さ	幅	厚　さ	(g)	(%)		
第433図5	土器片錘	4.7	3.7	1.0	(25.0)	95	条線文。	DP22　覆土



第433図　第2499号土坑・出土遺物実測図

第2502号土坑（第434図）

位置　調査区の南東部，D15e1区。

重複関係　南側部分で第2512号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

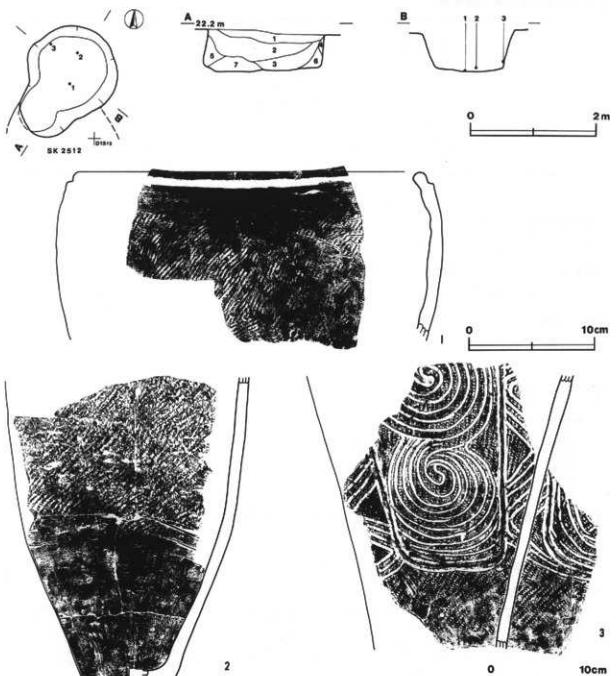
規模と平面形　長径1.86m，短径1.44mの不整楕円形で，深さは65cmである。

長径方向　N－47°－W

壁　外傾して立ち上がる。

底　平坦である。

覆土　7層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。



第434図　第2502号土坑・出土遺物実測図

土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量，ロ・ム小ブロック・炭化物少量
2 褐 色 ローム粒子・炭化物少量，ローム小ブロック中量
3 鳩 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック微量，炭化粒少量
4 にぶい褐色 ローム粒子多量，ローム中ブロック少量
5 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物少量
6 黒 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック微量，炭化物少量（3層より粒まりがあまい）
7 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化物微量

遺物 縄文上器片486点が出土している。第434図1の深鉢の胴部から口縁部の破片，2の深鉢の底部から胴部の破片，3の深鉢の胴部片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期前葉（堀之内I式期）と考えられる。

第2502号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備 考
第434図 1	深 鉢 縄文土器	A (27.6) B (13.4)	胴部から口縁部の破片。胴部は内彎する。口唇部直下に沈線が施されている。胴部には RL の単節縄文が施されている。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P110 10% P158 覆土 堀之内I式
2	深 鉢 縄文土器	B (32.8) C (9.8)	底部から胴部の破片。底部はわずかに底に突出する。胴部は外傾して立ち上がり，中位でわずかに内彎する。地文は単節縄文である。	砂粒 橙色 普通	P109 30% P158 覆土 堀之内I式
3	深 鉢 縄文土器	B (29.5)	胴部片。LR の単節縄文を地文に，縦帯で楕方形状に区画され，区画内に沈線による渦巻文が施されている。	砂粒 赤褐色 普通	P111 20% P158 覆土 堀之内I式

第2507号土坑（第435図）

位置 調査区の南東部，D14b0区。

重複関係 第2508号土坑を掘り込み，第2514号土坑に掘り込まれている。北西部分で第2513号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 径2.09mの円形と推定され，深さは80cmである。

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 6層に分層され，人為堆積と考えられる。

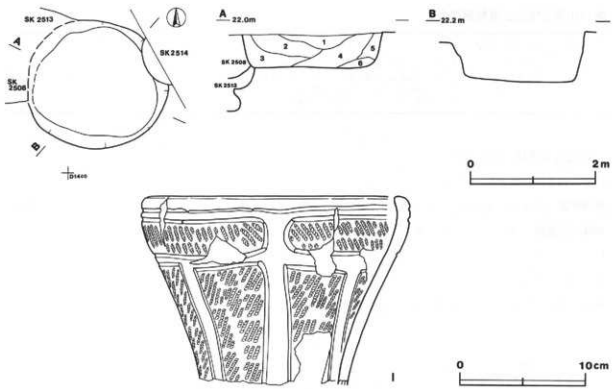
土層解説
1 黒褐色 ローム粒子・炭化物少量
2 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量，炭化物微量
3 黒褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
4 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量
5 褐 色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
6 暗褐色 ローム粒子少量

遺物 縄文土器片57点及び獣骨が出土している。第435図1の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利E II式期）と考えられる。

第2507号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備 考
第435図 1	深 鉢 縄文土器	A (21.0) B (15.0)	胴部から口縁部の破片。口縁部はわずかに内彎する。口唇部直下に沈線が横走し，沈線による長楕円形状の区画には RL の単節縄文が縦位に充填されている。胴部は沈線で逆U字状の区画文を描し，RL の単節縄文が縦位に充填されている。	砂粒 にぶい橙色 普通	P112 30% P158 覆土 加曽利E II式



第435図　第2507号土坑・出土遺物実測図

第2510号土坑（第436図）

位置　調査区の南東部，D14d9区。

重複関係　第431号住居跡・第2524号土抗を掘り込んでいる。

規模と平面形　長径0.43m，短径0.37mの楕円形で，深さは18cmである。

長径方向　N－0°

壁　外傾して立ち上がる。

底　皿状である。

遺物　縄文土器片８点が出土している。第436図１の台付鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。２は深鉢の胴部片で，胴部に条線文を斜行させ，押圧文をもつ紐線文が巡らされている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期後葉（安行２式期）と考えられる。

第436図　第2510号土坑・出土遺物実測図

第2510号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第436図 1	台付鉢 縄文土器	A (18.4) B (14.5)	胴部から口縁部の破片。胴部中位で大きく膨らみ，口縁部はわずかに外反する。口縁部はブタ鼻状突起とキザミをもつ隆帯により文様帯を区画し，RLの単節縄文を地文に弧状の沈線が施されている。胴部中位にキザミをもつ隆帯を巡らし，下部には斜行する条線文が施されている。	砂粒・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P113 20% PL58 覆土 安行2式

第2512号土坑（第437図）

位置　調査区の南東部，D15e1区。

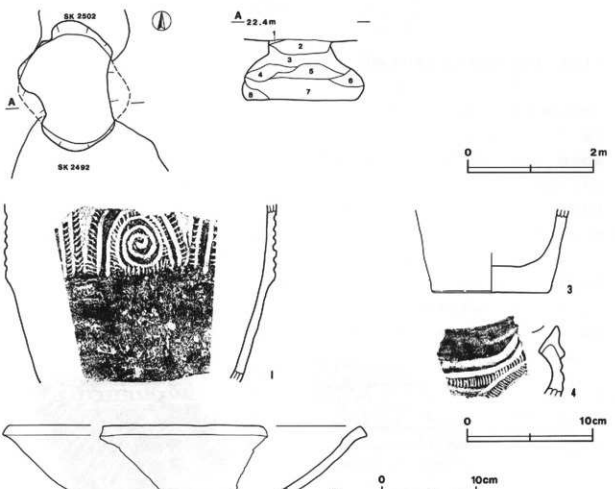
重複関係　北側部分で第2502号土坑と重複し，南側部分で第2492号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　径1.73mの円形と推定され，深さは95cmである。

壁　袋状である。

底　平坦である。

覆土　8層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。



第437図　第2512号土坑・出土遺物実測図

土層解説
1 暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化物微量
2 黒 褐 色　ローム粒子少量，炭化物微量
3 暗 褐 色　ローム粒子中量，炭化物微量
4 暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
5 黒 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物中量
6 褐　　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量
7 褐　　色　ローム粒子・ローム小ブロック多量
8 褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量

遺物　縄文土器片109点が出土している。第437図1の深鉢の胴部片，2の浅鉢の胴部から口縁部の破片，3の深鉢の底部片は覆土から出土している。4は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で，キザミをもつ隆帯が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

第2512号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第439図 1	深　鉢 縄文土器	B (14.2)	胴部片。胴部は外傾して立ち上がり，肥厚してほぼ垂直に立ち上がる。胴部にはキザミをもつ隆帯が垂直あるいは半円形状に施され，内側に沈線による渦巻文が施されている。	砂粒・長石・雲母にぶい橙色 普通	P114 10% PL58 覆土 中峠式併行
2	浅　鉢 縄文土器	A [37.0] B (7.6)	胴部から口縁部の破片。胴部は大きく外傾し，口縁部は外反する。無文である。	砂粒・長石・雲母赤褐色 普通	P115 10% 覆土 中峠式
3	深　鉢 縄文土器	B (6.7) C 9.2	底部片。底部は外傾して立ち上がる。無文である。	砂粒・長石・雲母にぶい黄橙色 普通	P116 10% PL58 覆土

第2514号土坑（第438図）

位置　調査区の南東部，D14b0区。

重複関係　西側部分で第2507号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　径〔1.23〕mの円形と推定され，深さは102cmである。

壁　外傾して立ち上がる。

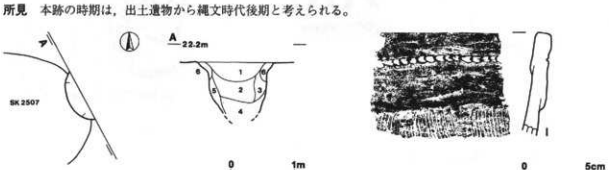
底　擂鉢状である。

覆土　6層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1 黒 褐 色　ローム粒子・炭化物微量
2 黒 褐 色　ローム粒子・炭化物少量
3 暗 褐 色　ローム粒子・ロームブロック少量
4 暗 褐 色　ローム粒子・炭化物微量
5 暗 褐 色　ローム粒子・ロームブロック少量
6 暗 褐 色　ローム粒子・ロームブロック中量

遺物　縄文土器片48点，獣骨片が出土している。第438図1は深鉢の胴部から口縁部の破片で，口縁部に結節沈線文が施され，胴部は縦位の条線文が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期と考えられる。



第438図　第2514号土坑・出土遺物実測図

第2515号土坑（第439図）

位置　調査区の南東部，D14d8区。

規模と平面形　径〔0.98〕mの不整円形と推定され，深さは46cmである。

長径方向　〔N－15°－E〕

壁　外傾して立ち上がる。

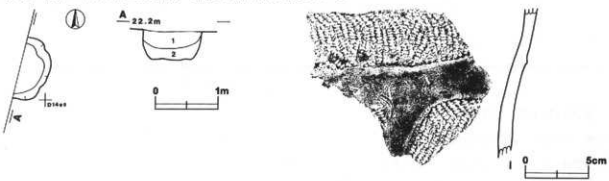
底　ほぼ平坦である。

覆土　2層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子・炭化物少量，ローム小ブロック微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック中量，炭化物微量

遺物　縄文土器片4点，獣骨片が出土している。第439図1は深鉢の胴部片で，微隆起線を施し，RLの単節縄文が充填されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期と考えられる。



第439図　第2515号土坑・出土遺物実測図

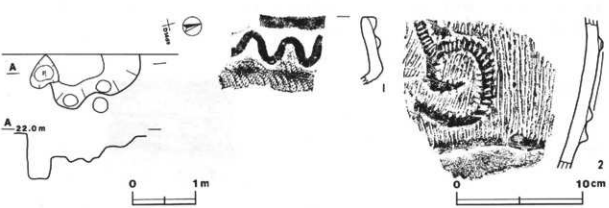
第2516号土坑（第440図）

位置　調査区の南東部，D14d9区。

規模と平面形　長径1.72m，短径(0.62)mの不定形で，深さは38cmである。

長径方向　〔N－8°－E〕

壁　緩やかに立ち上がる。



第440図　第2516号土坑・出土遺物実測図

底　凹凸である。

ピット　1か所。P_1は南壁際に位置し，長径53cm，短径43cmの不整形で，深さは72cmである。

遺物　縄文土器片60点が出土している。第440図1は深鉢の口縁部片である。地文はRLの単節縄文で，隆帯が波状に施されている。2は深鉢の胴部片で，キザミをもつ隆帯が縦手状に貼り付けられ，隆帯に沿って刺突文が施されている。地文は条線文である。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利E式期）と考えられる。

第2521号土坑（第441図）

位置　調査区の南東部，D14d9区。

重複関係　南側部分を第431号住居跡に掘り込まれ，第2522号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形　長径1.93m，短径(1.20)mの楕円形と推定され，深さは54cmである。

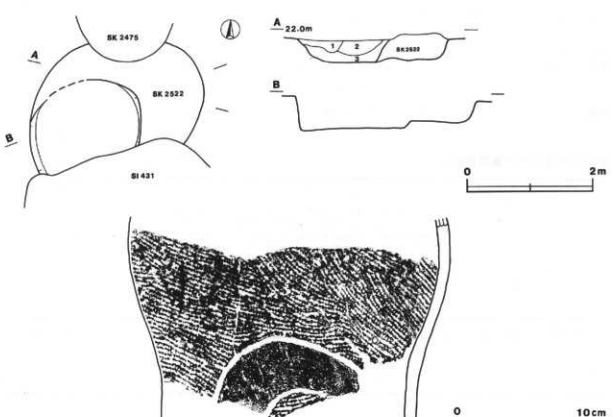
長軸方向　N－52°－E

壁　ほぼ垂直に立ち上がる。

底　ほぼ平坦である。

覆土　3層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　　ローム粒子・炭化物少量
2　暗褐色　　ローム粒子少量，炭化物微量
3　暗褐色　　ローム粒子中量，ロームブロック少量



第441図　第2521号土坑・出土遺物実測図

遺物　縄文土器片23点が出土している。第441図１の深鉢の胴部片は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅢ式期）と考えられる。

第2521号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第441図 1	深　鉢 縄文土器	(16.9)	胴部片。胴部はわずかに内彎する。沈線による曲線的な指法の磨消帯が施されている。縄文はＬＲの単節縄文である。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P117 30% P L59 覆土 加曽利ＥⅢ式

第2524号土坑（第442図）

位置　調査区の南東部，D14 e9 区。

重複関係　第431号住居跡の貼床下から検出されたことから，本跡が古い。

規模と平面形　径2.22mの円形で，深さは63cmである。

壁　袋状である。

底　平坦である。

ピット　２か所。P_1 は東部に位置し，径44cmの円形で，深さは16cmである。P_2 は南西部に位置し，径32cmの円形で，深さは23cmである。

覆土　７層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1　褐　色　　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化物少量
2　褐　色　　ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化物少量
3　褐　色　　ローム粒子・ローム小ブロック中量，炭化材・炭化物少量
4　暗褐色　　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量，炭化材少量，炭化物中量
5　褐　色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
6　褐　色　　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，炭化物少量
7　褐　色　　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量

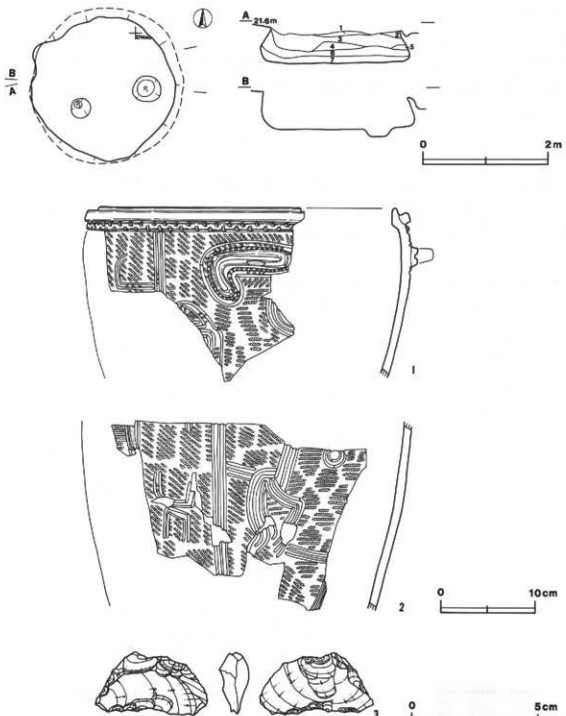
遺物　縄文土器片２点，剥片１点が出土している。第442図１・２の深鉢の胴部から口縁部の破片，３の剥片は覆土から出土している。１と２は接合しないが，同一個体の可能性がある。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

第2524号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第442図 1	深　鉢 縄文土器	A (31.0) B (18.4)	胴部から口縁部の破片。わずかに内彎する。口縁部には交互刺突による連続コの字文が施されている。胴部には口縁部下に隆帯が巡らされ，ＬＲの単節縄文を地文に３本１組沈線文が施され，沈線の施された隆帯がＬ字状に貼り付けられている。隆帯に沿ってペン先状工具による刺突文が施されている。	砂粒・長石・雲母 暗褐色 普通	P118A 20% P L59 覆土 大木８a式併行
2	深　鉢 縄文土器	B (20.4)	胴部片。ＬＲの単節縄文を地文に，２本あるいは３本１組の沈線により曲線的文様が描かれている。	砂粒・長石・雲母 暗褐色 普通	P118B 20% P L59 覆土 大木８a式併行

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第442図３	剥　片	2.7	4.6	1.2	(8.35)	黒　曜　石	Q22　覆土



第442図　第2524号土坑・出土遺物実測図

第2541号土坑（第443図）

位置　調査区の南東部，C14j7区。

重複関係　北西部分を第2845号土坑に掘り込まれている。南側部分で第2838号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　長径1.58m，短径1.46mの楕円形で，深さは12cmである。

長径方向　N－71°－E

壁　外傾して立ち上がる。

底　平坦である。

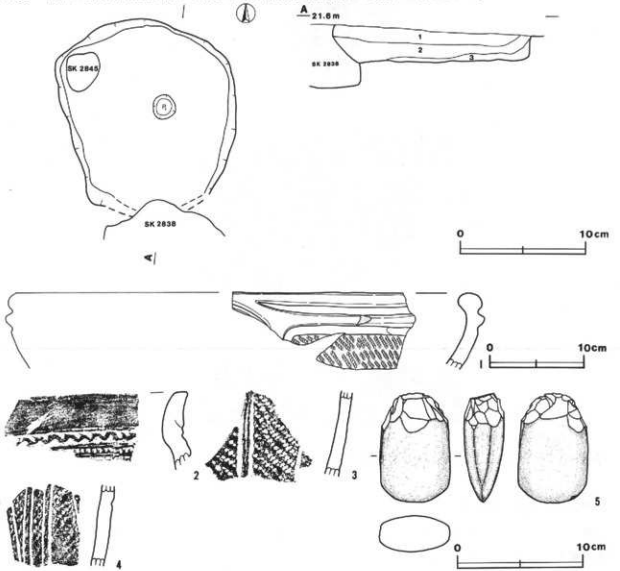
ピット　1か所。P_1は中央部に位置し，長径38cm，短径35cmの楕円形で，深さは47cmである。

覆土　3層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物少量
2　にぶい褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化物微量
3　褐　　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化物微量

遺物　縄文土器片351点，磨製石斧1点が出土している。第443図1の深鉢の口縁部片及び5の磨製石斧は覆土から出土している。2は深鉢の口縁部片で，交互刺突文が施されている。3は複節縄文を地文に沈線の磨消懸垂文が施されている。4はLRの単節縄文を地文とし，沈線文が縦位に施されている。4は混入したものである。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利EⅠ式期）と考えられる。



第443図　第2541号土坑・出土遺物実測図

第2541号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第443図 1	深　鉢 縄文土器	A (48.0) B (8.0)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部は隆帯により区画され，区画内にＲＬの単節縄文が充填されている。	砂粒 にぶい褐色 普通	P119 5% PL59 覆土 加曽利ＥⅠ式

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第443図5	磨製石斧	(8.7)	5.6	3.3	(214.0)	砂　岩	Q23 覆土

第2567号土坑（第444図）

位置　調査区の南東部，D14ｆ0区。

重複関係　第429号住居跡の北壁を掘り込んでいる。東側部分で第2428号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　長径〔0.72〕m，短径〔0.50〕mの楕円形と推定され，深さは45cmである。

長径方向　〔Ｎ－42°－Ｅ〕

壁　外傾して立ち上がる。

底　ほぼ平坦である。

覆土　4層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，炭化物微量
2　暗褐色　ローム粒子・ロームブロック・炭化物微量
3　暗褐色　ローム粒子・炭化物少量
4　褐　色　ローム粒子・ロームブロック中量

遺物　土偶1点が出土している。1のミミズク形土偶は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期後葉（安行1式期）と考えられる。

第444図　第2567号土坑・出土遺物実測図

第2567号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
第444図 1	土偶	11.8	6.2	3.1	(167)	80	頭部は縄文の施された隆帯で縁取りされ、ボタン状の目と口を表している。胴部は張り、脚部はくびれて脚部となる。腹部は割れ、中央部にボタン状の貼付文を施している。裏面は横位の沈線により区画されている。縄文は単節縄文である。赤彩痕。	D P 24 覆土 安行１式

第2764号土坑（第445図）

位置　調査区の南東部，D14 f 6 区。

重複関係　南東部分で第2810号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

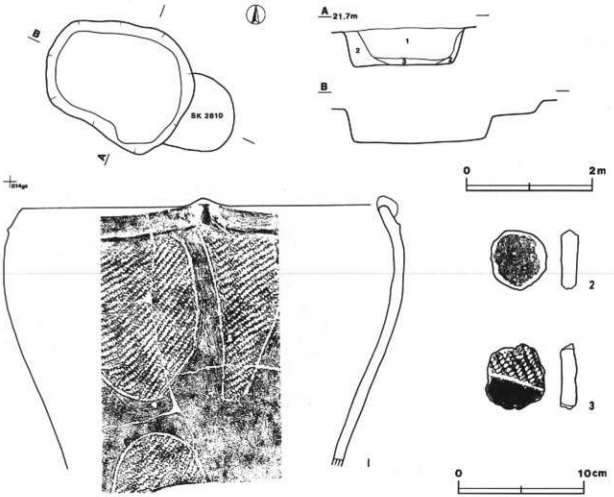
規模と平面形　長径2.37m，短径1.82mの楕円形で，深さは55cmである。

長径方向　N－64°－W

壁　ほぼ垂直に立ち上がる。

底　平坦である。

覆土　3層に分層され，堆積状況から自然堆積後，人為的に埋め戻されたと考えられる。



第445図　第2764号土坑・出土遺物実測図

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小・中・大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

遺物　縄文土器片139点，土器片円盤１点，土器片錘１点が出土している。第445図１の深鉢の胴部から口縁部の破片，２の土器片円盤，３の土器片錘は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅣ式期）と考えられる。

第2764号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第445図 1	深鉢 縄文土器	A (29.0) B (21.4)	胴部から口縁部の破片。小波状口縁を呈し，口縁部は内彎する。撚糸縄により幅狭の無文帯が区画される。胴部は２帯構成で，沈線によりU字状の文様が施されている。縄文はＲＬの単節縄文である。	砂粒・雲母にぶい褐色普通	P120 10% PL59 覆土 加曽利ＥⅣ式

図版番号	器種	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
第445図 2	土器片円盤	4.8	4.5	1.4	(33.0)	95	無文。	DP25 覆土
3	土器片錘	5.2	4.7	1.3	(37.0)	95	沈線及び単節縄文ＲＬ。	DP26 覆土

第2772号土坑（第446図）

位置　調査区の南東部，D14 e4区。

規模と平面形　径1.15mの円形で，深さは76cmである。

壁　ほぼ垂直に立ち上がる。

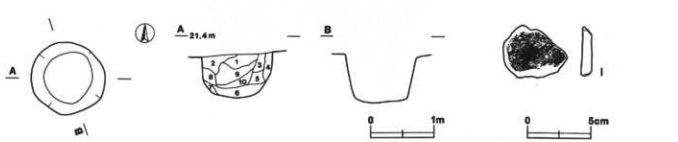
底　皿状である。

覆土　10層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられるが，撹乱されている可能性がある。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化物少量，焼土粒子中量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量，炭化物多量
3　褐　色　ローム粒子・焼土粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化物少量
4　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
5　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック多量，焼土粒子微量，炭化物少量
6　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物少量
7　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
8　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化物少量
9　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・炭化物中量，焼土粒子少量
10　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック多量，焼土粒子・炭化物中量

遺物　縄文土器片74点，土器片錘１点が出土している。第446図１の土器片錘は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期と考えられる。



第446図　第2772号土坑・出土遺物実測図

第2773号土坑（第447図）

位置　調査区の南東部，D14 e6 区。

規模と平面形　径2.53mの円形で，深さは76cmである。

壁　袋状である。

底　平坦である。

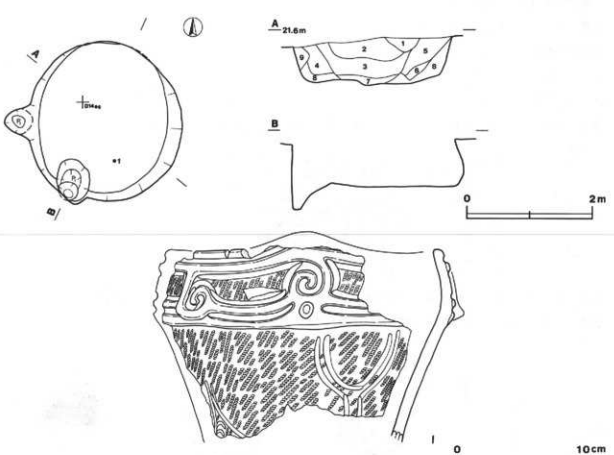
ピット　2か所。P_1 は南壁を掘り込み，長径69cm，短径51cmの楕円形で，深さは確認面から105cmである。P_2 は西壁を掘り込み，径44cmの円形で，深さは確認面から79cmである。

覆土　9層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・焼土ブロック・炭化粒子少量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子微量，炭化粒子少量
5　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子中量，粘土微量
7　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　褐　色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量

遺物　縄文土器片71点が出土している。1の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅠ式期）と考えられる。



第447図　第2773号土坑・出土遺物実測図

第2773号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第447図 1	深　鉢 縄文土器	A (21.0) B (15.4)	胴部から口縁部の破片。胴部は外傾し，口縁部はわずかに内彎する。波状口縁。口縁部は隆線と沈線で渦巻文及び区画文を描き，区画内にＬＲの単節縄文が施されている。口縁部と胴部は太い隆帯で区画され，胴部にはＬＲの羊歯縄文を地文に沈線が丫字状に施されている。	砂粒・長石・石英 スコリア にぶい橙色 普通	P121 20% PL59 覆土 加曽利ＥⅠ式

第2775号土坑（第448図）

位置　調査区の南東部，D14e4区。

規模と平面形　長径1.64m，短径1.17mの楕円形で，深さは36cmである。

長径方向　N－32°－W

壁　外傾して立ち上がる。

底　皿状である。

覆土　3層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

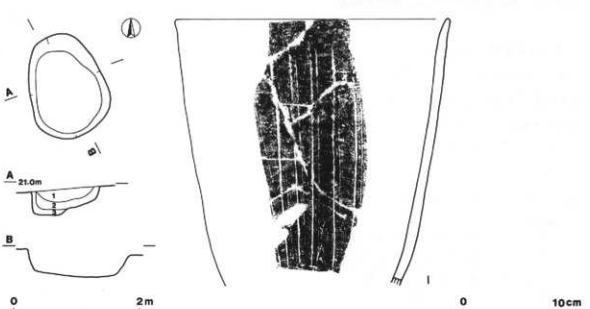
土層解説
1　黒褐色　　ローム粒子微量
2　暗褐色　　ローム粒子微量
3　暗褐色　　ローム粒子少量

遺物　縄文土器片31点が出土している。1の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期前葉（堀之内Ⅰ式期）と考えられる。

第2775号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第448図 1	深　鉢 縄文土器	A (29.0) B (27.9)	胴部から口縁部の破片。胴部はわずかに外傾して口縁部に至る。胴部には半截竹管による平行沈線文が縦位に施されている。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P122 25% PL59 覆土 堀之内Ⅰ式



第448図　第2775号土坑・出土遺物実測図

第2799号土坑（第449図）

位置　調査区の南東部，D14 a8 区。

規模と平面形　径1.30mの円形で，深さは30cmである。

壁　外傾して立ち上がる。

底　平坦である。

覆土　2層に分層されるが，攪乱のため堆積状況は不明である。

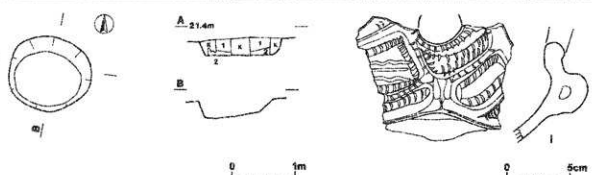
土層解説
1　褐　色　　ローム粒子中量，炭化粒子少量
2　褐　色　　スコリア微量

遺物　縄文土器片33点が出土している。第449図1の深鉢の口縁部片は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。

第2799号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第449図 1	深　鉢 縄文土器	B　(9.2)	把手を有する口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部はキザミをもつ隆帯に沿って爪形文が施されている。口縁部文様帯と胴部を区画する隆帯は下方に突出している。以下は無文である。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P123　5%　P.L59 覆土 阿玉台Ⅲ式



第449図　第2799号土坑・出土遺物実測図

第2807号土坑（第450図）

位置　調査区の南東部，D14 c8 区。

重複関係　第2808号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　径1.03mの円形で，深さは56cmである。

壁　袋状である。

底　平坦である。

覆土　5層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　　ローム粒子中量，地山粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　色　　ローム粒子・地山粒子中量，炭化粒子少量
3　褐　色　　ローム粒子多量，地山粒子少量，炭化粒子微量
4　褐　色　　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　明褐色　　ローム中ブロック多量

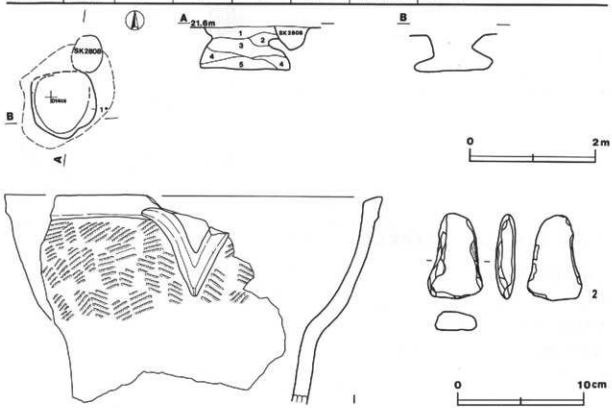
遺物　縄文土器片90点，打製石斧1点が出土している。第450図1の深鉢の胴部から口縁部の破片と2の打製石斧は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台Ⅳ式期）と考えられる。

第2807号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第450図 1	深鉢 縄文土器	A [30.0] B (16.7)	胴部から口縁部の破片。胴部下位はわずかに外傾して立ち上がり，中位で屈曲し，口縁部に至る。口縁部はわずかに肥厚し，隆帯によるV字状文を施している。地文は無節縄文である。	砂粒・雲母・石英 スコリア にぶい褐色 普通	P124 10% PL60 覆土 阿玉台Ⅳ式

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
第450図 2	打製石斧	6.8	4.4	1.5	(62.0)	緑色凝灰岩	Q26 覆土



第450図　第2807号土坑・出土遺物実測図

第2811号土坑（第451図）

位置　調査区の南東部，D14c7区。

規模と平面形　長径1.19m，短径0.90mの楕円形で，深さは22cmである。

長径方向　N－62°－W

壁　緩やかに立ち上がる。

底　皿状である。

覆土　2層に分層され，堆積状況は不明である。

土層解説
1　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
2　褐　色　焼土粒子・炭化粒子微量

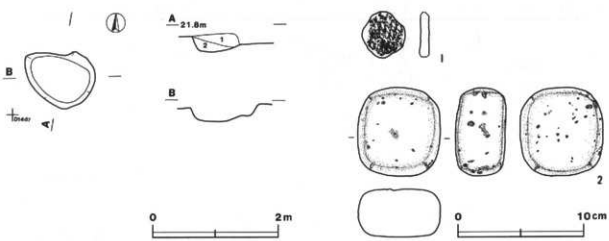
遺物　縄文土器片27点，土器片円盤1点，磨石1点が出土している。第451図1の土器片円盤，2の磨石は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期と考えられる。

第2811号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	現存率(%)	形状及び文様の特徴	備考
第451図1	土器片円盤	3.7	3.5	0.8	(12.0)	95	単節縄文RL。	DP30 覆土

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
第451図2	磨石	7.1	6.6	4.0	(327.0)	安山岩	Q27 覆土



第451図　第2811号土坑・出土遺物実測図

第2826号土坑（第452図）

位置　調査区の南東部，D14 e7 区。

重複関係　第2827号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形　径［1.88］mの円形と推定され，深さは63cmである。

壁　袋状である。

底　平坦である。

覆土　5層に分層され，覆土の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム中ブロック微量
4　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量

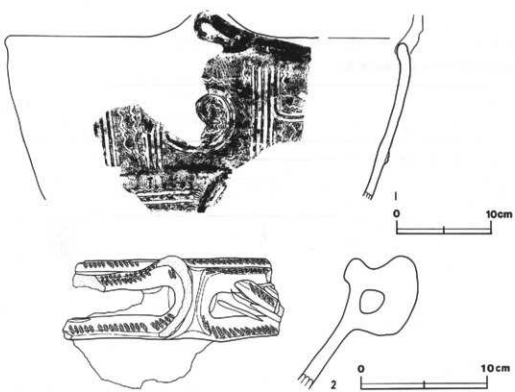
第452図　第2826・2827号土坑実測図

遺物　縄文土器片41点が出土している。第453図１・２の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台Ⅳ式）と考えられる。

第2826号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第453図 1	深鉢 縄文土器	A (12.0) B (19.8)	胴部から口縁部の破片，口縁部はわずかに内彎する。波状口縁。波頂部に隆帯で渦巻文が施されている。胴部に隆帯を巡して，口縁部文様帯を形成している。口縁部には沈線により文様が施されている。胴部には隆帯に沿ってキザミが施されている。	砂粒・長石・雲母にぶい赤褐色 普通	P125 10% PL60 覆土 阿玉台Ⅳ式
2	深鉢 縄文土器	B (10.3)	胴部から口縁部の破片。懸垂状把手を有し，口縁部は内彎する。把手を起点に，RLの羊歯縄文を施した隆帯を巡している。胴部は無文である。	砂粒・長石・石英スコリア にぶい褐色 普通	P126 10% PL60 覆土 阿玉台Ⅳ式



第453図　第2826号土坑出土遺物実測図

第2827号土坑（第452図）

位置　調査区の南東部，D14d7区。

重複関係　南側部分を第2826号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　径［0.75］mの円形と推定され，深さは69cmである。

壁　袋状である。

底　平坦である。

遺物　縄文土器片19点が出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物及び遺構の形態から縄文時代中期と考えられる。

第2839号土坑（第454図）

位置　調査区の南東部，D14 a8 区。

重複関係　北側部分で第2863号土坑と，西側部分で第2838号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　長径［3.00］m，短径［2.28］mの楕円形と推定される。深さは62cmである。

長径方向　N－86°－E

壁　緩やかに立ち上がる。

底　平坦である。

ピット　2か所。P_1は南側に位置し，長径56cm，短径49cmの楕円形で，深さは45cmである。P_2は中央部に位置し，径42cmの不整形で，深さは83cmである。

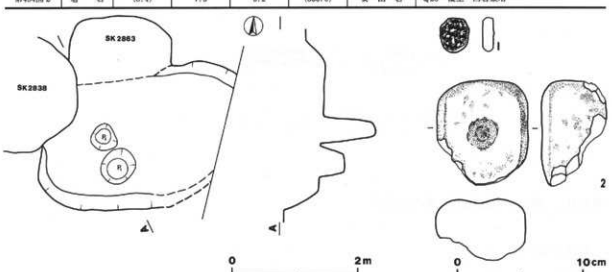
遺物　縄文土器片156点，土器片円盤1点，磨石1点が出土している。第454図1の土器片円盤，2の磨石は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期と考えられる。

第2839号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
第454図1	土器片円盤	2.7	2.3	0.9	(7.0)	95	単節縄文RL。	DP31　覆土

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
第454図2	磨石	(8.4)	7.3	5.2	(335.0)	安山岩	Q28　覆土　凹石兼用



第454図　第2839号土坑・出土遺物実測図

第2840号土坑（第455図）

位置　調査区の東部，C14 g5 区。

規模と平面形　径1.36mの円形で，深さは112cmである。

壁　外傾して立ち上がる。

底　擂鉢状である。

覆土　8層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

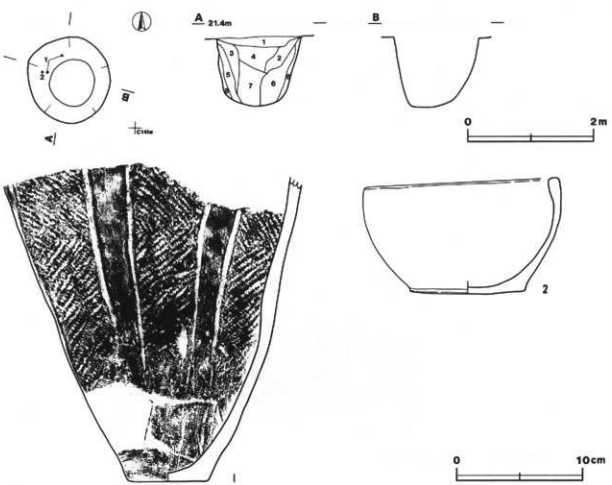
土層解説
1 暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色　ローム粒子・ローム中ブロック中量，炭化粒子微量
3 暗 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4 暗 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック中量
6 褐　　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
7 暗 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8 にぶい褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック中量，焼土粒子微量

遺物　縄文土器片11点が出土している。第455図1の深鉢の底部から胴部の破片と2の鉢は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利EⅡ式期）と考えられる。

第2840号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第455図 1	深　鉢 縄文土器	B (24.3) C 6.4	底部から胴部の破片。胴部は内彎気味に立ち上がる。RLの単節縄文を地文に，幅広の2本沈線の磨消懸垂文が施されている。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P127 55% PL60 覆土 加曽利EⅡ式
2	小形鉢 縄文土器	A 15.5 B 9.2 C 9.2	胴部は外傾して立ち上がり，上位で内彎し口縁部に至る。口唇部はやや肥厚する。無文である。	砂粒・長石・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P128 95% PL60 覆土 加曽利E式



第455図　第2840号土坑・出土遺物実測図

第2841号土坑（第456図）

位置　調査区の東部，C14 i7 区。

規模と平面形　長径2.13m，短径1.50mの楕円形で，深さは56cmである。

長径方向　N－55°－W

壁　袋状である。

底　平坦である。

ピット　1か所。北側に位置し，長径51cm，短径41cmの楕円形で，深さは77cmである。

覆土　4層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

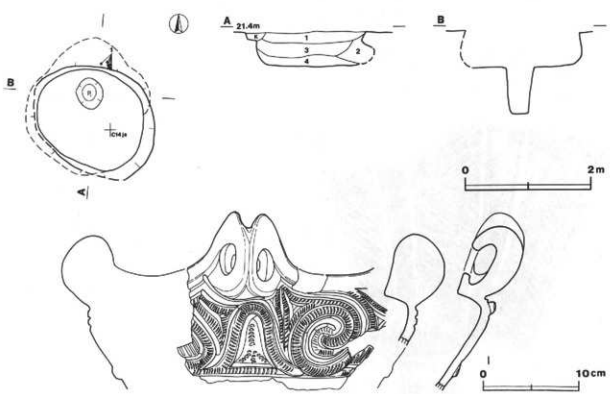
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子中量，焼土粒子少量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子微量，炭化粒子少量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子・ローム中ブロック中量，炭化粒子微量

遺物　縄文土器片70点が出土している。第456図1の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

第2841号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第456図 1	深　鉢 縄文土器	B (19.0)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。眼鏡状把手を有する。口縁部にはキザミをもつ隆帯により渦巻文，あるいは区画文が施され，区画内には沈線が充填されている。	砂粒・長石・雲母にぶい褐色 普通	P129 20% PL60 覆土下層 中峠式併行



第456図　第2841号土坑・出土遺物実測図

第2844号土坑（第457図）

位置　調査区の東部　C14 16 区。

規模と平面形　長径2.58m，短径2.22mの楕円形で，深さは90cmである。

長径方向　N－17°－E

壁　袋状である。

底　平坦である。

覆土　6層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子微量
4　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　色　ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

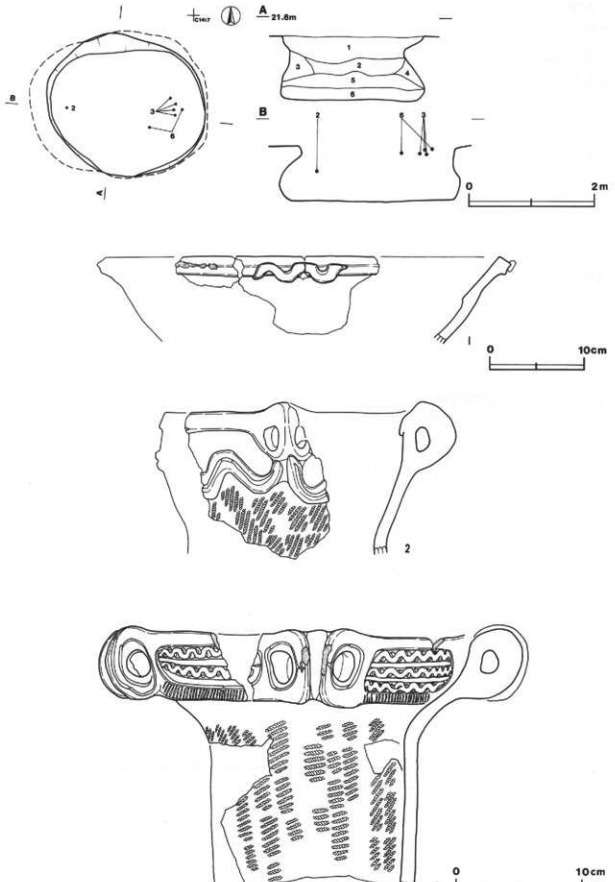
遺物　縄文土器片206点，土器片円盤1点が出土している。第457図1の浅鉢，2・3の深鉢の胴部から口縁部の破片，第458図4の深鉢の口部から胴部の破片，5の把手部片，6の深鉢の底部から胴部の破片及び9の土器片円盤は覆土から出土している。7は深鉢の口縁部片で，横位と斜位の沈線及び交互刺突文が施され，その上から沈線が施された隆帯が貼り付けられている。8は把手部片で，沈線による渦巻文及びキザミが施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

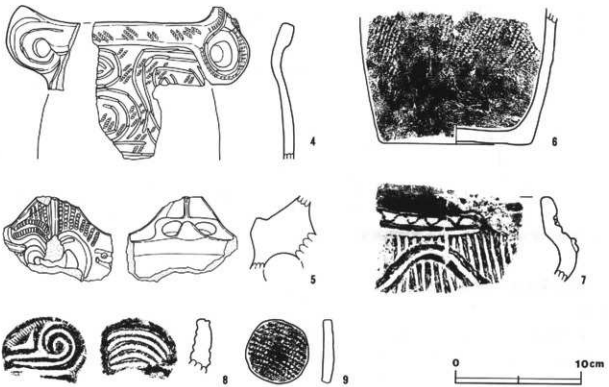
第2844号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	粘土・色調・焼成	備　考
第457図 1	浅　鉢 縄文土器	A (41.2) B (5.6)	胴部から口縁部の破片。キャリパー形の器形で，口縁部は外傾する。口唇部外面には隆帯が波状に貼り付けられている。赤彩痕。	砂粒・長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P131　5%　PL61 覆土
2	深　鉢 縄文土器	A (26.0) B (12.6)	胴部から口縁部の破片。口縁部はわずかに内彎する。眼鏡状把手を有する。口縁部には把手下から沈線の施された隆帯が波状に貼り付けられている。胴部には RL の単節縄文が施されている。	砂粒・長石・雲母・ 石英・スコリア 灰褐色 普通	P132　5%　PL61 覆土 中峠式併行
3	深　鉢 縄文土器	A 25.0 B (21.0)	胴部から口縁部の破片。胴部はほぼ垂直に立ち上がり，くびれて口縁部に至る。口縁部には4単位の橋状把手が付く。口縁部には沈線による長楕円形区画内に交互刺突文が施され，区画下にはキザミが施されている。胴部には RL の単節縄文が施されている。	砂粒・長石・ スコリア 橙色 普通	P130　30%　PL60 覆土 中峠式
第458図 4	深　鉢 縄文土器	A 10.5 B (12.1)	胴部から口縁部の破片。胴部は内彎し，口縁部はわずかに外反する。口縁部に2対の瓶脚状把手をもつ。全面に RL の単節縄文が施され，胴部には沈線による曲線的文様が描かれている。	砂粒・長石・雲母 褐色 普通	P131　30%　PL61 覆土 中峠式
5	深鉢把手 縄文土器	B (6.8)	眼鏡状把手破片。表側には結節沈線文及び沈線が施されている。裏側には2単位の大きめの円形刺突文が施されている。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P169　5% 覆土 中峠式
6	深　鉢 縄文土器	B (10.0) C 11.9	底部から胴部の破片。胴部は直線的に立ち上がる。地文は RL の単節縄文である。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P133　30%　PL61 覆土 中峠式

図版番号	器　種	計測値(cm)			重　量	現存率	形状及び文様の特徴	備　考
		長　さ	幅	厚　さ	(g)	(%)		
第458図9	土器片円盤	5.1	4.9	0.8	(29.0)	95	単節縄文LR。	DP32　覆土



第457図　第2844号土坑・出土遺物実測図（1）



第458図　第2844号土坑出土遺物実測図（2）

第2848号土坑（第459図）

位置　調査区の東部，C14g6区。

重複関係　南側部分で第2849号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形　長径1.97m，短径1.58mの楕円形で，深さは71cmである。

長径方向　N－44°－W

壁　外傾して立ち上がる。

底　平坦である。

ピット　2か所。P_1は南東壁際に位置し，長径55cm，短径44cmの楕円形で，深さは30cmである。P_2は北西壁際に位置し，長径58cm，短径24cmの不整楕円形で，深さは79cmである。

覆土　4層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

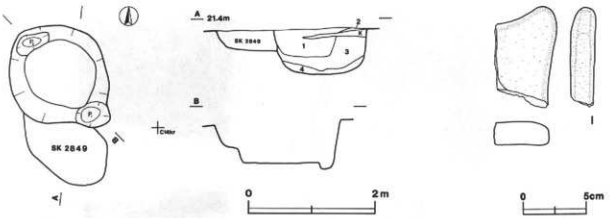
土層解説
1　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子・ローム少ブロック多量，焼土粒子中量，炭化粒子少量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　褐　色　ローム粒子・ローム中ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子微量

遺物　縄文土器片34点，岩版1点が出土している。第459図1の岩版は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物と覆土の類似から縄文時代中期と考えられる。

第2848号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第459図1	岩　版	7.9	5.0	1.9	(118.0)	砂　岩	Q29　覆土



第459図　第2848号土坑・出土遺物実測図

第2853号土坑（第460図）

位置　調査区の東部，C14g7区。

規模と平面形　長径3.27m，短径2.66mの楕円形で，深さは120cmである。

長径方向　N－77°－E

壁　袋状である。

底　ほぼ平坦である。

覆土　6層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

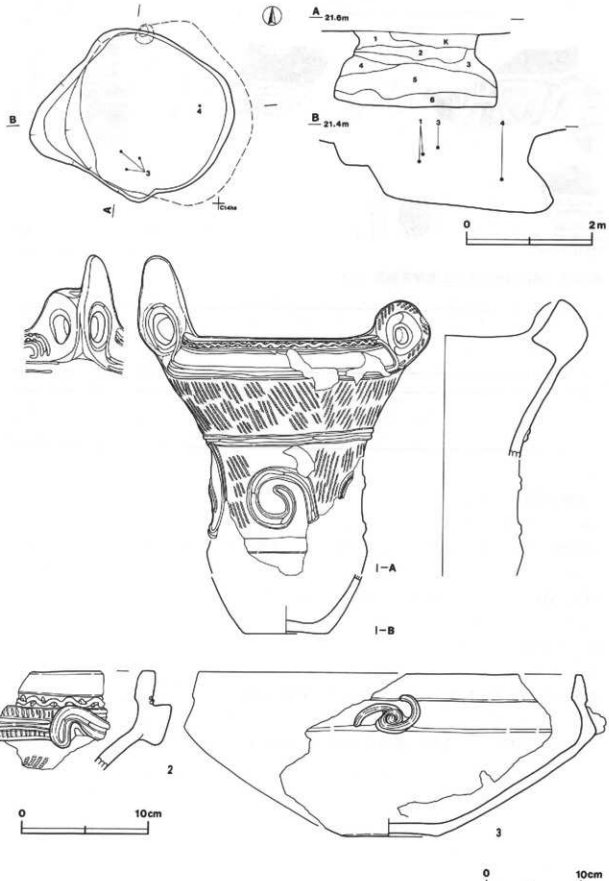
1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	4	黒褐色	ローム粒子・ロームブロック・炭化物少量
2	暗赤褐色	焼土粒子・焼土ブロック中量，炭化物少量	5	暗褐色	ローム粒子中量，ロームブロック少量
3	黒褐色	炭化物少量	6	黒褐色	ローム粒子・ロームブロック中量，炭化物微量

遺物　縄文土器片189点，土器片錘1点が出土している。第460図1の深鉢，2の深鉢の胴部から口縁部の破片，3の浅鉢の底部から口縁部片，第461図4の浅鉢の口縁部片及び9の土器片錘は覆土上層から中層にかけてから出土している。5～8は深鉢の口縁部片である。5はキザミ目をもつ隆帯及び沈線で区画されている。6は交互刺突文及び横位の沈線が施され，地文を条線文に，山形沈線文が施されている。7は横位の沈線及び交互刺突文が施され，RLの単節縄文の隆起手法の帯縄文には浅い沈線が施されている。8はキザミをもつ平行沈線，及びキザミをもつ隆帯が施されている。

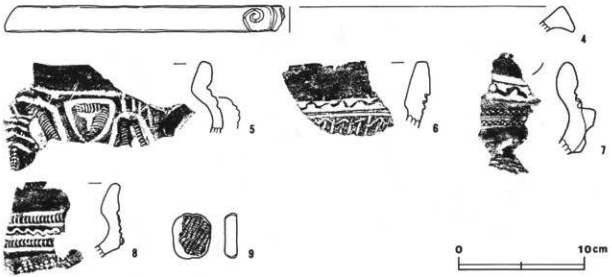
所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

第2853号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第460図 1	深鉢 縄文土器	(A) A 21.5 B (34.0) (B) B (6.3) C 9.0	胴曲底を呈し，口縁部はソロバン玉状で，大小二つの把手を有する。口縁部は把手から続く沈線により区画され，口容部直下に交互刺突文が施されている。区画内は無文である。地文は熱糸文で，隆帯により口縁部と胴部を区画している。胴部には，沈線をもつ隆帯が梨手状に施されている。	砂粒・長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P135 A-B P L61 80% 覆土上層 中峠式併行 AとBは同一個体
2	深鉢 縄文土器	B (8.4)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。口縁部には，交互刺突文及びキザミ目が施され，沈線の施された隆帯が横S字状に施されている。胴部にはRLの単節縄文が施されている。	砂粒・長石・雲母 石英・スコリア にぶい褐色 普通	P170　5% 覆土 中峠式併行
第461図 3	浅鉢 縄文土器	A [39.6] B 17.3 C 10.0	底部から口縁部片。胴部は外反して立ち上がり，口縁部は屈曲して内傾する。口縁部には隆帯による渦巻文が施されている。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P136　25%　P L61 覆土上層 中峠式併行



第460図　第2853号土坑・出土遺物実測図（1）



第461図　第2853号土坑出土遺物実測図（2）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第461図 4	浅鉢 縄文土器	A (57.2) B (2.7)	口縁部片。沈線による渦巻文が施されている。赤彩痕。	砂粒・長石・雲母に富い褐色 普通	P137　5% 覆土中層 中峠式併行

図版番号	器種	計測値(cm)			重量	現存率	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ	(g)	(%)		
第461図9	土器片錘	3.7	3.2	0.9	(14.0)	95	単節縄文RL。	DP33　覆土

第2854号土坑（第462図）

位置　調査区の東部，C14i8区。

重複関係　西側部分を第2855号土坑に掘り込まれている。北側部分で第2856号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　長径2.00m，短径1.44mの不定形で，深さは44cmである。

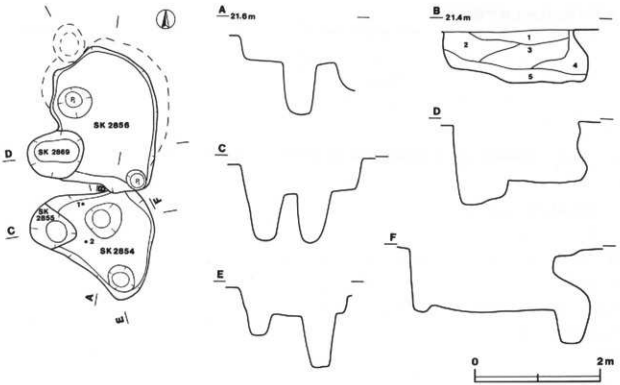
長径方向　N－59°－W

壁　ほぼ垂直に立ち上がる。

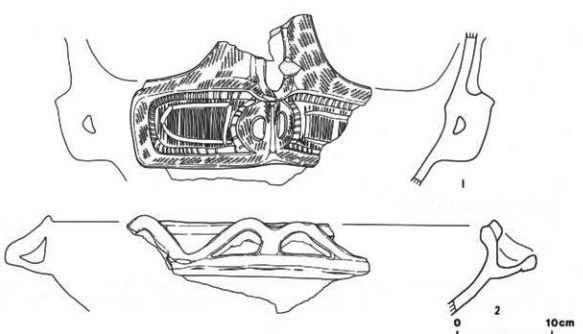
底　平坦である。

遺物　縄文土器片49点が出土している。第463図1の深鉢の口縁部片及び2の浅鉢の胴部から口縁部の破片は，覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。



第462図　第2854・2856号土坑実測図



第463図　第2854号土坑出土遺物実測図

第2854号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第463図 1	深鉢 縄文土器	B (18.0)	山形状把手をもつ口縁部片。LRの単節縄文が施された把手につながる隆帯で区画文が施されている。区画に沿って押引き刺突文が施され，区画内に縦位の細い沈線が施されている。	長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P138 5% PL61 覆土 中峠式併行
2	浅鉢 縄文土器	A (45.4) B (9.5)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。口縁部に隆帯が山形状に貼り付けられている。	砂粒・石英・雲母 スコリア にぶい褐色 普通	P139 20% PL61 覆土 中峠式併行

第2856号土坑（第462図）

位置　調査区の東部，C14i8区。

重複関係　南西部分を第2869号土坑に掘り込まれている。南側部分で第2854号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　長径2.31m，短径1.63mの楕円形で，深さは100cmである。

長径方向　N－28°－W

壁　袋状である。

底　平坦である。

ピット　2か所。P_1は南東壁際に位置し，径34cmの円形で，深さは12cmである。P_2は北西壁際に位置し，径54cmの円形で，深さは30cmである。

覆土　5層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，炭化物微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，炭化物微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，炭化物微量
4　暗褐色　ローム粒子少量，ロームブロック中量
5　褐　色　ローム粒子少量，ロームブロック中量

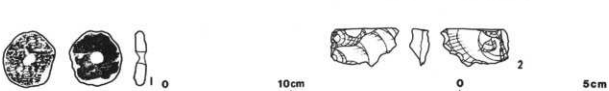
遺物　縄文土器片428点，土器片円盤1点及び剥片1点が出土している。第464図1の土器片円盤と2の剥片は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物及び遺構の形態から縄文時代中期と考えられる。

第2856号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	現存率(%)	形状及び文様の特徴	備考
第464図1	土器片円盤	4.4	4.1	0.9	(23.0)	95	単節縄文LR。	DP34 覆土

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
第464図2	剥片	2.65	1.5	1.35	(2.62)	黒曜石	Q30 覆土



第464図　第2856号土坑出土遺物実測図

第2858号土坑（第465図）

位置　調査区の南東部，D14 a 5 区。

重複関係　第2870号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形　長径2.30m，短径（1.30）mの楕円形と推定され，深さは75cmである。

長径方向　N－43°－W

壁　ほぼ垂直に立ち上がる。

底　平坦である。

覆土　3層に分層され，堆積状況は不明である。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子多量，・ローム小ブロック・炭化粒子中量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，炭化粒子少量

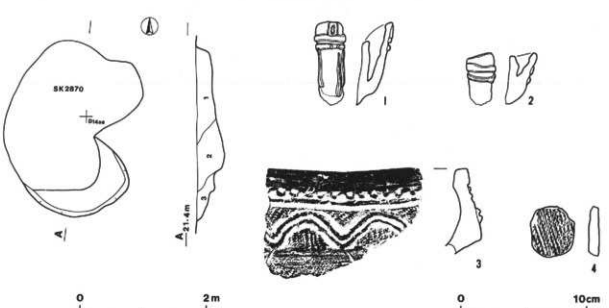
遺物　縄文土器片239点，土器片円盤1点が出土している。第465図1・2の把手と4の土器片円盤は覆土から出土している。3は浅鉢の口縁部片で，交互刺突文を施している。地文はRLの単節縄文で，沈線をもつ隆帯が波状に施されている。4は土器片円盤である。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

第2858号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第465図 1	深　鉢 縄文土器	B（6.8）	把手部片。細い粘土紐が横位と縦位に貼り付けられている。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P140　5% 覆土 中峠式併行
2	深　鉢 縄文土器	B（4.3）	把手部片。細い粘土紐が横位に施されている。	砂粒・長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P141　5% 覆土 中峠式併行

図版番号	器　種	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備　考
第465図 4	土器片円盤	4.0	3.05	0.9	(16.0)	95	燃糸文。	D P35　覆土



第465図　第2858号土坑・出土遺物実測図

第2859号土坑（第466図）

位置　調査区の東部，C14h7区。

重複関係　北西部分で第2860号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　長径2.63m，短径2.15mの楕円形で，深さは116cmである。

長軸方向　N－84°－E

壁　袋状である。

底　平坦である。

ピット　1か所。P_1は東壁際に位置し，長径80cm，短径70cmの不整楕円形で，深さは16cmである。

覆土　11層に分層され，人為堆積と考えられる。

土層解説

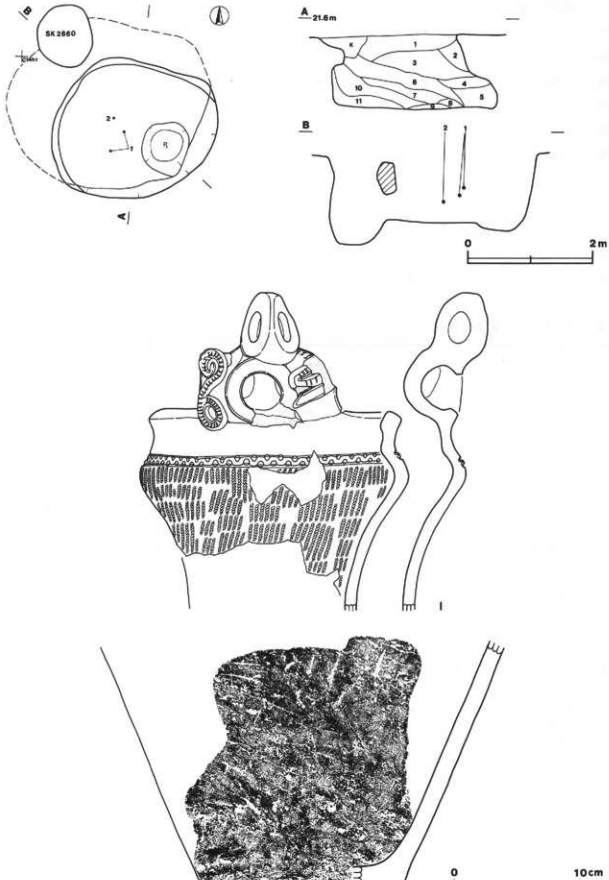
1　褐　色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　　ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
3　褐　色　　ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　　焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　色　　ローム中ブロック中量
6　褐　色　　ローム粒子・ローム小ブロック多量，ローム中ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
7　暗　色　　ローム小ブロック少量
8　褐　色　　ローム小ブロック少量
9　褐　色　　ローム中ブロック中量（5層より締まりが強い）
10　褐　色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　褐　色　　ローム小ブロック・ローム中ブロック少量

遺物　縄文土器片159点が出土している。第466図1の深鉢の胴部から口縁部の破片及び2の深鉢の底部から胴部の破片は覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

第2859号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第466図 1	深　鉢 縄文土器	A　20.1 B　(25.4)	胴部から口縁部の破片。キャリパー形の器形で，口縁部に組紐状把手が1か所付く。把手にキザミ目をもつ隆帯がS字状に貼り付けられている。口縁部は無文である。口縁部と胴部は変互刺突による連続コの字文で区画され，胴部にはRLの単節縄文が施されている。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P142　30%　PL61 覆土中層 中峠式
2	深　鉢 縄文土器	B　(19.1) C　[15.6]	底部から胴部の破片。胴部は外傾して立ち上がる。無文である。	砂粒・長石・雲母・ 石英・スコリア にぶい黄橙色 普通	P143　10%　PL61 覆土中層



第466図　第2859号土坑・出土遺物実測図

第2862号土坑（第467図）

位置　調査区の南東部，D14 a1 区。

重複関係　南西部分で第2785号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　径2.34mの円形と推定され，深さは49cmである。

壁　外傾して立ち上がる。

底　皿状である。

覆土　4層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子少量，炭化物微量
2　褐　色　ローム粒子中量，ロームブロック少量
3　褐　色　ローム粒子多量，ロームブロック中量
4　褐　色　ローム粒子多量，ロームブロック少量

遺物　縄文土器片32点，剥片1点が出土している。第467図1・2の深鉢は底面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台Ⅳ式期）と考えられる。

第2862号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第8図 1	深　鉢 縄文土器	A (32.0) B (42.0)	胴部から口縁部の破片。胴部は直線的に立ち上がり，口縁部には4か所の山形状の把手をもつ。全面にLRの単節縄文が施されている。キサミ目をもつ断面三角形の隆帯により口縁部文様帯が構成され，胴部は無文で，断面カマボコ状の隆帯及び沈線により胴部と区画されている。胴部には丁度状の突起を有する隆帯が貼り付けられ，隆帯に沿って沈線が施されている。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P144　40%　P162 底面 阿玉台Ⅳ式
2	深　鉢 縄文土器	A (22.4) B (28.5) C　9.5	胴部は直線的に立ち上がり，口縁部はわずかに外傾する。地文はLRの単節縄文で，2本の隆帯により口縁部文様帯が作られ，隆帯に沿って曲線的な沈線文が描かれている。胴部には沈線により蕨手文が施されている。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P145　60%　P162 底面 阿玉台Ⅳ式

第2867号土坑（第468図）

位置　調査区の南東部，D14 a7 区。

規模と平面形　径1.64mの円形で，深さは85cmである。

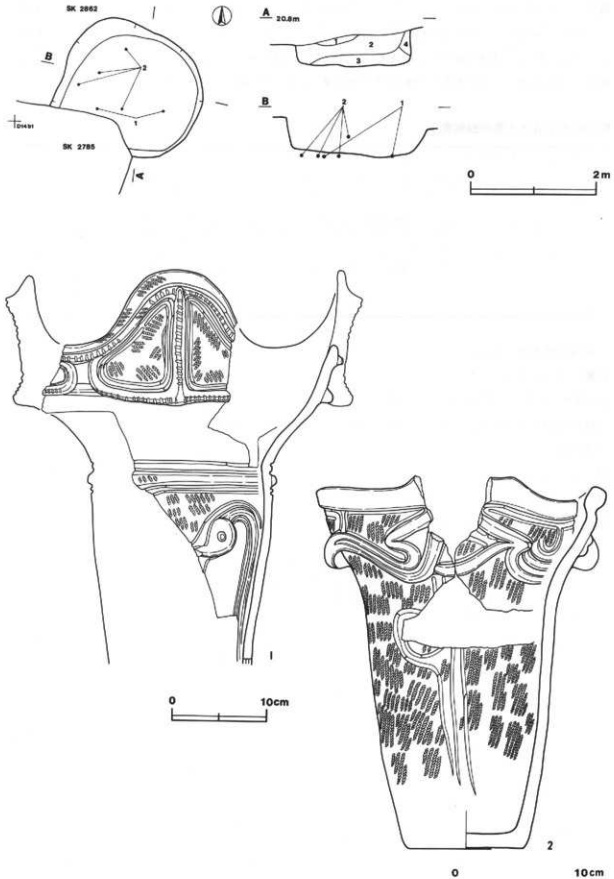
壁　袋状である。

底　平坦である。

覆土　6層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子少量，炭化物微量
2　黒褐色　ローム粒子・炭化物微量
3　黒褐色　ローム粒子・炭化物少量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ロームブロック少量
5　暗褐色　ローム粒子・ロームブロック中量
6　褐　色　ローム粒子・炭化物少



第467図　第2862号土坑・出土遺物実測図

遺物　縄文土器片422点が出土している。1は浅鉢の底部片口縁部の破片で，底面から出土している。第468図2の深鉢の口縁部片，3の深鉢の把手部片は覆土から出土している。4・5は深鉢の口縁部片である。4は幅広の爪形文及び波状沈線が施されている。5は爪形文及び沈線が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。

第2867号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第468図 1	浅鉢 縄文土器	A (51.4) B 16.0	底部から口縁部片。底部は小さい。口縁部には4単位と推定される突起をもつ。羽状痕。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P146 40% PL62 底部 阿玉台Ⅲ式
2	深鉢 縄文土器	B (7.0)	口縁部片。隆帯を渦巻状に貼り付けた突起をもつ。突起から続く隆帯が口縁部に下がり，口縁部には半截竹管による連続沈線文及び山形沈線文が施されている。	砂粒・長石・雲母 赤褐色 普通	P171 2% 覆土 阿玉台Ⅲ式
3	深鉢 縄文土器	B (10.7)	把手部片。隆帯により文様を施し，隆帯に沿ってキザミが施されている。	砂粒・長石・ スコリア にぶい赤褐色 普通	P174 2% 覆土 阿玉台Ⅲ式

第2870号土坑（第469図）

位置　調査区の南東部，D13j5区。

重複関係　南側部分で第2858号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形　長径2.03m，短径［1.50］mの不定形で，深さは92cmである。

長径方向　N－0°

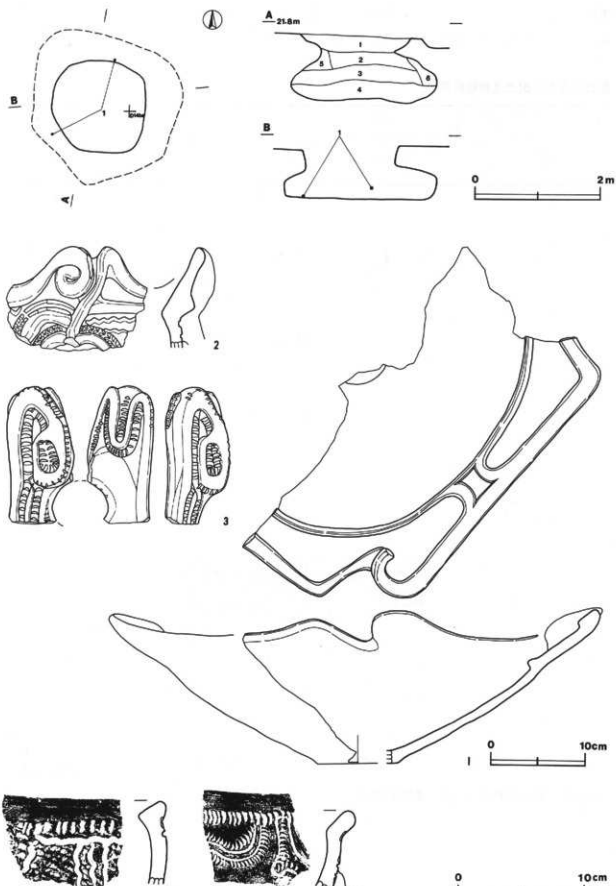
壁　袋状である。

底　皿状である。

覆土　4層に分層され，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，焼土粒子微量，炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子中量，焼土粒子少量
3　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック多量，炭化粒子少量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量



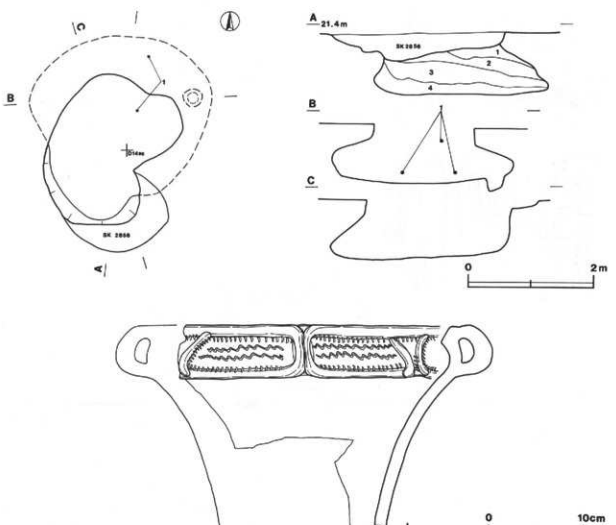
第468図　第2867号土坑・出土遺物実測図

遺物　縄文土器片37点が出土している。第469図１の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。

第2870号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第469図 1	深　鉢 縄文土器	A〔31.0〕 B〔21.9〕	胴部から口縁部の破片。口縁部に横状把手を有し，把手につながる隆帯で口縁部に楕円形区画文が施され，区画内に爪形文及び山形沈線文が施されている。口縁部文様帯と胴部を区画する隆帯は下方に突出している。胴部は無文である。	砂粒・長石・雲母にぶい褐色 普通	P147　15%　PL62 覆土下層 阿玉台Ⅲ式



第469図　第2870号土坑・出土遺物実測図

第2871号土坑（第470図）

位置　調査区の東部，C14h3 区。

重複関係　西側部分で第2875号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　径1.51mの円形と推定され，深さは61cmである。

壁　袋状である。

底　皿状である。

ピット　2か所。P_1 は北壁際に位置し，径38cmの円形で，深さは83cmである。P_2 は東壁際に位置し，径24cmの円形で，深さは23cmである。

覆土　4層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

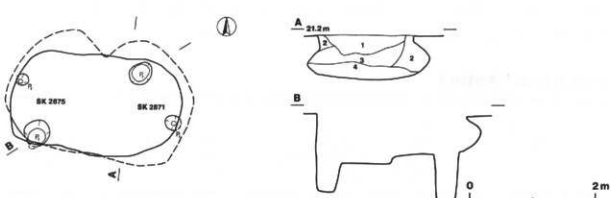
土層解説
1　暗褐色　　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　　ローム小ブロック微量
3　褐　色　　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　　ローム粒子少量

遺物　縄文土器片80点が出土している。第471図1の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

第2871号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第471図 1	深　鉢 縄文土器	B　(8.1)	胴部から口縁部の破片。沈線の施された隆帯による渦巻文が施された突起をもつ。口縁部には隆帯による山形文が施されている。口縁部と胴部はキザミをもつ隆帯で区画され，胴部には縦位の条線が施されている。	砂粒・長石・石英 雲母 にぶい橙色 普通	P172　5％ 覆土 中峠式併行



第470図　第2871・2875号土坑実測図

第471図　第2871号土坑出土遺物実測図

第2875号土坑（第470図）

位置　調査区の東部，C14h3区。

重複関係　東側部分で第2871号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　径1.44mの円形と推定され，深さは80cmである。

壁　袋状である。

底　平坦である。

ピット　2か所。P_1は南壁際に位置し，径42cmの円形で，深さは49cmである。P_2は西壁際に位置し，径20cmの円形で，深さは42cmである。

所見　本跡の時期は，遺構の形態から縄文時代と考えられる。

第2899号土坑（第472図）

位置　調査区の東部，C14e5区。

重複関係　南側部分で第2903号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　径1.53mの円形で，深さは64cmである。

壁　袋状である。

底　皿状である。

覆土　3層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

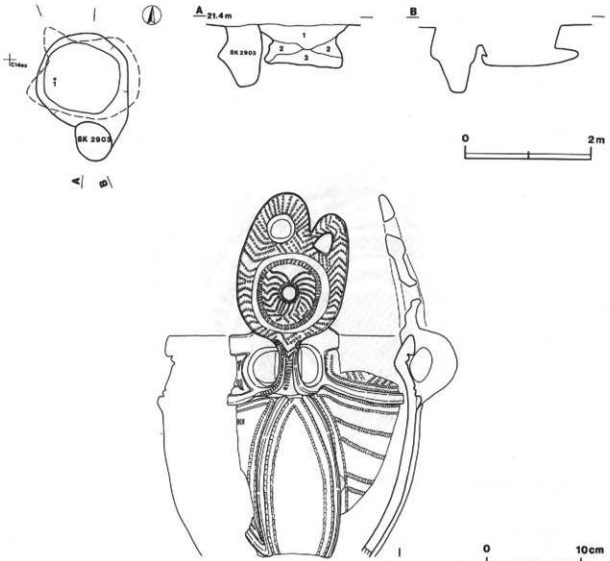
土層解説
1　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　縄文土器片153点が出土している。第472図1の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。

第2899号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第472図 1	深鉢 縄文土器	A (25.0) B (28.0)	胴部から口縁部の破片。胴部は内湾する。口縁部に，頂部が双環で，孔をもつ把手を有し，全面に刺突文が施されている。隆帯による口縁部区画文内には，半截竹管による結節沈線文が施されている。胴部には断面カマボコ状の隆部を垂下させ，隆帯に沿って半截竹管による結節沈線文が施されている。横位の結節沈線文もみられる。	砂粒・長石・雲母 褐色 普通	P148 20% P162 覆土 阿玉台Ⅱ式



第472図　第2899号土坑・出土遺物実測図

第2900号土坑（第473図）

位置　調査区の北東部，B14ｊ5区。

規模と平面形　径1.53mの円形で，深さは45cmである。

壁　ほぼ垂直に立ち上がる。

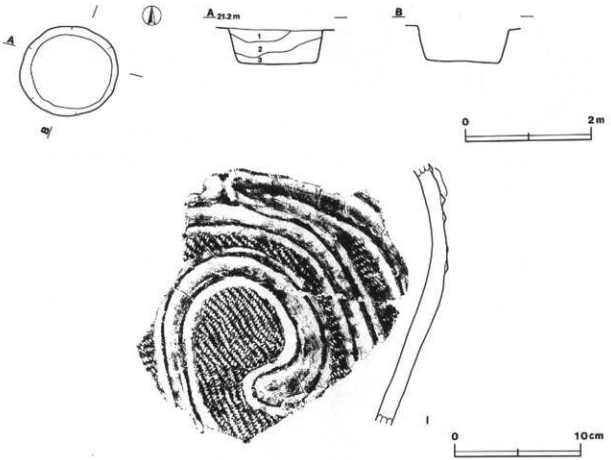
底　平坦である。

覆土　3層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　縄文土器片50点が出土している。第473図1は深鉢の口縁部付近の破片で，2本1組の微隆起線文により渦巻文を施し，地文としてＲＬの単節縄文が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利Ｅⅲ式期）と考えられる。



第473図　第2900号土坑・出土遺物実測図

第2905号土坑（第474図）

位置　調査区の東部，C14e3区。

規模と平面形　長径2.04m，短径1.64mの楕円形で，深さは54cmである。

長径方向　N－46°－E

壁　外傾して立ち上がる。

底　皿状である。

覆土　4層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　極暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

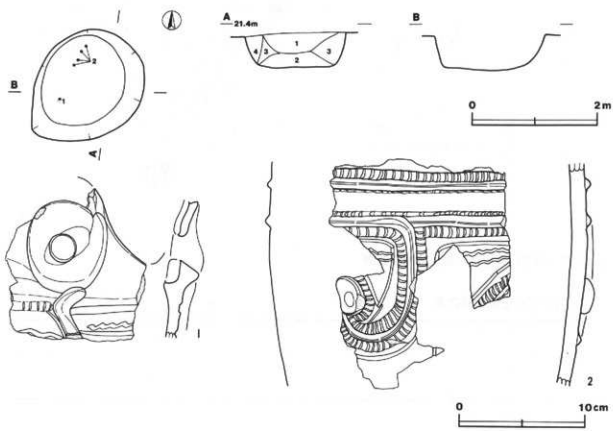
遺物　縄文土器片35点が出土している。第474図1の把手をもつ口縁部片と2の深鉢の胴部片は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。

第2905号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第474図 1	深鉢 縄文土器	B (11.1)	把手をもつ口縁部片。断面三角形状の隆帯が孔を巡り，口縁部の隆帯につながる。口縁部には押引き刺突文及び山形沈線文が施されている。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリアにぶい赤褐色 普通	P173　2% 覆土 阿玉台Ⅲ式

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第474図 2	深　鉢 縄文土器	B（18.1）	胴部片。隆帯が横位あるいはJ字状に施され，隆帯に沿って幅広の爪形文が施されている。区画内に隆帯による山形沈線文が施されている。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P149 10% 覆土 阿玉台Ⅱ式



第474図　第2905号土坑・出土遺物実測図

第2910号土坑（第475図）

位置　調査区の東部，C14g2区。

重複関係　南側部分を第2909号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長径0.86m，短径0.47mの不定形で，深さは98cmである。

長径方向　N－45°－W

壁　ほぼ垂直に立ち上がる。

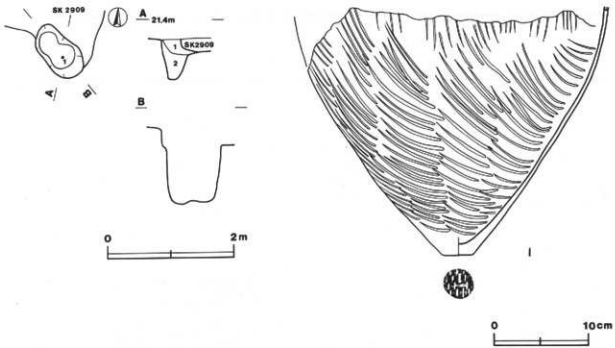
底　凹凸である。

覆土　2層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量
2　暗褐色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

遺物　縄文土器片2点が出土している。第475図1の深鉢の底部から胴部の破片は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期後葉（安行2式期）と考えられる。



第475図　第2910号土坑・出土遺物実測図

第2910号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第475図 1	深　鉢 縄文土器	B (26.4) C　3.0	底部から胴部の破片。底部は小さく，胴部には斜行する条線文が施されている。	砂粒・長石・パミス にぶい橙色 普通	P150　30%　PL62 覆土 安行2式

第2912号土坑（第476図）

位置　調査区の東部，C14b4区。

重複関係　南西部分で第2916号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　長径1.36m，短径1.15mの楕円形で，深さは41cmである。

長径方向　N－39°－W

壁　ほぼ垂直に立ち上がる。

底　平坦である。

覆土　2層に分層され，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　縄文土器片66点が出土している。第476図1の浅鉢は底面付近から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅠ式期）と考えられる。

第2912号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第476図 1	浅　鉢 縄文土器	A　27.8 B　16.5 C　10.7	胴部上位でくの字状に屈曲し，口縁部は内傾する。屈曲部から口縁部にかけてＲＬの単節縄文が施されている。	砂粒・長石・石英・ パミス・雲 褐色 普通	P151　90%　PL62 底面 加曽利ＥⅠ式